

上天草市第3次総合計画

[2024(令和6)～2031(令和13)年度]



上天草市



はじめに

上天草市では、平成26年3月に「人と海がふれあうまち～地域資源を活かした、新しいまちの上質な価値の創造～」を将来像とした上天草市第2次総合計画を策定し、市民と行政の協働によるまちづくりを進めてきました。

この計画策定から10年が経過しようとしている今、産業全体での就業者数の減少に加え、若い世代の転出超過や出生数の減少などにより人口減少が進んでいます。また、その間、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う、急激な社会環境の変化やDX（デジタル・トランスフォーメーション）の進展、脱炭素をはじめとする地球温暖化に対する意識の高まりなど、私たちの暮らしを取り巻く環境が著しく変化してきました。

このような変化の激しい中であっても、市民が安心して住み続けたいと思える上天草市をつくるため、本市の課題に正面から向き合い、着実に対策を進めていく必要があります。このため、時代のニーズを的確に把握したうえで、本市の地域資源を有効に活用し、地域の課題解決に取り組み、市民の皆様が幸せを実感できる持続可能なまちを実現するために、新たに上天草市第3次総合計画を策定しました。令和6年度をスタートとする本計画においても、引き続き「人と海のふれあうまち」を将来像とし、市民の暮らしの質を高めていくとともに、市民一人ひとりが安心して生活できる環境を整え、未来を担う子どもや若者が住みたくなる、選ばれる「上天草市」を目指して着実に取組を進めてまいります。

最後に、本計画の策定にあたり、住民アンケートにご回答くださった方や第3次総合計画策定のワーキング会議や上天草市振興計画審議会の構成員の方々、市議会議員の皆様、その他ご協力いただいた全ての皆様に心から感謝申し上げます。



令和6年3月

上天草市長 堀江隆臣

目次

■ 第1部 序論

第1章 計画策定にあたって	1
1 計画策定の趣旨	1
2 計画の役割	1
3 計画の構成・期間	2
4 その他の計画との関連性	3
5 SDGsのまちづくりの推進	4
6 計画の進行管理	4
第2章 上天草市の現況・課題	5
1 上天草市の現状・特性	5
2 住民アンケート・中学生アンケートからみた視点	14
3 まちづくりの重点課題	17
第3章 上天草市を取り巻く社会動向	19
第4章 新たなまちづくりの基本的考え方	24

■ 第2部 基本構想

第1章 まちの将来像	29
1 まちの将来像	29
2 目指すまちのすがた(イメージ)	30
3 まちづくりの目標指標	31
第2章 将来像の実現に向けた施策体系	34
1 施策の展開方針／施策体系	34
2 重点プロジェクトについて	35
3 基本目標／横断的目標	36

■ 第3部 前期基本計画

上天草市第3次総合計画 前期基本計画【施策体系図】	45
計画のみかた	46
前期基本計画	
基本目標 1 生活環境を守る（都市基盤）	47
基本施策(1) 都市基盤・道路交通	48
基本施策(2) 防災・防犯・交通安全	52
基本施策(3) 住宅・定住促進	56
基本施策(4) 環境保全・環境衛生	60
基本目標 2 人を育てる（教育文化）	64
基本施策(5) 学校教育	65
基本施策(6) 社会教育・歴史文化	69
基本施策(7) 人権・交流	73
基本目標 3 活力を生む（産業）	77
基本施策(8) 農林水産業	78
基本施策(9) 商工業・産業開発	82
基本施策(10) 観光	86
基本目標 4 安心する暮らしをつくる（健康福祉）	91
基本施策(11) 健康・医療	92
基本施策(12) 児童福祉・子育て支援	96
基本施策(13) 高齢者・障がい者福祉	100
基本施策(14) 地域福祉	104
基本目標 5 絆をつなぐ（住民自治・行政）	107
基本施策(15) 住民自治・コミュニティ	108
基本施策(16) 行財政運営	112
横断的目標	118
横断的施策 1 DXの推進	119
横断的施策 2 ゼロカーボンシティの推進	121
資料編	
1 計画の策定経過	122
2 語句解説集	125

第1部 序論

第1章 計画策定にあたって

第2章 上天草市の現況・課題

第3章 上天草市を取り巻く社会動向

第4章 新たなまちづくりの基本的考え方

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

平成16年3月31日に4町が合併し、上天草市が誕生しました。本市においては、これまで「上天草市総合計画」及び「上天草市第2次総合計画」に基づき、「人と海のふれあうまち」をキャッチフレーズに掲げ、民間・地域団体等と協力して、積極的にまちづくりに係る各種施策に取り組んできました。

近年では、我が国を取り巻く社会・経済情勢は大きく変化しており、予想を上回る速さでの少子高齢化の進行や人口減少社会の到来、AIやIoTなどのデジタル技術の進展、地球温暖化などの環境問題の顕在化、新型コロナウイルス感染症といった新たなリスクの発生による生活様式の変化等が急速に進んでいます。本市においても、人口減少や少子高齢化の急速な進行など、これまでも認識されてきた課題に加え、多様化する社会情勢の変化、公共サービスに対する住民ニーズの高まり、SDGsに向けた取組の必要性など、新たに対応すべき課題が次々に発生しています。

そして、現在の第2次総合計画は、令和5年度末に計画終期を迎えることから、本市を取り巻く環境の変化等に対応するため、第2次総合計画に基づく各種施策を検証するとともに、新たな視点と将来展望に立つ「上天草市第3次総合計画」を策定するものです。

2 計画の役割

上天草市第3次総合計画は、本市が目指す今後8年間の将来像を示し、その実現に向けたまちづくりの基本目標などを総合的かつ体系的にまとめ、長期展望に立った「まちづくり」の最上位に位置づけられる計画であり、主な計画の役割として以下の2つの指針を持った計画となります。

総合的かつ計画的な行政運営の指針

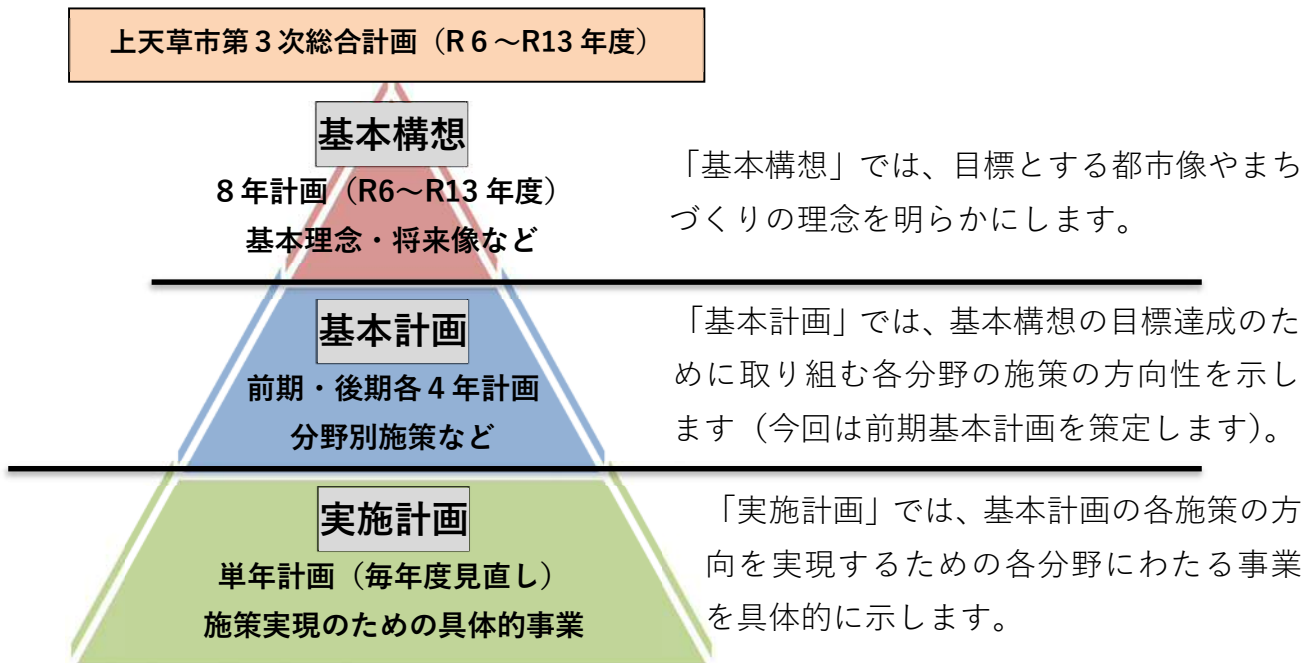
持続可能な行財政基盤の確立に向けて、経営的な視点で、「選択と集中」による効果的・効率的な施策の展開を図り、行政経営の指針となる計画

まちづくりに関わる多様な主体の行動指針

市民が計画策定に関与しわかりやすい計画とすることで、まちづくりに取り組む多様な主体が、目指す将来像を共有し、ともにまちづくりに関わり行動するための計画

3 計画の構成・期間

上天草市第3次総合計画は、「基本構想」、「基本計画」及び「実施計画」で構成します。本計画書では基本構想と基本計画（前期基本計画）について記載しています。



【計画の期間】

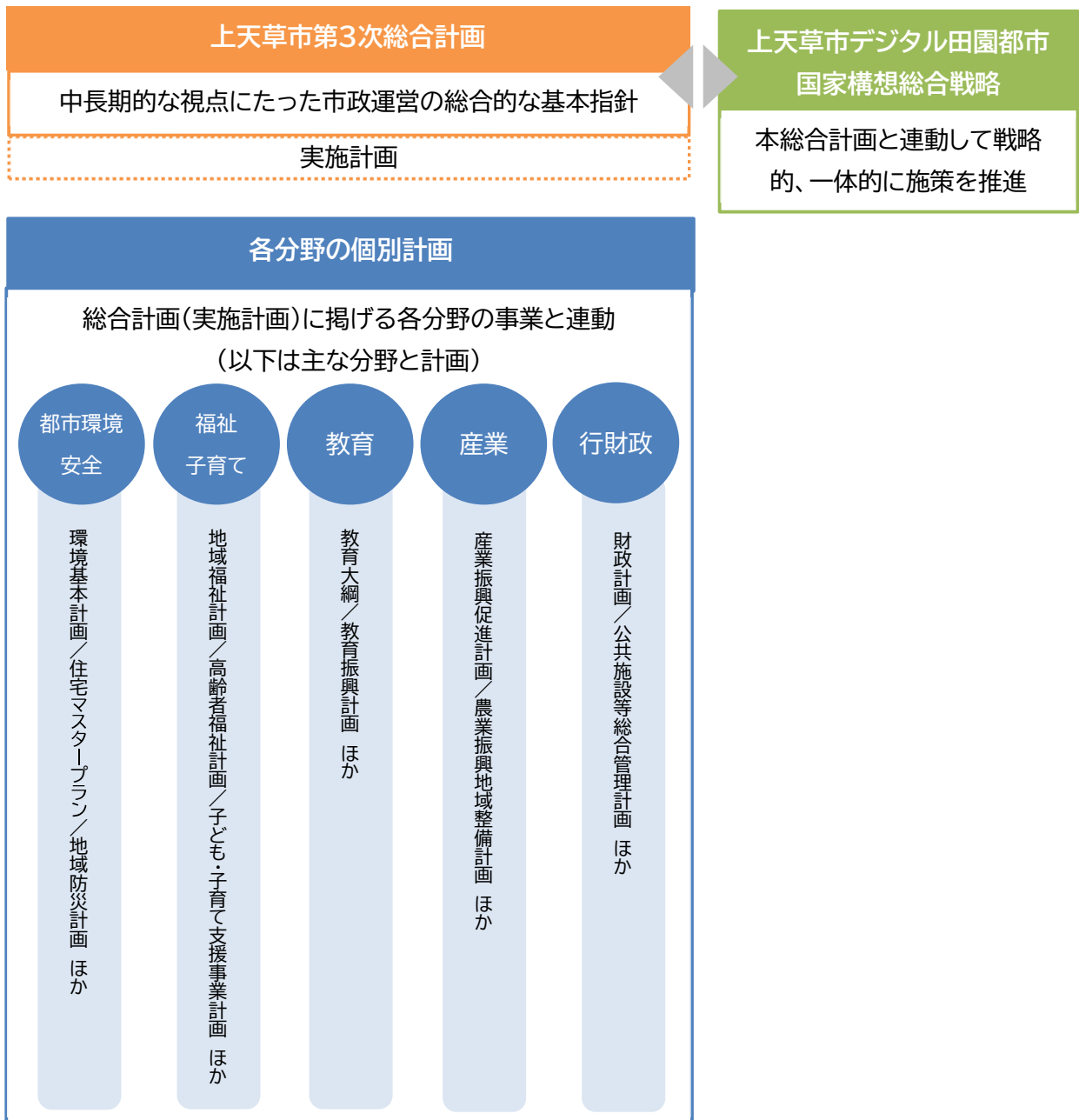
	前期				後期			
	2024 令和6	2025 令和7	2026 令和8	2027 令和9	2028 令和10	2029 令和11	2030 令和12	2031 令和13
基本構想	基本構想（8年間）							
基本計画	前期基本計画（4年間）				後期基本計画（4年間）			
実施計画								

4 その他の計画との関連性

上天草市第3次総合計画は、市政運営を総合的に進めるための基本的な方向性を示す計画であり、各分野の個別計画の具体的な取組については、本総合計画（実施計画）に掲げるそれぞれの分野の事業と連動し取り組みます。

なお、本市の地方創生に関わる計画である「上天草市デジタル田園都市国家構想総合戦略（令和6年度～令和9年度）」については、本市の総合的な戦略に位置づけられることから、本総合計画の基本的な指針と連動して推進するものとし、具体的な事業については総合計画の実施計画の中で戦略的、一体的に施策を推進するものとします。

■ 上天草市第3次総合計画とその他の計画との関連性



5 SDGsのまちづくりの推進

SDGs（「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略）とは、平成 27（2015）年の国連サミットにおいて採択されたもので、「持続可能な開発目標」として、貧困や飢餓、さらには気候変動や平和など広範な分野にわたって 17 の目標が設定されています。その理念は「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、発展途上国のみならず先進国も含め全ての国や関係者の役割を重視し、経済・社会及び環境の 3 領域を不可分なものとして調和させる統合的取組について合意されたものです。

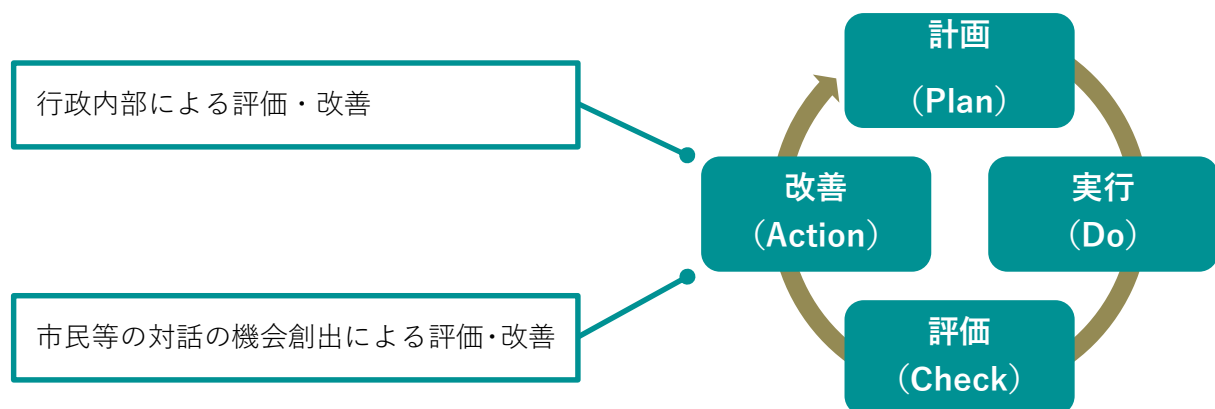
本市は、2022（令和 4）年に内閣府から「SDGs 未来都市」及び国へ提案したプロジェクトの内容が「自治体 SDGs モデル事業」に選定され、同年に「上天草市 SDGs 未来都市計画」を策定し、同計画に基づく取組を推進しているところです。

上天草市第 3 次総合計画では、市の実情に応じた SDGs の推進による持続可能な社会づくりを目指し、「上天草市 SDGs 未来都市計画」に掲げる取組を施策に反映するとともに各施策に関連する SDGs の目標を示しながらまちづくりを推進します。

6 計画の進行管理

上天草市第 3 次総合計画を着実に進めていくために、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Action）のサイクルを適切に行いながら、毎年度、事業の検証と見直しを行います。また、行政内部の視点による評価だけでなく、市民や多様な人々による外部評価により計画の内容を多角的な視点から見直し、推進していく仕組みをつくります。

【計画を推進する 2 つのアクション】



第2章 上天草市の現況・課題

1 上天草市の現状・特性

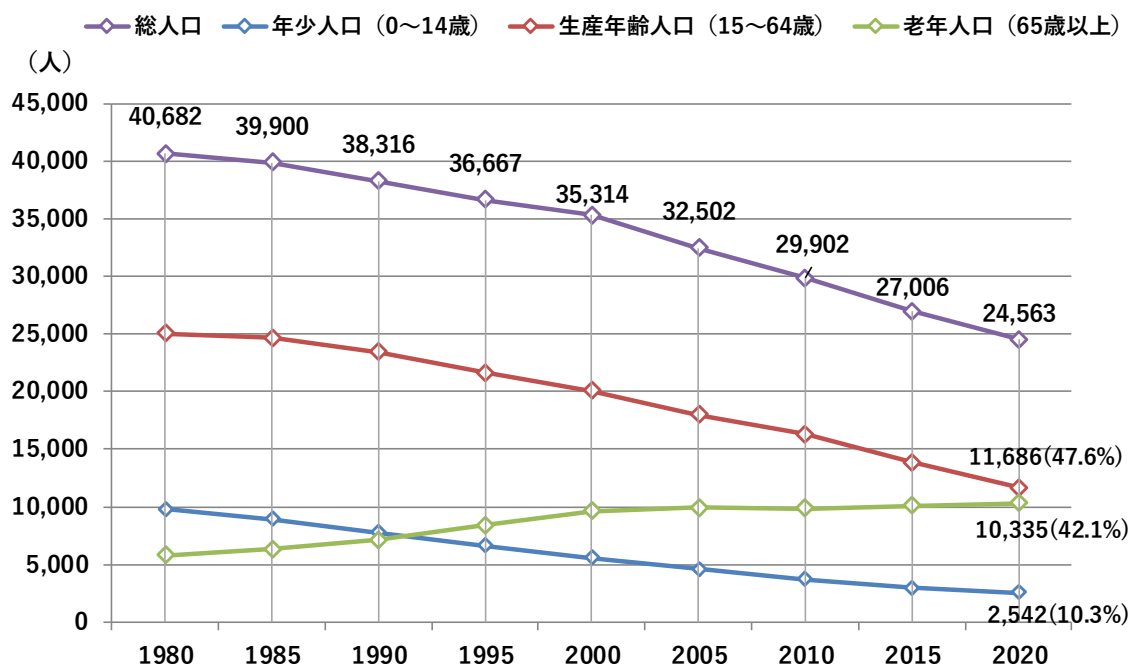
(1) 人口

人口減少が加速し、高齢化がさらに進む

本市の人口は減少傾向を続けており、2020（令和2）年の国勢調査で24,563人となっています。2015（平成27）年から2020（令和2）年の人口増減率は-9.0%となっており、周辺自治体と比較して減少率は高くなっています。

年齢3区分人口の推移をみると、老年人口の増加が顕著となっており、2020（令和2）年の実績値では42.1%となっています。周辺自治体と比較すると少子化・高齢化は進んでおり、今後は生産年齢人口の減少が予測され、高齢化率の高まりが懸念されます。

■年齢3区分別人口数の実績値と推計値



【資料】総務省「国勢調査」（2020年）

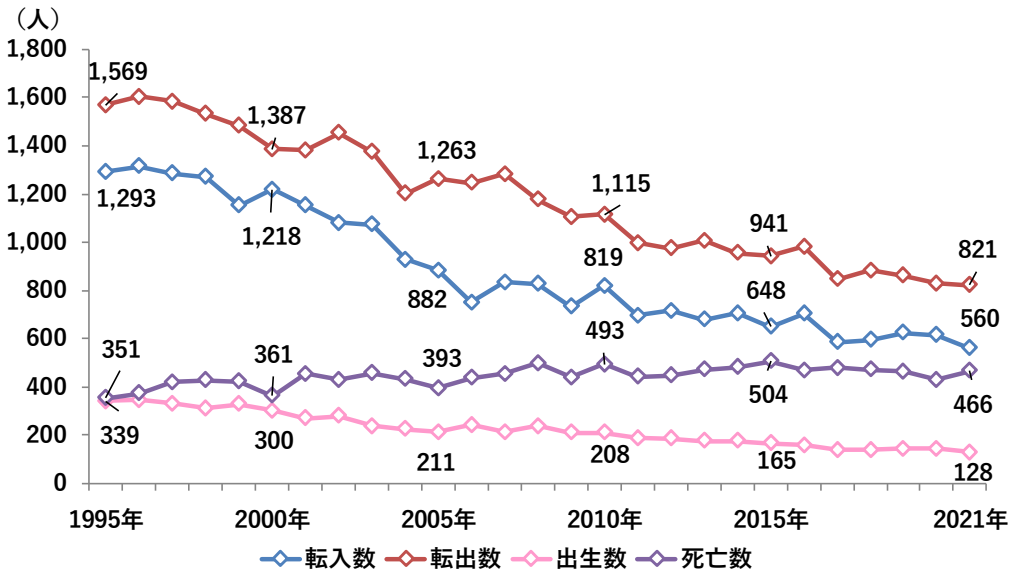
若年層の人口流出が多く、転入・転出ともに熊本市が多い

本市の自然増減は、高齢化の進行に伴い、近年、死亡数が増加し、自然減の傾向が拡大しています。社会増減については、近年では転出数が転入数を上回る社会減の傾向が続いています。

年齢階層別の人口移動の推移をみると、近年は「10～14歳→15～19歳」で大幅な転出超過となっており、市外への進学、就職などによる影響と考えられます。

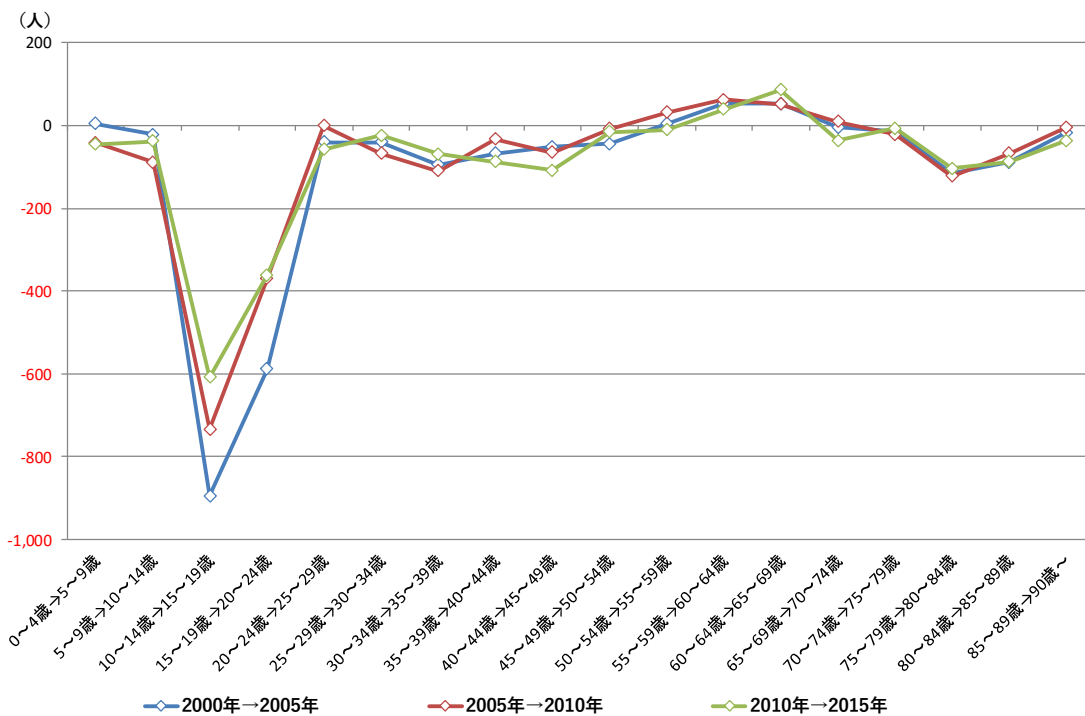
主な自治体別転入元、転出先をみると、転入・転出ともに、熊本市が多くなっています。

■出生・死亡数、転入・転出数の推移



【資料】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」(2021年)

■年齢階層別人口移動数の推移



【資料】総務省「国勢調査」(2015年)

※RESAS 地域経済分析システム

■自治体別人口移動の状況（主な転入・転出先）※2015～2020年まで人口移動数

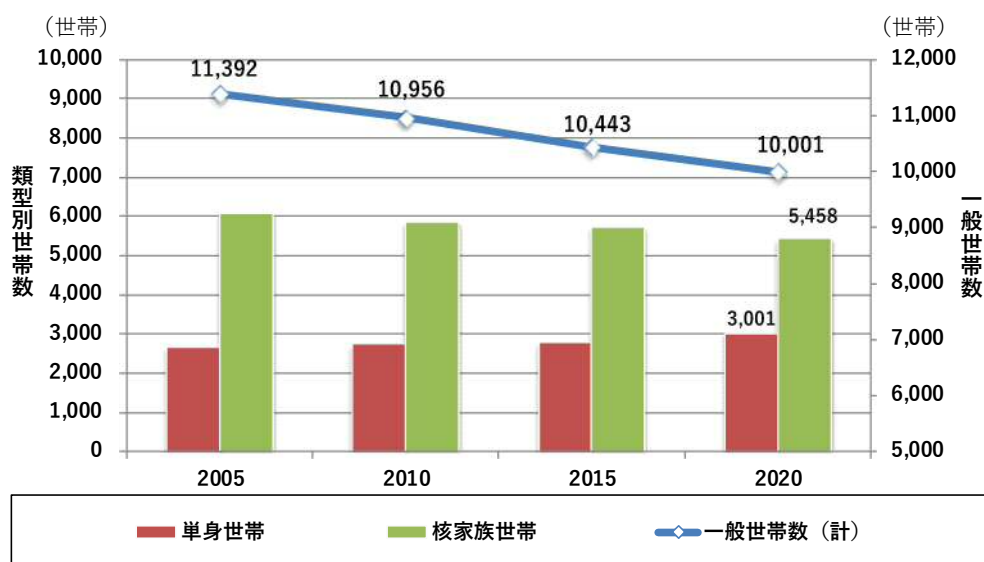
(転入元)		単位：人	(転出先)		単位：人
自治体名	総数		自治体名	総数	
熊本市	343		熊本市	-781	
天草市	173		天草市	-267	
宇城市	81		宇城市	-174	
福岡市	39		宇土市	-135	
宇土市	31		八代市	-80	
八代市	24		福岡市	-61	

【資料】総務省「国勢調査」（2020年）

高齢者の単身世帯、高齢者のみの世帯の増加が進む

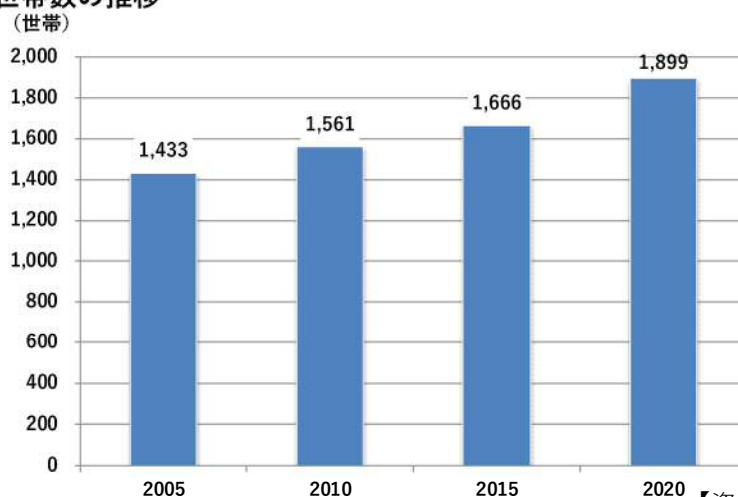
一般世帯数は微減しており、2020（令和2）年の国勢調査では、10,001世帯となっています。一方、高齢者単身世帯が増加しています。

■世帯数の推移



【資料】総務省「国勢調査」（2020年）

■高齢者単身世帯数の推移



【資料】総務省「国勢調査」（2020年）

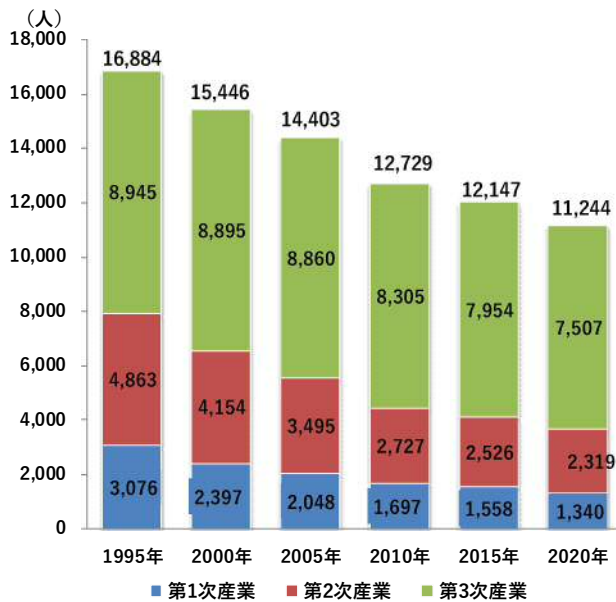
(2) 産業

産業全体での就業者総数は減少傾向が続き、基幹産業である農業・漁業（第1次産業）の就業者数の減少が顕著

上天草市の産業別就業人口の推移をみると、就業者総数は減少傾向が続いており、様々な産業での担い手不足が課題となっています。産業分類別にみると、特に、第1次産業の減少が顕著となっています。第2次産業についても同様に減少が進んでいます。

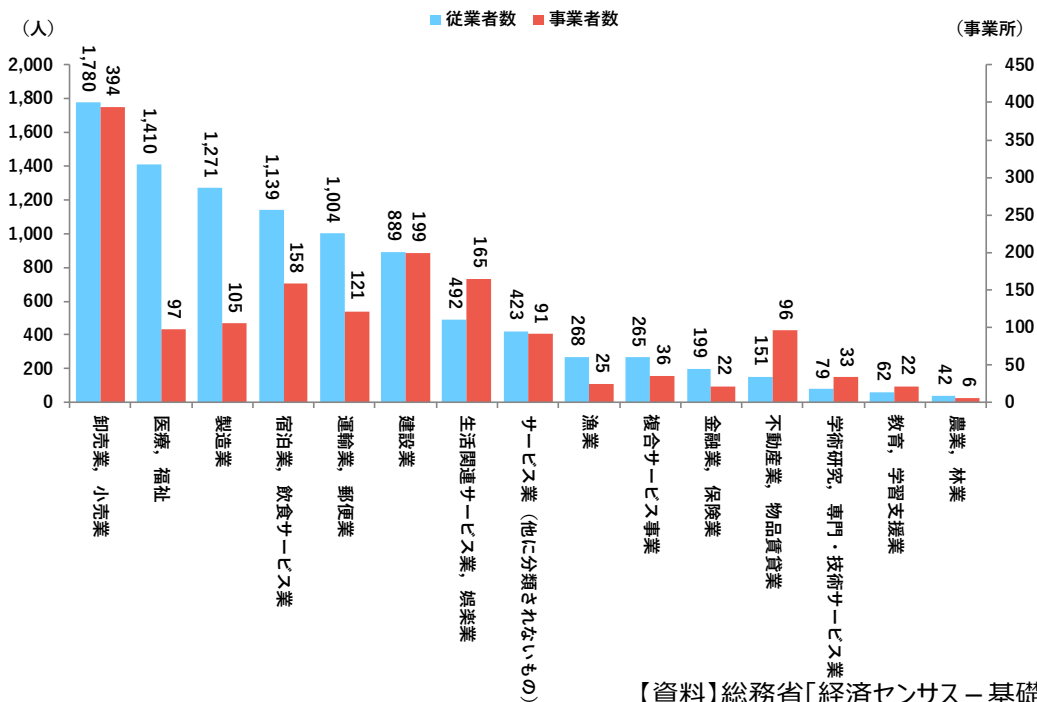
産業別従業員数をみると、卸売業・小売業、医療・福祉などが多くなっています。

■産業別就業者数の推移



【資料】総務省「国勢調査」（2020年）

■産業大分類にみた従業員数

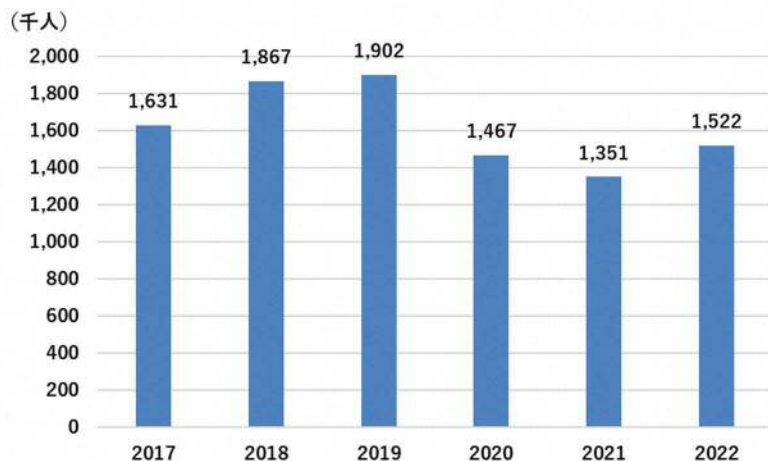


【資料】総務省「経済センサス-基礎調査」、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」（2016年）

観光客数は2019年まで増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症による影響もあり減少

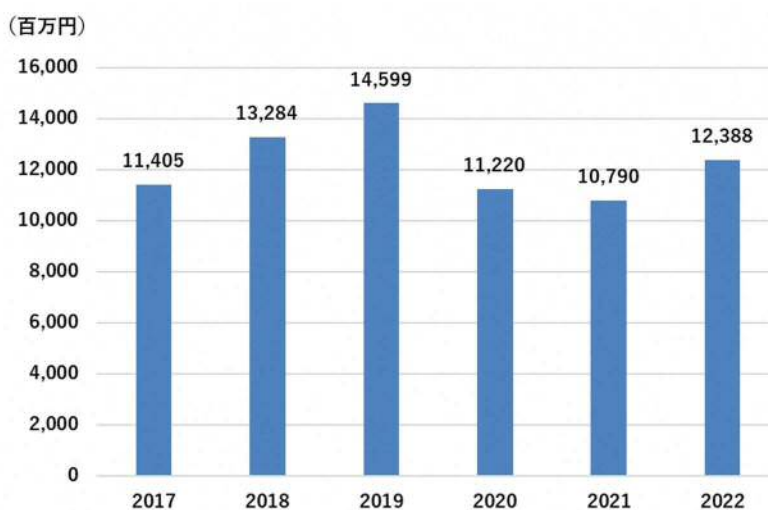
観光客数、観光消費額ともに2019年まで増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症による影響もあり、減少しています。新型コロナウイルスが5類へ移行した後は、回復傾向になっています。

■観光客数の推移



【資料】上天草市観光統計(2022年)

■観光消費額の推移



【資料】上天草市観光統計(2022年)

(3) 生活環境

① 交通

バス交通を中心に地域の公共交通が運行しています。

■市内の公共交通体系

陸上交通として、桜町バスターミナルから本渡間を結ぶ路線バス（快速）、路線バス、コミュニティバス（SUN まりんバス）、乗合タクシーがあり、海上交通としては、鉄道駅と港を連絡する旅客船、島と本土を連絡する旅客船、本市と隣接市の島を連絡するフェリーがあります。

一方で、路線バスや乗合タクシーが運行されていない「公共交通空白地域」が存在しています。

その他移動手段としては、スクールバス、医療施設や宿泊施設などの各施設において独自で送迎サービスが実施されており、市内には様々な輸送サービスが混在しています。

② 住宅

空き家が増加し、災害時の危険家屋も増加しています。

直近の空き家数が増加しています。また、空き家のうち賃貸や売却用として供給している住宅の割合が低く、流通していない空き家が多い状況です。

■上天草市の空き家数の推移

	住宅総数 (戸)	居住世帯あり 住宅数 (戸)	空き家数 (戸)	空き家数のうち	
				賃貸用住宅 (戸)	売却用住宅 (戸)
2008年	13,230	10,790	2,370	350	40
2013年	12,970	10,540	2,390	250	10
2018年	12,510	9,580	2,920	390	50

【資料】総務省「住宅・土地統計調査」(2018年)

③ 衛生／ごみ処理の状況

一人あたりの生活系ごみ排出量は増加、直近のごみリサイクル率は向上

ごみ総排出量は、微減傾向となっていますが、これは人口減少に伴うものであり、一人あたりの生活系ごみ排出量は増加しています。また、ごみリサイクル率は10.3%と高くなっています。

■上天草市のごみ処理の状況

	ごみ計画収集 人口	ごみ総排出量 (t)	生活系ごみの1 人1日あたりの 排出量(g/人日)	ごみ リサイクル率 (%)
2015年	29,205	8,430	530	10.2
2016年	28,599	8,366	542	10.4
2017年	28,051	8,179	534	9.6
2018年	27,408	8,048	535	9.4
2019年	26,848	8,266	560	9.3

2020年	26,281	8,076	578	10.3
-------	--------	-------	-----	------

※ごみリサイクル率 = (直接資源化量 + 中間処理後再生利用量 + 集団回収量) / (ごみ処理量 + 集団回収量) × 100

【資料】環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等調査」(2018年)

(4) 教育

小中学校の児童生徒数は微減傾向、上天草高校への進学者数も減少

小中学校の児童生徒数は微減傾向で推移しています。また、上天草高校の生徒数は2019年以降減少が続いています。

小中学校別でみると、児童生徒数の格差が大きく、児童生徒数が少なくなっている学校が目立っています。

■児童・生徒数の状況

		2019	2020年	2021年	2022年	2023年
小学校	校数	11	11	11	11	11
	児童数	1,148	1,130	1,078	1,058	1,009
中学校	校数	6	6	6	6	5
	生徒数	591	575	593	569	563
高校	校数	1	1	1	1	1
	生徒数	205	200	173	163	138

【資料】小中学校：文部科学省「学校基本調査」（各年5月1日現在）

高校：上天草高校学校経営（各年4月1日現在）

■小学校児童・中学校生徒数（学校別）の状況（令和5年5月1日）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
登立小学校	26	33	33	27	26	33	178
維和小学校	7	6	6	5	5	10	39
上小学校	27	33	29	35	31	29	184
中北小学校	9	16	9	10	6	10	60
中南小学校	21	17	12	12	15	16	93
湯島小学校	0	1	1	2	1	1	6
阿村小学校	6	17	12	13	9	11	68
今津小学校	31	29	32	35	34	25	186
教良木小学校	2	1	3	3	4	5	18
姫戸小学校	7	14	10	10	13	14	68
龍ヶ岳小学校	17	10	18	22	25	17	109
小学校計	153	177	165	174	169	174	1,009
大矢野中学校	96	100	115				311
湯島中学校	0	0	2				2
松島中学校	48	49	52				149
姫戸中学校	10	17	12				39
龍ヶ岳中学校	16	20	26				62
中学校計	170	186	207				563

【資料】文部科学省「学校基本調査」（2023年）

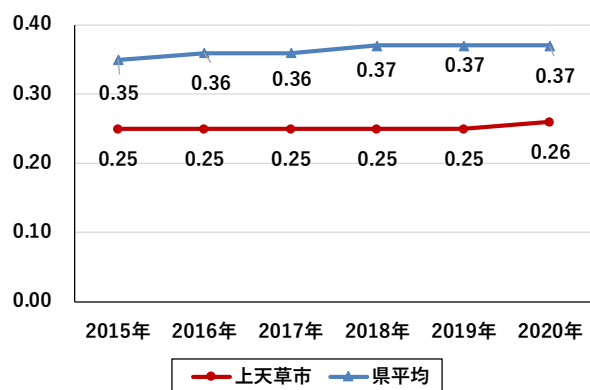
(5) 財政

依然として財政構造は硬直化した状況にある

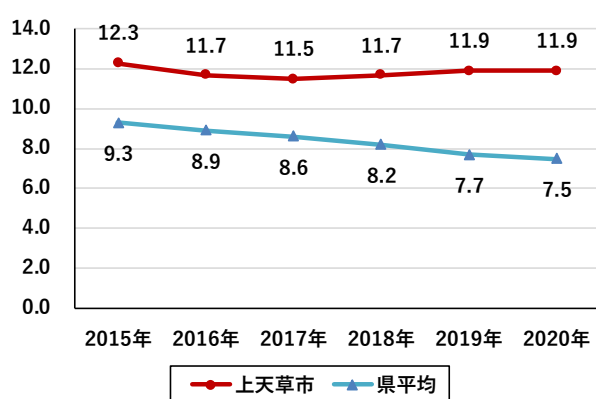
地方公共団体の財政力を示す財政力指数は、県平均を下回っています。財政の柔軟性をあらわす実質公債費比率や経常収支比率は、ともに県平均よりも高い値で推移しており、財政構造が硬直化した状況を示しています。

■財政状況（県平均比較）

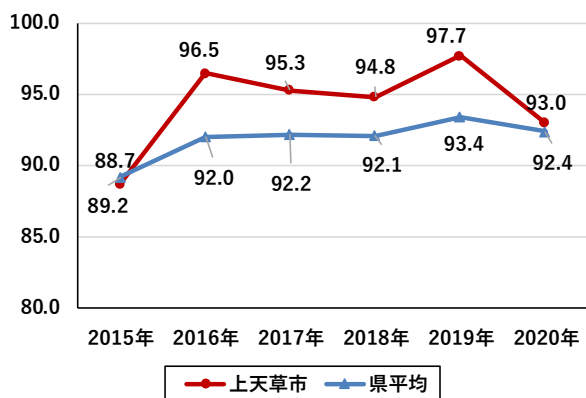
【財政力指数】



【実質公債費比率】



【経常収支比率】



【資料】総務省「地方財政状況調査」（2020年）

2 住民アンケート・中学生アンケートからみた視点

今後のまちづくりの将来像や課題、満足度などの市民、中学生のニーズを把握し、上天草市第3次総合計画へ反映させることを目的に住民アンケート、中学生アンケートを実施しました。

【調査概要】

① 住民まちづくりアンケート調査

■ 調査対象者	上天草市在住の18歳以上の方2,000名（無作為抽出）
■ 調査方法	郵送による配布・回収及びインターネット上での回収
■ 調査期間	令和4年9月
■ 回収数・率	565件（28.2%）

② まちづくり中学生アンケート調査

■ 調査対象者	上天草市内の中学生全員
■ 調査方法	学校での配布・回収
■ 調査期間	令和4年9月
■ 調査件数	517件

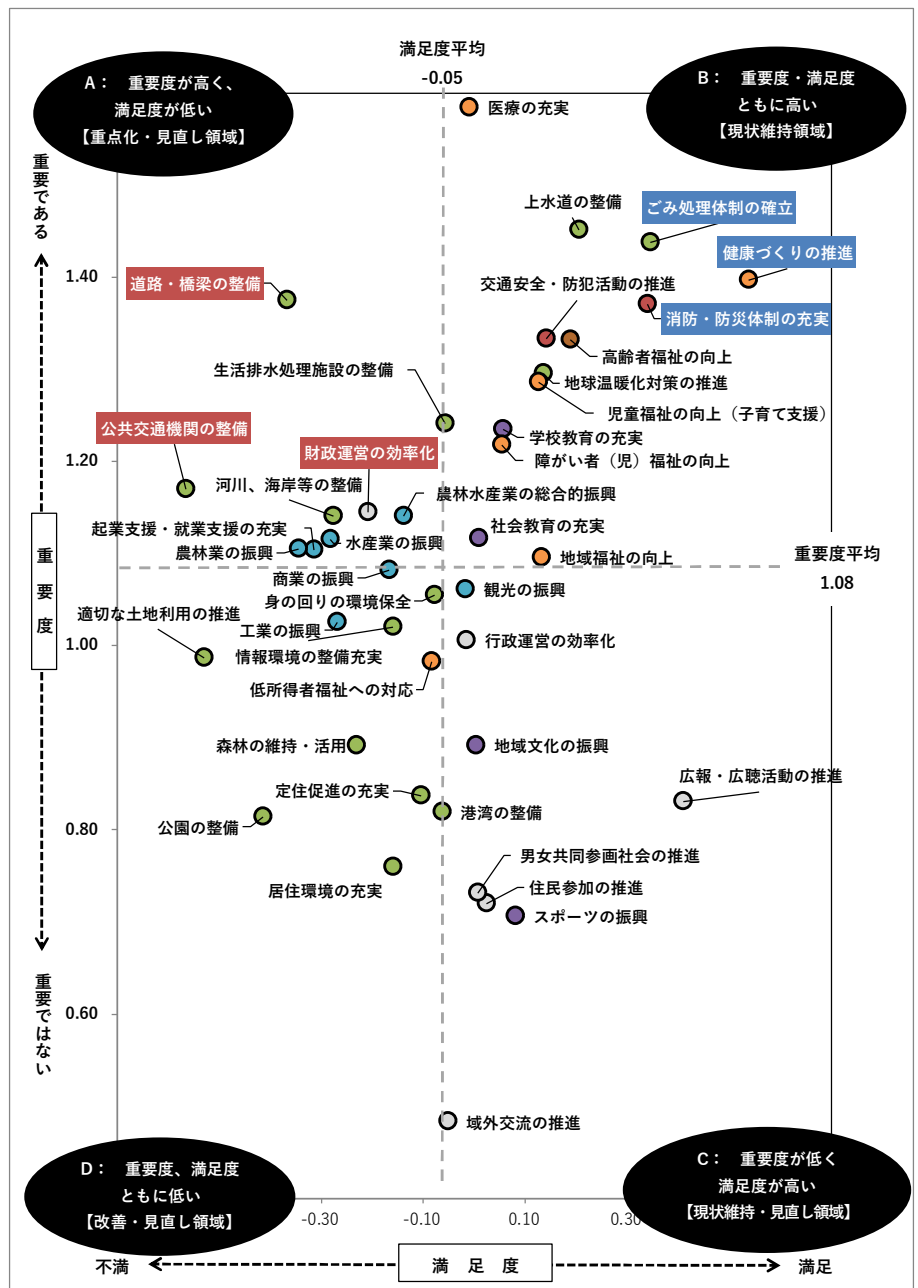
(1) まちづくりの満足度・重要度

■市民の満足度が低く、重要度が高いまちづくりは「道路・橋梁の整備」「公共交通機関の整備」「財政運営の効率化」

上天草市のまちづくり 41 施策の満足度・重要度について、満足度の高い分野は、「健康づくりの推進」「広報・広聴活動の推進」「ごみ処理体制の確立」となっています。一方、満足度の低い分野は、「公共交通機関の整備」「適切な土地利用の推進」「公園の整備」となっています。

満足度と重要度の相関分析をすると、＜満足度が低く、重要度の高い＞重視すべき改善ニーズの高い項目は、「道路・橋梁の整備」「公共交通機関の整備」「財政運営の効率化」となっています。

【まちづくりの満足度と重要度の平均値の相関図 (住民アンケート調査結果)】



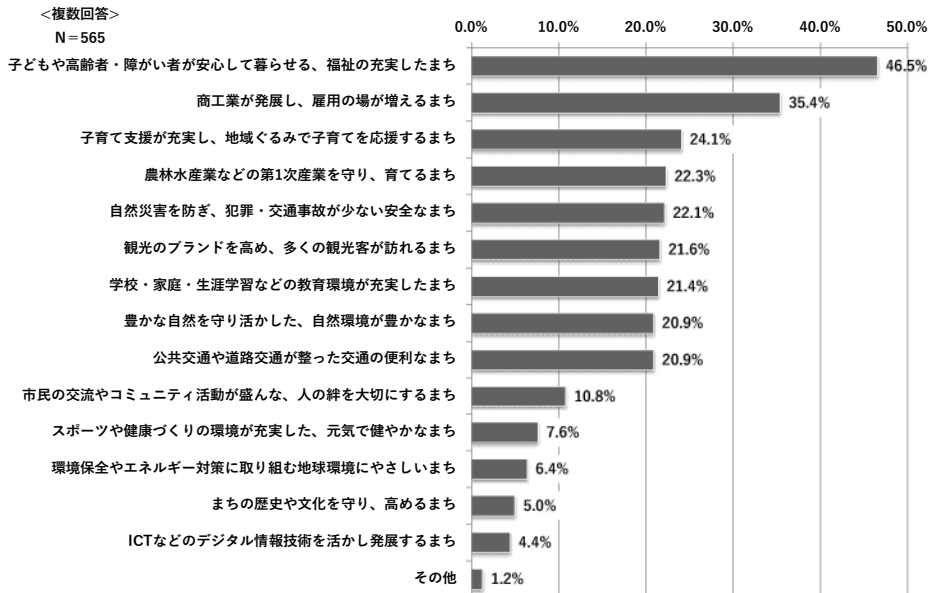
(2) 今後のまちづくりの目指すべき将来像

■目指すべき将来像のキーワードは、住民では「福祉」「雇用」「子育て」、中学生では「買い物」「観光」「安全」

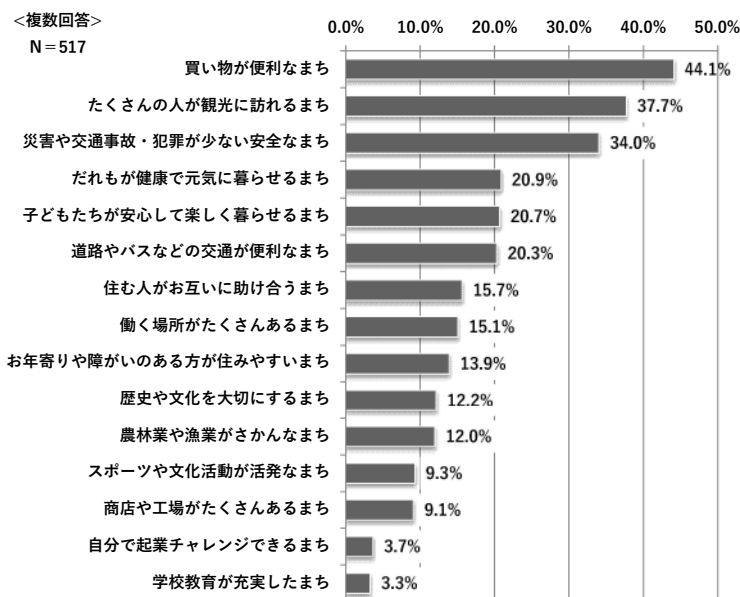
住民アンケート調査では、今後のまちづくりの目指すべき将来像として適切だと思うものは、「子どもや高齢者・障がい者が安心して暮らせる、福祉の充実したまち」が46.5%と最も多く、次いで、「商工業が発展し、雇用の場が増えるまち」「子育て支援が充実し、地域ぐるみで子育てを応援するまち」となっています。

中学生アンケート調査では、将来、なっしてほしいまちは、「買い物が便利なまち」が44.1%と最も高く、次いで、「たくさんの人が観光に訪れるまち」「災害や交通事故・犯罪が少ない安全なまち」となっています。

【住民アンケート：今後、上天草市のまちづくりを進めていくにあたり、目指すべき将来像】



【中学生アンケート：将来、上天草市がどのようなまちになっていたら良いと思いますか】



3 まちづくりの重点課題

行政における上天草市第2次総合計画の各施策の取組状況の検証、住民・行政のワーキング会議、上天草市振興計画審議会での協議により、各分野の重点課題、今後の重視すべき対策について以下のように整理しています。

分野		重点課題
産業	農業・漁業	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な農業・漁業の確立（担い手不足の解消に向けた基盤整備） ○耕作放棄地対策、有害鳥獣対策 ○漁業における赤潮対策、漁獲量の減少
	商工業	<ul style="list-style-type: none"> ○就業人口の減少 ○シェアオフィスやワーケーションを活かした若手起業家育成に向けた支援 ○海運業の担い手不足・高齢化（海運業の認知不足） ○地場産業の経営支援（事業承継や廃業防止を含む）
	観光	<ul style="list-style-type: none"> ○観光業に求められる若い人材の不足 ○インバウンド需要の拡大を含めた観光資源のPR・ブランディングの強化 ○市内の観光消費を拡大する販売拠点・活動の強化、他産業との連携による地域経済への循環 ○観光向けの交通手段の確保（市全域を周遊できる交通基盤づくり）
教育文化	学校教育	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の学力向上（家庭教育の充実、教職員の資質向上） ○子どもの貧困対策（経済的支援、就学支援） ○不登校・いじめ対策 ○部活動（スポーツ）をしていない小学校の体力低下、中学校の平日と休日で異なる活動の連携 ○上天草高校への入学者の減少 ○整備が完了した学校のICT機器の有効活用 ○地域学校協働活動推進員の高齢化・人材不足
	社会教育	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習関連団体の団体数・会員数の減少 ○新型コロナウイルス感染拡大によるスポーツ等のイベントの中止や参加者の減少 ○指導者の育成
	人権・交流	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染拡大による人権教育啓発機会の減少 ○女性活躍の推進 ○LGBTQなど、性の多様性への理解

分野		重点課題
健康 福祉	健康・医療	○健康に対する意識啓発と健診受診率の向上（重症化抑制） ○新たな感染症に対する危機管理
	児童福祉 （子育て支援）	○少子化を抑制する（子育て世帯が上天草市を選ぶための）市独自の踏み込んだ子育て支援策 ○乳幼児健診未受診者の増加 ○子どもの貧困化、ひとり親家庭への支援 ○保育園の入所児童の低年齢化、園児数に対応できる保育士確保 ○新型コロナウイルス感染拡大による病児保育やファミリーサポートセンターの利用者数の減少
	高齢者福祉 障がい者福祉 地域福祉	○歩いて通える介護予防の場「かよいの場」の活用拡大、生活支援コーディネーターの資質向上 ○老人クラブの会員減少 ○障がい者・児のサービス提供が不十分（事業者不足） ○障がい者の福祉的就労の受け皿となる事業所の運営が困難（定員割れになっている） ○増加する生活困窮者への支援 ○地域福祉の小地域ネットワーク活動の拡大
生活 環境 都市 基盤	都市基盤	○老朽化する道路・橋梁・海岸保全施設の計画的な補修、長寿命化 ○住民ニーズにあわせた地域公共交通の維持確保及び利用促進 ○道路渋滞対策の解消／歩道の段差解消 ○大雨に備えた冠水する道路の整備、河川氾濫の防止
	安全(防災・防犯・交通安全)	○自然災害に備えた急傾斜地崩壊対策等の減災対策、国土強靱化の推進 ○災害時の避難場所の確保（指定避難所が遠い住民への分散避難の促進、避難所の耐震化、拠点拡大） ○消防団の団員の減少
	住宅・定住	○移住定住に向けた支援策の充実とプロモーションの推進 ○移住定住に活用できる空き家の確保 （活用できる空き家物件の掘り起こし、空き家所有者の利活用促進）
	環境保全・環境衛生	○海の日クリーン作戦等による海の環境保全 ○地球温暖化対策となるゼロカーボンシティの推進 ○ごみの不法投棄、観光客のごみの増加 ○分別ごみ収集の出せる場所や回数の増加

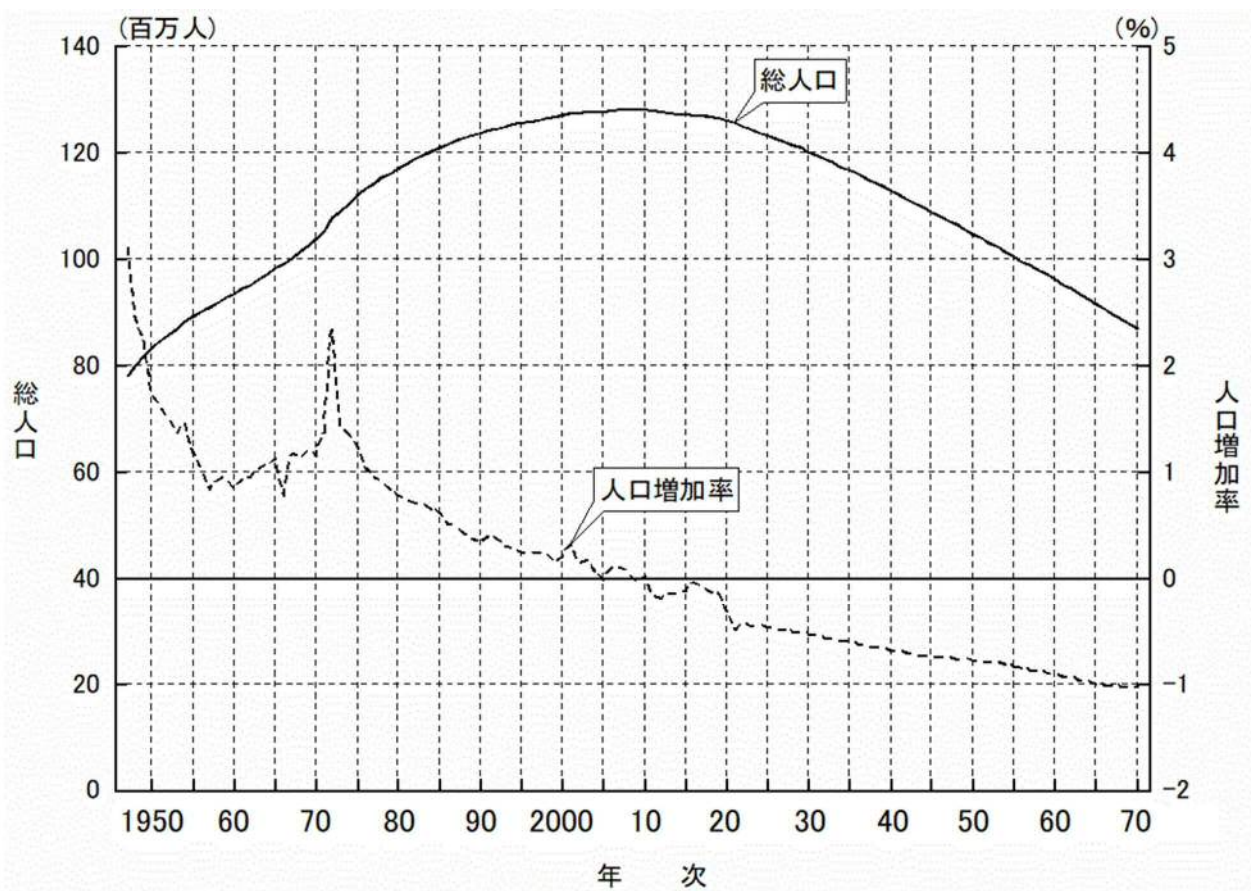
第3章 上天草市を取り巻く社会動向

(1) 人口減少・高齢化の加速度的な進行

わが国の総人口は、2008（平成20）年をピークに減少局面に入り、2070（令和52）年には8,699万人と1億人を割り込み、加速度的に減少が進むと見込まれています。また、全国の65歳以上の高齢者人口は、2020（令和2）年には3,533万人を超え、高齢化率は28.5%と過去最高となっています。こうした人口減少社会・超高齢社会の到来は、経済活動の縮小、地域コミュニティの崩壊、社会生活基盤の劣化など、様々な影響を及ぼすことが懸念されており、国を挙げて地方創生の取組が進められています。

本市も同様に人口減少・少子高齢化が加速しており、これからの人口減少社会に対応した持続可能な社会に向けた人口減少の抑制策、少子化対策、高齢社会への対応が必要です。

【国の総人口、人口増加率の現状及び将来推計】



【資料】総務省「国勢調査」（2020年）及び

国立社会保障・人口問題研究所が発表した日本の将来推計人口（令和5年推計）

(2) 持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に向けた取組の加速化

2015年に国連サミットにおいて採択されたSDGsは、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済、社会及び環境をめぐる広範な課題に対して統合的に取り組むこととされています。

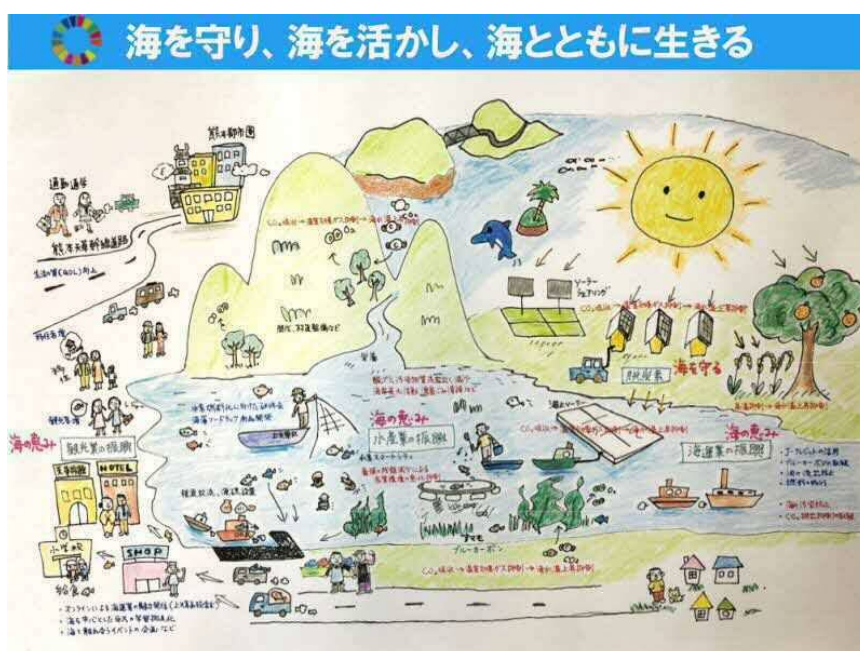
わが国においては、「あらゆる人々の活躍の推進」や「健康長寿の達成」、「成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション」など8つの優先課題を掲げ、「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」こととしています。

本市においては、2022(令和4)年5月に内閣府から「SDGs未来都市」及び国へ提案したプロジェクトの内容が「自治体SDGsモデル事業」に選定され、同年に「上天草市SDGs未来都市計画」を策定し、同計画に基づく取組を推進しているところです。



● 「上天草市SDGs未来都市」の実現

島々を抱く穏やかな海で自然の恵みを活かしたサステイナブルシティ
～訪れたい、応援したい、戻りたい～



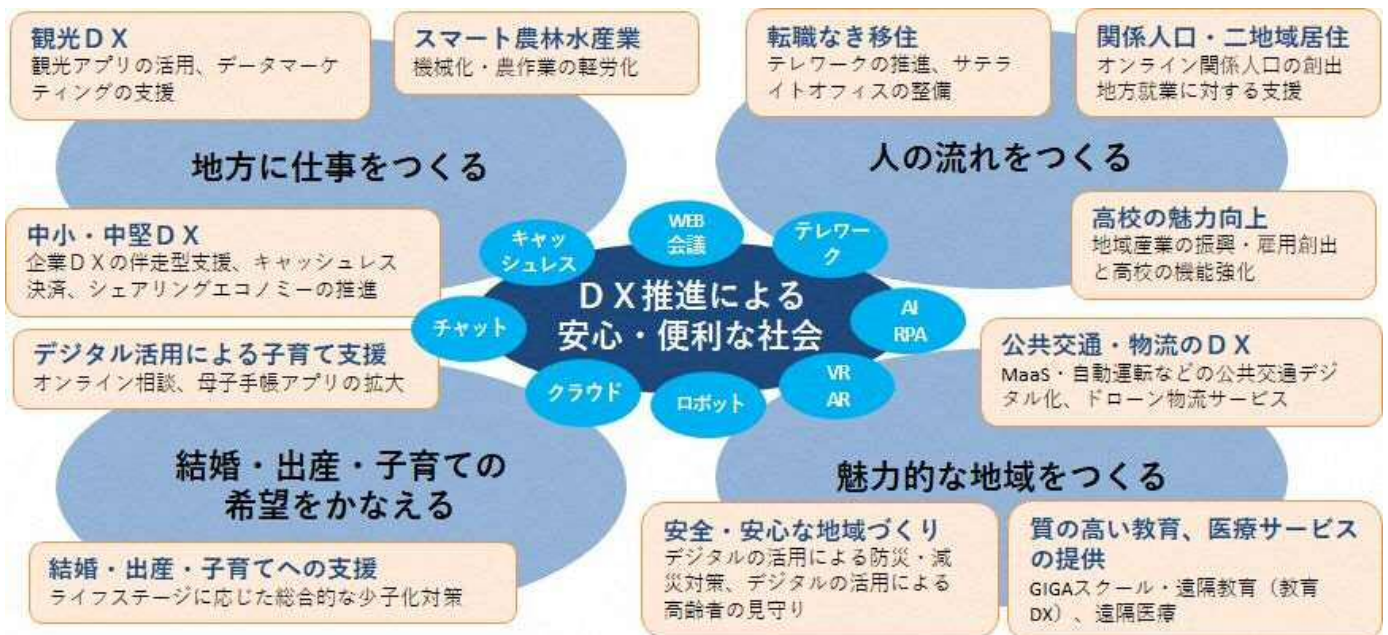
【資料】上天草市SDGs未来都市計画

(3) DX社会の実現による地域社会の課題解決

デジタル技術が急速に発展する中、国においては、2021（令和3）年に「デジタル田園都市国家構想」を掲げ、超高齢社会への対応や防災対策など、地域の社会課題に対応するために、IoT、ビッグデータ、AI、ロボット・センサーなどのデジタル技術を活用したDXの推進を戦略的に進め、「Society5.0」の実現を目指しています。こうしたDXの推進は、民間企業による産業革新のみならず、医療や教育、買い物支援サービスなど、人々の暮らしにおいて地理的・時間的制約を取り除いた地域社会の課題解決への影響を及ぼすことが期待されています。

また、行政分野においてもDXの推進による市民の利便性向上や行政事務の効率化が進められており、マイナンバー制度の導入・活用などにより、利便性の高い行政サービスの提供や業務効率化・省力化に向けた取組が求められています。

【デジタル力を活用した地方の社会課題解決（デジタル田園都市国家構想総合戦略）】



【資料】 内閣府 デジタル田園都市国家構想総合戦略資料

(4) 甚大化する自然災害や感染症などのリスクへの対応

近年、地球温暖化に伴う大規模風水害や地震災害といった自然災害が多発化し、甚大化しています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大やウクライナショックといった、今までの常識では予測不可能なリスクが日常生活に潜んでいることを実感する機会が増えており、こういったリスクに対応した危機管理体制の構築が急務となっています。

また、わが国では、高度成長期以降に大量に整備されたインフラの老朽化が進んできていることから、自然災害から安全を確保するために、インフラの適切な維持管理・更新による国土の強靱化が必要となっています。

(5) 働き方改革をはじめとする誰もが活躍できる社会の推進

わが国は、「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」「育児や介護との両立など、働く人のニーズの多様化」などの状況に直面しています。こうした中、イノベーションの実現などによる生産性向上とともに、就業機会の拡大や意欲・能力を存分に発揮できる環境をつくることが重要な課題となっています。「働き方改革」は、この課題の解決のため、働く人の置かれた個々の事情に応じ、多様な働き方を選択できる社会を実現し、働く人一人ひとりがよりよい将来の展望を持てることを目指しています。

(6) 社会経済のグローバル化と多文化共生社会の進展

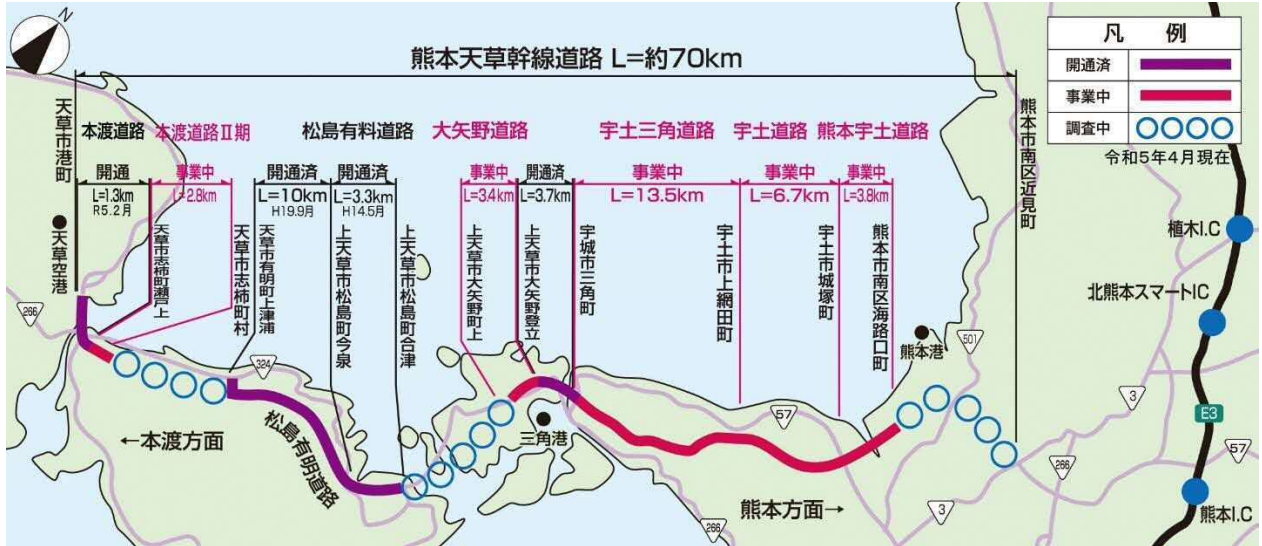
グローバル化の進展によりさまざまな分野における国際競争が激化しており、私たちの生活においても大きな影響が生じています。このような状況の下、国内においては、堅調に増加する訪日外国人によるインバウンド消費が拡大するとともに、増大する海外需要を背景とした輸出の拡大や海外進出などにより、経済活動の収益基盤拡大が図られています。

また、生産年齢人口の減少による労働力不足を背景に、国内企業の担い手として大きな力となっている外国人労働者の増加も顕著となっており、この傾向は今後も続くと考えられています。文化や生活様式の違いをお互いが認め合い、日本人も外国人も誰もが共生できる社会づくりが求められています。

(7) 広域道路ネットワークの発展に伴う社会環境の変化

将来的な整備が待たれる広域道路ネットワーク（熊本天草幹線道路、八代・天草シーライン等）の開通効果を見据え、観光客、関係人口・交流人口を増加させることに加え、移住の受け皿となる空き家の整備の他、教育、福祉、雇用の面の充実を図っていく必要性が高まっています。

【熊本天草幹線道路図路線図】



【資料】国土交通省九州地方整備局 HP より

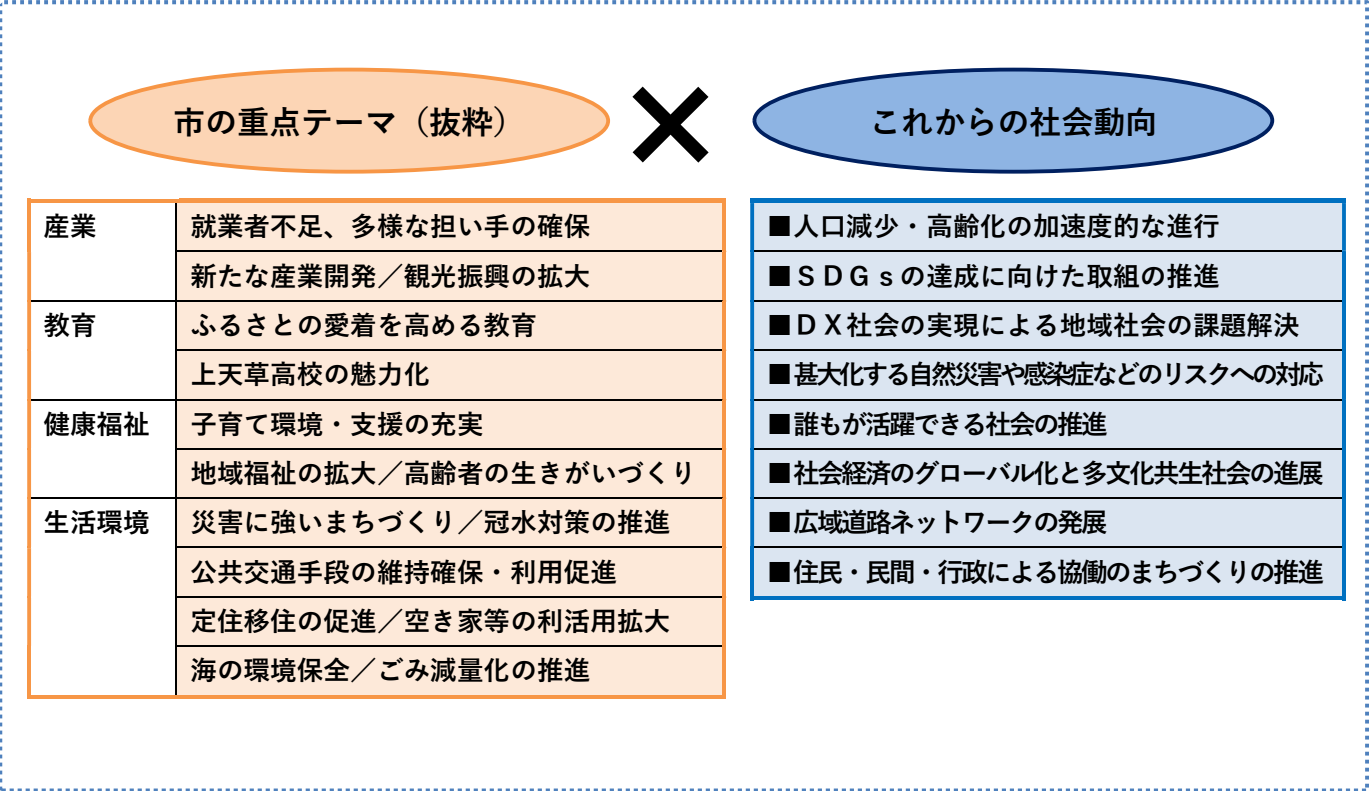
(8) 住民・民間・行政による協働のまちづくりの推進

高齢化が進む中、高齢者の単身世帯が増加しており、介護などの社会福祉の面での需要が高まっています。一方、地方財政が厳しさを増す中で公的なサービスの限界もあり、地域コミュニティを再構築し、ともに支え合う社会を築くことが求められています。

また、精神的な豊かさの追求に加えて、ボランティアなどによる住民の社会貢献活動のほか、企業や NPO なども地域づくりに関わることで、地域コミュニティの中での豊かさにつながる協働の取組が一層重要となってきています。

第4章 新たなまちづくりの基本的考え方

前章まででまとめた内容を踏まえ、これからの本市に求められる新たなまちづくりの5つの基本的考え方を示します。



- 【考え方1】 みんなでつくる持続可能な社会
 - 【考え方2】 まちの未来を担う人づくり
 - 【考え方3】 DX・ゼロカーボンシティの推進によるイノベーション
 - 【考え方4】 地域資源を生かした産業の再生
 - 【考え方5】 安全・安心な暮らしを確保する互助・共助の社会づくり

【考え方1】 みんなでつくる持続可能な社会

本市では美しい海などの自然を貴重な財産として守る「上天草市SDGs未来都市」の実現を目指した取組がスタートしました。このSDGsの取組は、国の持続可能な社会づくりにおける本市のできる役割であり、目指すミッションとして今後継続的に進めていくものです。

本格的な人口減少・少子高齢化が加速化する中、将来に向けた持続可能なまちづくりに向け、「上天草市SDGs未来都市」の取組を基軸に、市民や団体、企業、行政が連携・協働し、自然環境を保全するだけでなく、環境を守り、活かすことで、「経済」「社会」「環境」へつなぐ好循環を生みだし、地域経済の活性化や人材の還流を呼び起こすことで新たな持続可能な社会へ発展していくことが求められます。

- 「経済」「社会」「環境」の好循環による持続可能な社会の継続
(上天草市SDGs未来都市の推進)

【考え方2】 まちの未来を担う人づくり

本格的な人口減少・少子高齢化が加速化する中、産業の担い手の不足、地域のコミュニティ活動を持続するための担い手の高齢化など、様々なまちづくりにおける人材不足による活力低下が進んでいます。

こうした課題を解決して人材の育成・確保を進めるために、引き続き人口減少の抑制を目指し、子どもを産み育てやすい環境の整備、今後の広域幹線道路の開通を見据えた移住定住者を拡大するための環境づくりが必要です。

また、将来を担う人材を育てるため、上天草高校の魅力化を進めるとともに、子どもたちを中心にふるさとへの愛着を高める教育活動を充実することで、大人になったらふるさと上天草に帰ることができる郷土愛の醸成が求められます。

- 子どもを産み育てやすい環境の充実による少子化対策の推進
- 熊本天草幹線道路の開通等を見据えた移住定住環境づくり
- 上天草高校の魅力化、子どもの郷土愛の醸成

【考え方3】DX・ゼロカーボンシティの推進によるイノベーション

AI、IoT、ロボットなどの新しい技術の進展にあわせ、これらの技術を産業、医療、福祉、教育など様々なまちづくりに取り入れることで社会の課題を解決するDXを推進する必要があります。労働力人口が不足し、従来のまちづくりが困難な状況になる中で、このDXによる変革が人口減少社会に対応した豊かな暮らしを実現する重要な要素となっています。

また、環境分野におけるゼロカーボンシティに向けた取組は、これからの地域社会に求められる重要な命題となり、様々な分野での技術開発が進展していくことが予測されます

こうしたDXや環境分野におけるゼロカーボンに向けた取組を進めるとともに、これらを活かした新たな地域産業の開発が求められます。

- 未来技術を活用し、多様な分野で豊かな暮らしを創造するDXの推進
- DX、ゼロカーボンシティの推進による産業・生活分野等の新たなイノベーション

【考え方4】地域資源を生かした産業の再生

2023（令和5）年5月に、新型コロナウイルス感染症が感染症法の5類感染症に移行したことで、本市の基幹産業である観光は、徐々に活性化しつつあります。需要回復が見込まれるインバウンド観光を含め、宮津地区・前島地区を拠点とした、自然や環境保全などの市の強みとなる資源を生かした体験観光等の拡大による観光需要の拡大が求められます。

農業、漁業等の1次産業は担い手不足による就業人口の減少が続いていますが、地域の自然環境を守り、活かす役割を持った産業として、ブランド化による収益力向上を進める必要があります。そのためにも担い手の育成・確保ができる産業への発展が求められます。

また、前項に示したICT、環境分野などの新たな産業開発に向けて、シェアオフィスやワーケーションを活かした若手起業家が新たな産業を生む基盤づくりが必要となっています。

- 地域資源を生かした観光振興の拡大
- 農林水産業のブランド化による収益力向上
- ICT、環境分野などの新しい産業を生む基盤づくり・機会づくり

【考え方5】 安全・安心な暮らしを確保する互助・共助の社会づくり

昨今の大規模風水害などが多発化・甚大化する中、本市においても防災機能の強化は、市民の安全な暮らしを守る上で優先すべき課題となっており、自然災害に備えた冠水対策をはじめ、避難対策、自主防災活動の推進など、防災体制の強化が求められます。

近年の新型コロナウイルス感染症など新たな感染症の発生は、これまでの日常的な暮らしの安全を脅かす新たな脅威となっており、感染症対策の充実が求められます。

また、高齢社会が進む中、高齢者のみの世帯が増加しており、身近な地域で市民同士が支え合う互助の取組の重要性は高まっています。今後も子どもから高齢者までが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちをつくるためには、市民ニーズの高い、公共交通ネットワークの利便性の確保や地域医療の充実を図るとともに、元気な高齢者が地域の担い手となり活躍できる場の拡大、身近な公民館や図書館などを用いた地域のコミュニティを基本とした市民同士のつながりを深める場・機会が充実し、地域力を強化するまちづくりが求められます。

- 市民の安全を支える防災対策の強化
- 地域医療の充実
- 公共交通ネットワークの利便性の確保
- 高齢者の活躍の場づくりやコミュニティの深化による支え合う地域力の強化

第2部 基本構想

第1章 まちの将来像

第2章 将来像の実現に向けた施策体系

第1章 まちの将来像

1 まちの将来像

「人と海のふれあうまち」

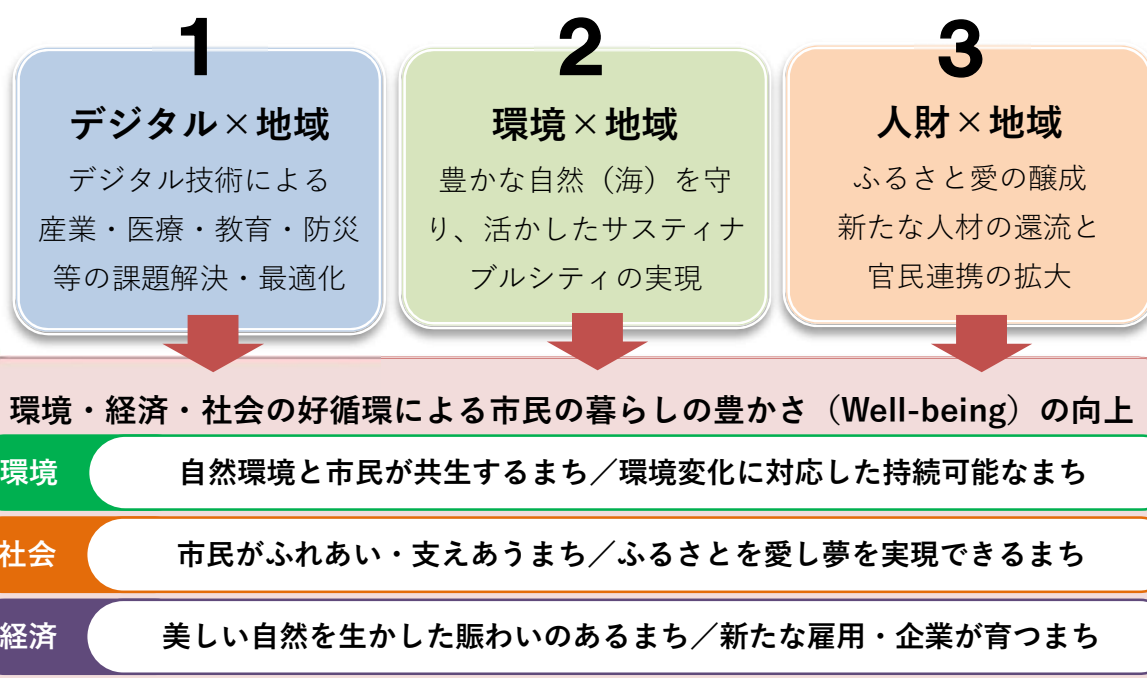
～イノベーションによる“幸せを実感する”持続可能なまちづくり～

本市は、新市としてスタートした際に策定した第1次総合計画から、将来像を「人と海のふれあうまち」とし、本市の象徴である「海」を中心とした豊かな自然を守り、活かし、市内外の「人」がふれあう魅力ある観光地、活力ある地域社会を目指したまちづくりを進めてきました。

SDGsやDX、多様性のある社会の進展など、本市を取り巻く環境は大きく変化しています。第3次総合計画では、これまで築きあげたまちづくりの基盤を継承していくとともに、これらの新たな社会変化を好機としたイノベーションを加速することで、将来を見据えた持続可能な社会、市民一人ひとりがまちに住むことで幸福・満足感を実感する社会へ発展し、新たな「人と海のふれあうまち」への進化を目指します。

イノベーションによる“幸せを実感する”持続可能なまちづくり

社会変化をとらえた新たなデジタル・環境・人財のイノベーションにより、環境・経済・社会の好循環を生み出すことで、市民の暮らしの豊かさ（Well-being）の向上を目指します。



2 目指すまちのすがた(イメージ)

デジタル×地域 イノベーション

環境×地域 イノベーション

人財×地域 イノベーション

イノベーションによる“幸せを実感する”持続可能なまちづくり

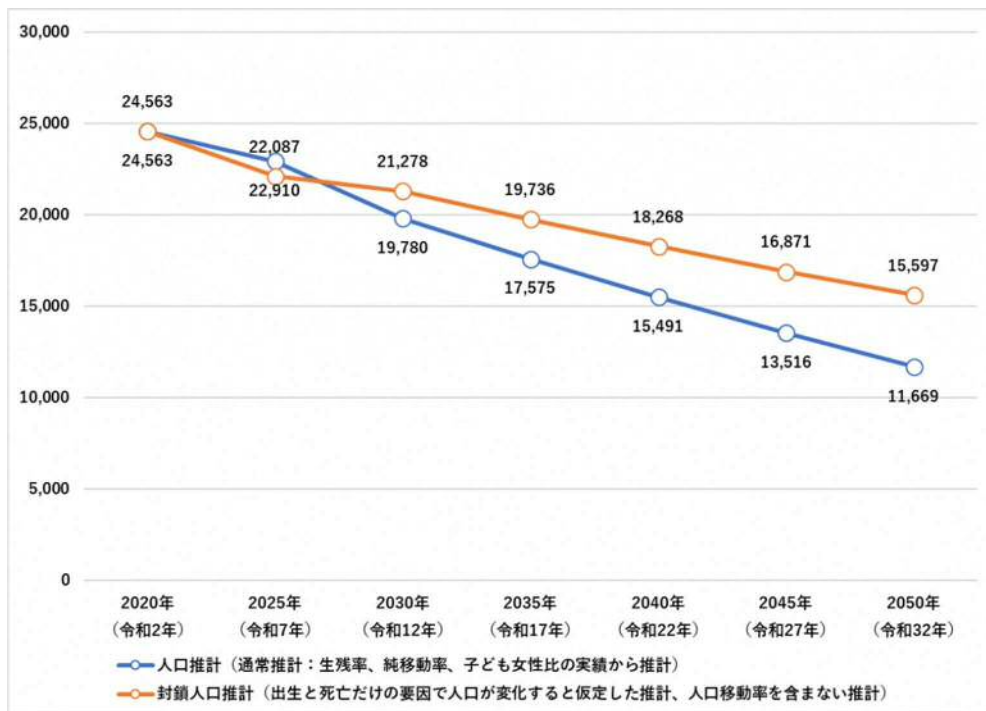


3 まちづくりの目標指標

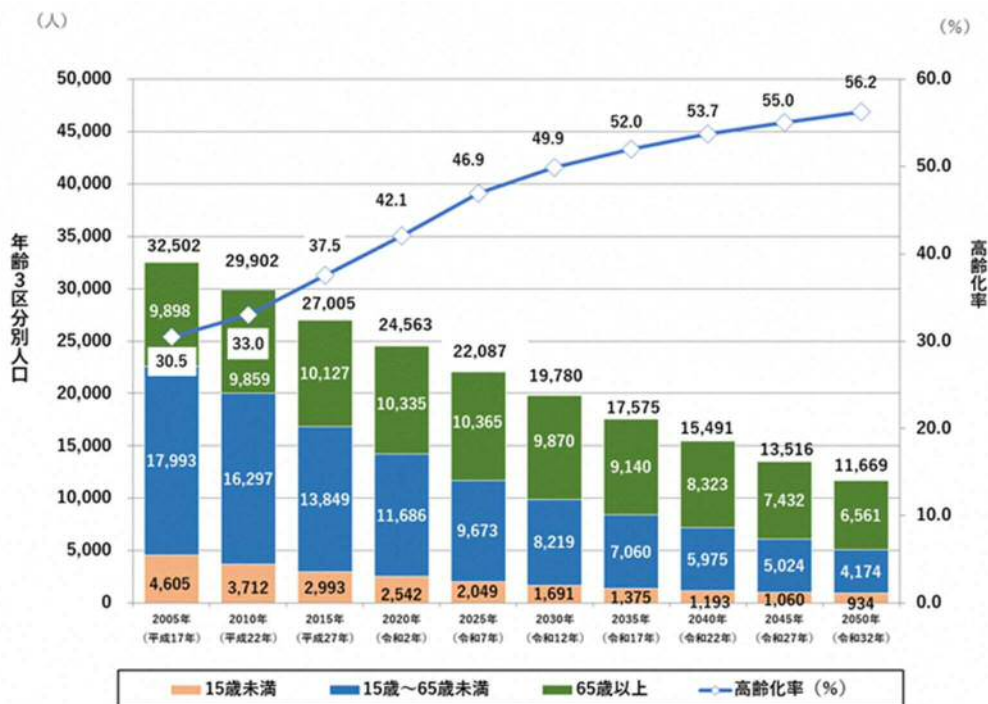
(1) 将来人口フレームと人口指標

■将来人口フレーム

【将来人口の推計】



【人口3区分から見た将来人口の推計】



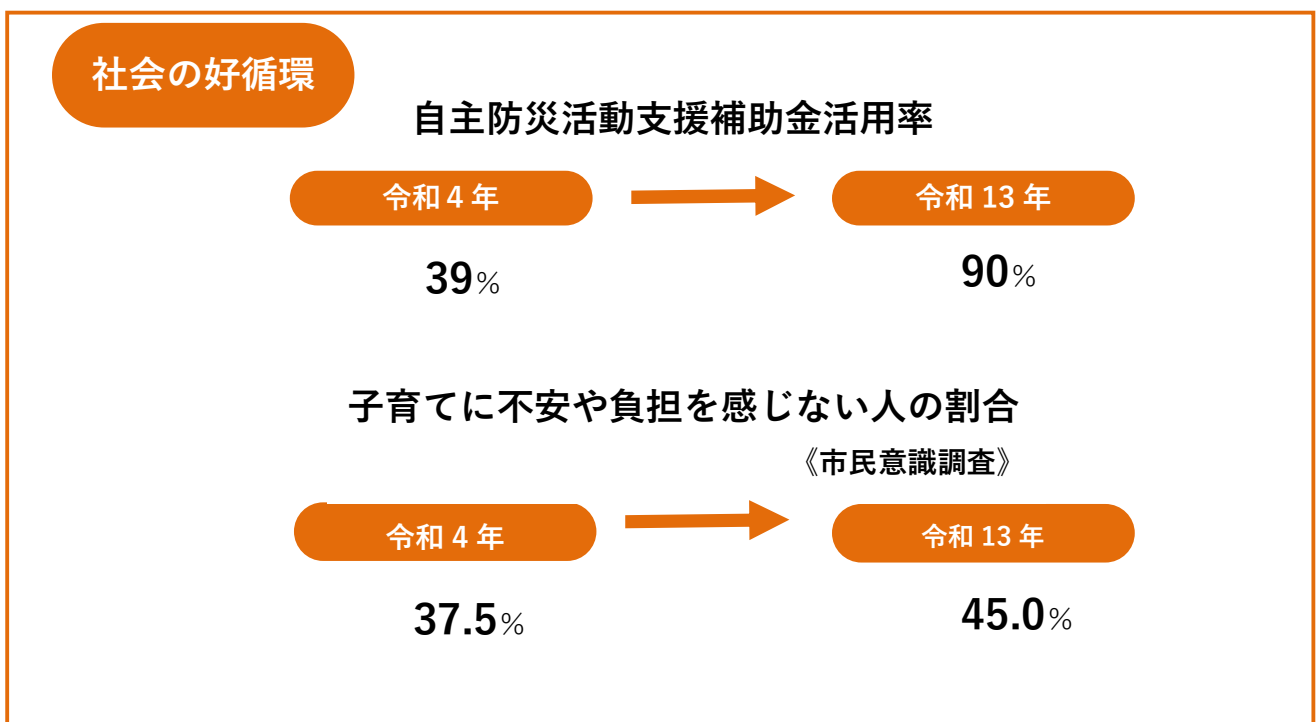
【資料】総務省「国勢調査」(2020年)及び

国立社会保障・人口問題研究所が発表した日本の将来推計人口(令和5年推計)

(2) 環境・社会・経済の好循環のまちづくり指標

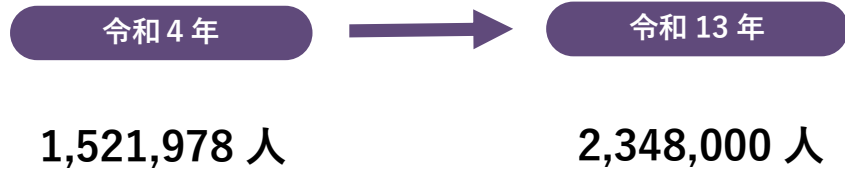
将来像の実現を目指す計画全体の目標として、計画期間内の「まちづくり指標」を設定し、達成状況を評価していきます。

【まちづくり指標】

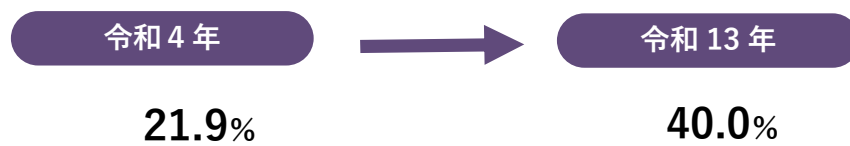


経済の好循環

年間観光入込客数 《市観光統計》



上天草高校生の地元企業就職率



第2章 将来像の実現に向けた施策体系

1 施策の展開方針／施策体系

上天草市第3次総合計画では、まちの将来像を実現するためのまちづくりの基本姿勢として、施策の展開方針を次のとおり設定します。

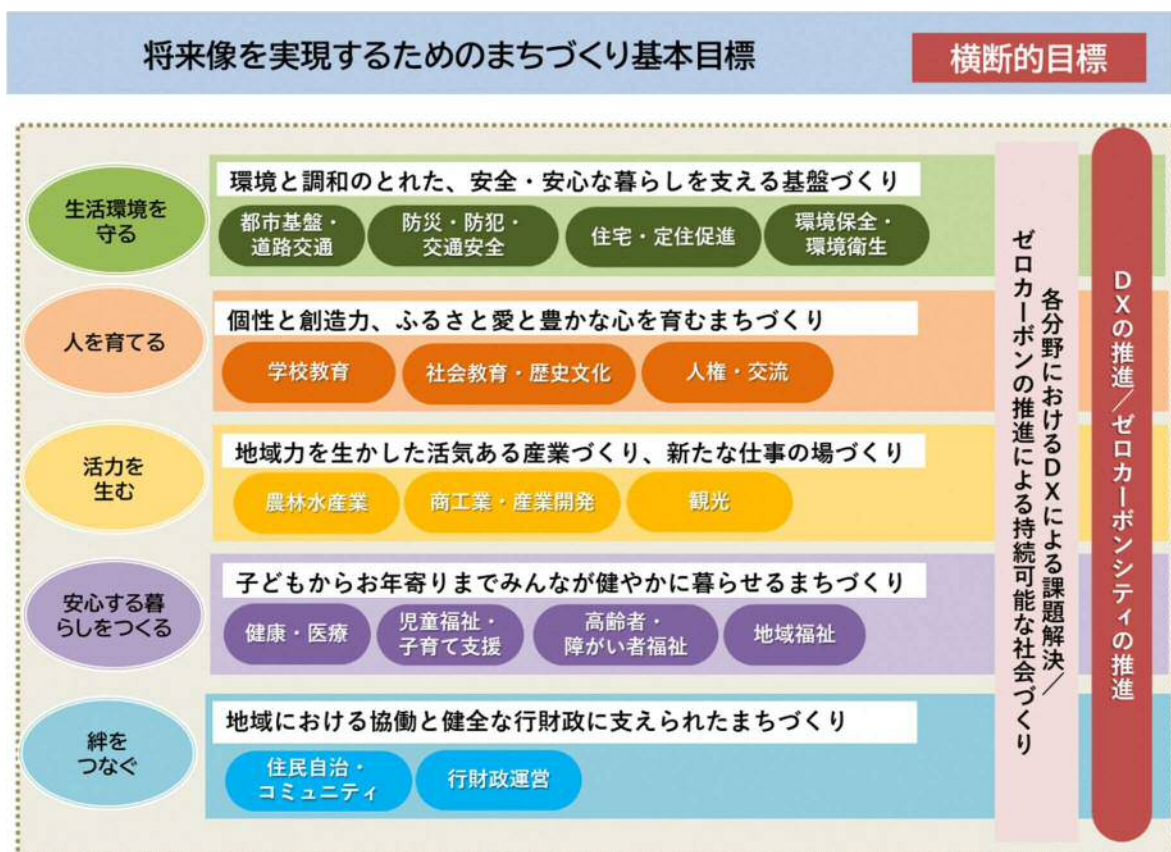
施策の展開方針

- 将来像を実現するため、5分野を軸とした基本目標を展開
- 各分野に共通して関連するDX、ゼロカーボンの推進を「横断的目標」として設定

上天草市第3次総合計画では、将来像を実現するための政策課題を「生活環境を守る（都市基盤）」「人を育てる（教育文化）」「活力を生む（産業）」「安心する暮らしをつくる（健康福祉）」「絆をつなぐ（住民自治・行政）」の5つの分野に分け、分野ごとに基本目標を定め、それぞれの施策の方針を示します。これらの基本目標を市民、団体、企業、行政がみんなで共有し、同じ方向を向いて取組を進めることで、その効果を最大限発揮することを目指します。

また、5つの分野のそれぞれに共通して関連するテーマとなる「DXの推進」「ゼロカーボンシティの推進」を横断的目標として設定し、全体の共通するスローガンとして推進します。

施策体系



2 重点プロジェクトについて

将来像の実現に向け、重点的に推進する取組を「重点プロジェクト」として位置づけます。

重点プロジェクトは、市民の価値観やニーズが多様化する中で、社会変化を見据えながら、限られた資源（人・もの・金・情報）を生かし、最大限の効果を発揮するために必要な事業を見定めながら、前期・後期基本計画の施策に反映し展開していきます。

将来を見据えた地域のイノベーションプロジェクト

将来像の実現に向け、「デジタル」「環境」「人財」の3つのテーマのイノベーションを実施し、環境・経済・社会の好循環を生み出すプロジェクトを展開します。

あわせて、熊本天草幹線道路の開通など、長期的なまちの将来を見据えた投資（種まき）としてのまちづくりを進めます。

《戦略テーマ》

1 「デジタル×地域」イノベーションプロジェクト

- 産業・医療・教育・防災等の課題に対応したデジタルインフラの開発
- デジタル活用を促すITベンチャーの誘致と官民連携による共助・共創のプラットフォームづくり
- デジタル人材の育成・確保（若者の働く場の創出）

2 「環境×地域」イノベーションプロジェクト

- 自然（海）を守る地域づくり（地域資源を活かしたカーボンニュートラルの推進など）
- 自然（海）を活かす産業・技術の発展（自然環境に配慮した観光、ブルーカーボンの推進など）
- 自然（海）と生きる地域・人づくり（自然景観の保全、エネルギーの地域内自給の実現）

3 「人財×地域」イノベーションプロジェクト

- 新たなイノベーションを動かす次世代の人材育成・人材還流（市外からの人材の流入）
- 未来を担う子どもたちの生きる力とふるさとへの愛着心の醸成（子育て支援・ふるさと教育の推進）
- ふれあいのあるふるさとづくり（市民交流の拡大、高齢者の生きがい・働きがいづくり）

4 将来への投資（種まき）プロジェクト

- 熊本天草幹線道路開通を見据えた移住・定住拡大に向けた環境づくり（移住・定住者の受け皿となる住宅の確保、空き家対策の推進）
- 観光交流の拡大に向けた環境づくり（市内の周遊観光に向けた環境整備）

3 基本目標／横断的目標

まちの将来像を実現するために、5つのまちづくりの基本目標と横断的目標を掲げ、それぞれの目的達成のための施策を推進します。

基本目標 1 生活環境を守る（都市基盤）

環境と調和のとれた、安全・安心な暮らしを支える基盤づくり

都市基盤・
道路交通

安全で便利な暮らしを支える都市基盤・道路交通ネットワークをつくる

広域を含めた安定した都市基盤・道路交通ネットワークを確保するため、熊本天草幹線道路の広域幹線道路網の計画的な整備を促進するとともに、老朽化した道路や橋梁等の維持・更新、通学路を中心とした歩道の安全対策を進めます。

また、市民や来訪者の移動手段となる乗合タクシー等を整備するとともに、地域を支える交通ネットワークを維持確保するための利用促進を図ります。

《主要方針》

- 道路・橋梁・海岸保全施設の計画的な補修、長寿命化
- 乗合タクシーを中心とした地域公共交通の維持確保及び利用促進

防災・防犯・
交通安全

災害や犯罪など、様々な危険からあらゆる人々を守る

頻繁化・甚大化する風水害などの自然災害に備えた災害に強いまちをつくるため、河川改修をはじめとする国土の強靱化を進めるとともに、地域の自主防災組織や非常備消防の強化、災害時に市民が安全で円滑に避難できる避難場所の確保を進めます。

また、警察や地域と連携した防犯や交通安全の取組を強化し、犯罪や交通事故を最小限にするまちを目指します。

《主要方針》

- 河川改修や急傾斜崩壊対策など減災対策の推進
- 自主防災組織の防災意識の向上
- 非常備消防の強化（消防団の団員の養成）
- 災害時の安全な避難場所の確保

住宅・
定住促進

上天草市らしい暮らしの魅力を伝え、住みたいまちをつくる

人口減少を抑制し定住人口を増やすため、豊かな自然と共生する本市の暮らしの魅力を効果的に発信し、市外からの移住人口・関係人口を拡大するとともに、市民の人口定着、将来的な定住促進へ向け、子どもを含めたシビックプライド（地域への誇りと愛着）の醸成を図ります。

また、移住者の受け皿となる住環境を確保するため、空き家バンクの活用を中心とした空き家の利活用を拡大します。

《主要方針》

- 市民定着もかねた移住定住に向けた支援策の充実とプロモーションの推進
- 空き家等の利活用拡大に向けた物件の掘り起こし、空き家バンクの活用・周知

環境保全・
環境衛生

豊かな自然を守り、地球環境にやさしいまちをつくる

地球温暖化対策となるゼロカーボンシティを目指し、生ごみの減量化やリサイクル活動等のごみの減量化を推進するとともに、海の日クリーン作戦等による市民との協働による海の環境保全活動に取り組みます。

《主要方針》

- ごみの減量化や再生可能エネルギーの活用
- 適正な生活排水処理の推進

基本目標 2 人を育てる（教育文化）

個性と創造力、ふるさと愛と豊かな心を育むまちづくり

学校教育

子どもたちが平等に学び、社会変化に対応できる「生きる力」とふるさとへの愛着を深めるまちをつくる

子どもたちがふるさとの良さを感じながら、伸び伸びと健やかに育ち、一人ひとりの「生きる力」を伸ばせるよう、質の高い教育環境や地域との協働による学びの機会を整え、子どもが夢や希望を持って成長できるまちを目指します。また、市内外の子どもたちが進学する上天草高校の魅力化を進めます。

《主要方針》

- ふるさとへの愛着を高める教育の推進
- 上天草高校の魅力化
- 家庭での基礎的な習慣を身につける家庭教育の推進

社会教育・ 歴史文化

幅広い年代の市民がスポーツや生涯学習、歴史・文化活動に参加し、多様に交流するまちをつくる

新たな文化施設（本と歴史の交流館イコット）を拠点に、市民の交流やふるさとの魅力を体験する機会を拡大するとともに、身近な公民館で生涯学習・スポーツ活動の充実を図ります。

また、幅広い年代がともにスポーツ活動に参加し交流する機会や環境づくりを進めます。

《主要方針》

- 図書館を活用した市民の交流機会や子どものふるさと愛を醸成する体験機会の拡大
- スポーツ活動等を通じた子どもや市民とのふれあいの場づくり

人権・ 交流

差別がなく、それぞれの市民が個性や能力を発揮できるまちをつくる

すべての人が、性別や国籍、文化・生活様式などの違いを超えて、互いを理解し、人権が尊重され、認め合い、個人の能力が十分に発揮される地域社会を実現するため、人権や性の多様性、多文化共生について理解を深めます。

《主要方針》

- 人権教育・啓発の推進、多文化共生への意識の醸成
- 男女共同参画の推進による、女性活躍の機会・場の拡大

基本目標 3 活力を生む（産業）

地域力を生かした活気ある産業づくり、新たな仕事の場づくり

農林水産業

豊かな農地や海を守る、持続可能な農業・漁業をつくる

本市の農業・漁業は豊かな自然を守り共生するまちの重要な産業であり、後継者不足の解消や活性化へ向け、先進技術を活用するスマート農業・漁業などの新たな基盤整備により稼ぐ力を育み、持続可能な産業振興を図ります。

《主要方針》

- 多様な担い手の確保
- 持続可能な「稼ぐ」農業・漁業への生産基盤の整備
- 農林水産業のブランド競争力の強化

商工業・ 産業開発

地域特性を生かした地場産業の発展や起業拡大により雇用の場や機会が 広がるまちをつくる

テレワークの導入による働き方の多様化など、社会動向を見据えた環境整備による起業支援により新たな市の産業開発・育成に取り組むとともに、既存産業の経営支援により、市の雇用の拡大に取り組めます。

《主要方針》

- 市の新たな産業となる事業者の育成・事業開発の支援
- 地場産業の経営支援（事業承継や新規事業開発支援）

観光

自然の魅力を最大限に発揮した観光交流を展開し賑わうまちをつくる

インバウンド需要をとらえた、前島地区・宮津地区を拠点にした市内の周遊観光を展開し、アウトドア観光や食・物販を拡大することで市内の経済効果を高めます。

《主要方針》

- インバウンド需要の拡大を見据えた観光資源のPR・ブランディングの強化
- 前島地区・宮津地区の観光拠点を活かしたサービス・販売拡大、アウトドア観光の推進
- さんばーるを拠点とした市内外の販売拡大

基本目標 4 安心する暮らしをつくる（健康福祉）

子どもからお年寄りまでみんなが健やかに暮らせるまちづくり

健康・
医療

それぞれの市民が心身ともに健やかに暮らせるまちをつくる

市民がいつまでも自分らしく健やかな人生を送るために、健診の受診率の向上、生活習慣の改善へ向けた働きかけのほか、上天草総合病院を中心に安心して受診することができる医療体制の充実を目指します。

《主要方針》

- 健診受診の促進による生活習慣病の予防、重症化抑制
- 上天草総合病院を中心とした医療体制の拡充

児童福祉・
子育て支援

切れ目のない子育て支援により、若い世代が楽しく子育てしたいまちをつくる

暮らしが多様化する中、すべての子どもが健やかに育つよう、保育環境の確保、医療費助成などの経済的支援の充実を図るとともに、積極的な情報提供や相談体制の充実により、妊娠から出産・子育てまで、切れ目のない安心して子育てできる環境の整備に取り組みます。

《主要方針》

- 保育園の入所児童の低年齢化等に対応できる保育士確保、保育環境の受け皿づくり
- 子育て世帯への経済的支援の充実、ひとり親家庭への支援

高齢者・
障がい者福祉

高齢者や障がい者がいきいきと暮らせるまちをつくる

高齢者や障がい者がいきいきと過ごせるよう、かよいの場等を通じた介護予防や生きがいづくりへの支援に取り組むとともに、高齢者・障がい者の生きがい・働きがいをつくる場や機会を広げます。

《主要方針》

- 地域に身近な介護予防・生活支援（かよいの場の活用拡大）
- 高齢者・障がい者の生きがい・働きがいづくりへの支援

子どもから高齢者まで、障がいの有無にかかわらず、誰もが自分らしく生きられるまちづくりを行っていくため、小地域ネットワーク活動を軸に地域がともに支えあう共生社会の実現に取り組みます。

《主要方針》

- 小地域ネットワーク活動の拡大

基本目標 5 絆をつなぐ（住民自治・行政）

地域における協働と健全な行財政に支えられたまちづくり

行政課題が複雑化・多様化し、すべての課題への対応が困難となりつつある昨今、地域の課題に市民と地域、行政が連携して対応する協働のまちづくりの重要性はますます高まりつつあります。地域のあらゆる主体によるまちづくりへの参画の推進と、自治会やコミュニティにおける活動の活性化を図ります。

《主要方針》

- 地域特性にあわせた自治・コミュニティ活動の活性化
- 多様な市民主体の活動への支援

人口減少や少子高齢化が進む中、将来を見据えたうえで想定される様々な行政課題に対応した持続可能な行政経営ができるよう、健全な財政運営に努めるとともに、スマート自治体へ向けた検討をはじめとした行政運営の効率化と利便性の向上、社会変化に柔軟に対応できるような職員の育成など組織の高度化、近隣市町との広域連携へ向けた検討などを進めます。

《主要方針》

- シティプロモーションの推進
- DXによる行政運営の効率化・高度化や自主財源の拡大

横断的目標

D X の推進・ゼロカーボンシティの推進

DXの推進

デジタル化による地域課題の解決と暮らしやすさの向上

様々な分野での地域課題に対して、地域資源とデジタル技術やデータ活用を掛けあわせることで課題を解決し市民の暮らしやすさを高めるため、官民連携によるデジタルインフラの開発、デジタル人材の確保・育成を推進します。

《主要方針》

- 地域課題解決に向けたデジタルインフラの開発と活用
- デジタル人材の確保・育成

(分野別DXの活用による取組例)

基本目標	主な取組
基本目標 1 生活環境を守る（都市基盤）	○DXによる道路・橋梁の効率的な整備・管理システムの開発・運用 ○AI型デマンド交通の検討 ○DXによる災害時の迅速な情報伝達システムの構築
基本目標 2 人を育てる（教育文化）	○AI型学習ソフトを活用した家庭での学習支援 ○校務支援システムの導入 ○ICTを活用した教育の充実（職員に対するICT機器の活用に係る研修の開催やICT支援員の配置等）
基本目標 3 活力を生む（産業）	○農業生産のロボット化などによるDXを活用したスマート農業の推進 ○新技術を活用した漁港施設等の定期点検及び機能保全対策の実施 ○キャッシュレス及び電子決済の推進による市内消費の拡大 ○シェアオフィスやワーケーションの活用拡大 ○デジタルを活用した観光客へのリアルタイムな情報提供システムの検討 ○姫戸・龍ヶ岳地区を含めた市全体の観光周遊プランの造成
基本目標 4 安心する暮らしをつくる（健康福祉）	○健康ポイント制度のアプリ化 ○オンライン診療など遠隔医療体制の促進 ○オンラインで子育て相談や情報交換のできるデジタルソーシャルワークの拡大
基本目標 5 絆をつなぐ（住民自治・行政）	○スマート自治体の実現に向けた行政運営のDX化の推進 ○AIやRPAなどの技術の活用による定型業務の自動化や効率的なサービス提供ができるシステムづくり

SDGs 未来都市の目標達成を目指し、様々な分野で豊かな海づくりや環境保全、再生可能エネルギー導入等の取組を進めることで環境を軸とした好循環を生む、まちの暮らしの魅力となる自然環境と市民が共生できるまちを目指します。

《主要方針》

- 豊かな海づくりなどの自然環境の保全と活用
- 脱炭素社会に向けた社会基盤の構築

(分野別ゼロカーボンの推進に向けた取組例)

基本目標	主な取組
基本目標 1 生活環境を守る (都市基盤)	<ul style="list-style-type: none"> ○「エコステーション」の利活用など、資源リサイクルに向けた啓発・支援 ○一般家庭から排出される生ごみの自家処理や学校施設での生ごみの堆肥化 ○フードロス削減に向けた啓発活動・取組の推進 ○住宅用省エネルギー設備の導入促進 ○電動車 (電気自動車、ハイブリッド自動車等) の導入促進 ○再生可能エネルギーの活用によるCO₂の排出削減
基本目標 3 活力を生む (産業)	<ul style="list-style-type: none"> ○森林保全型林業の振興 ○漁場における赤潮対策の推進 ○ブルーカーボン・オフセットなど、脱炭素をテーマにした新たなビジネスの開拓・開発 ○自然環境に配慮した「自然を楽しむ」観光へのブランディングの推進

第3部 前期基本計画

上天草市第3次総合計画 前期基本計画【施策体系図】

計画のみかた

前期基本計画

基本目標 1 生活環境を守る（都市基盤）

基本目標 2 人を育てる（教育文化）

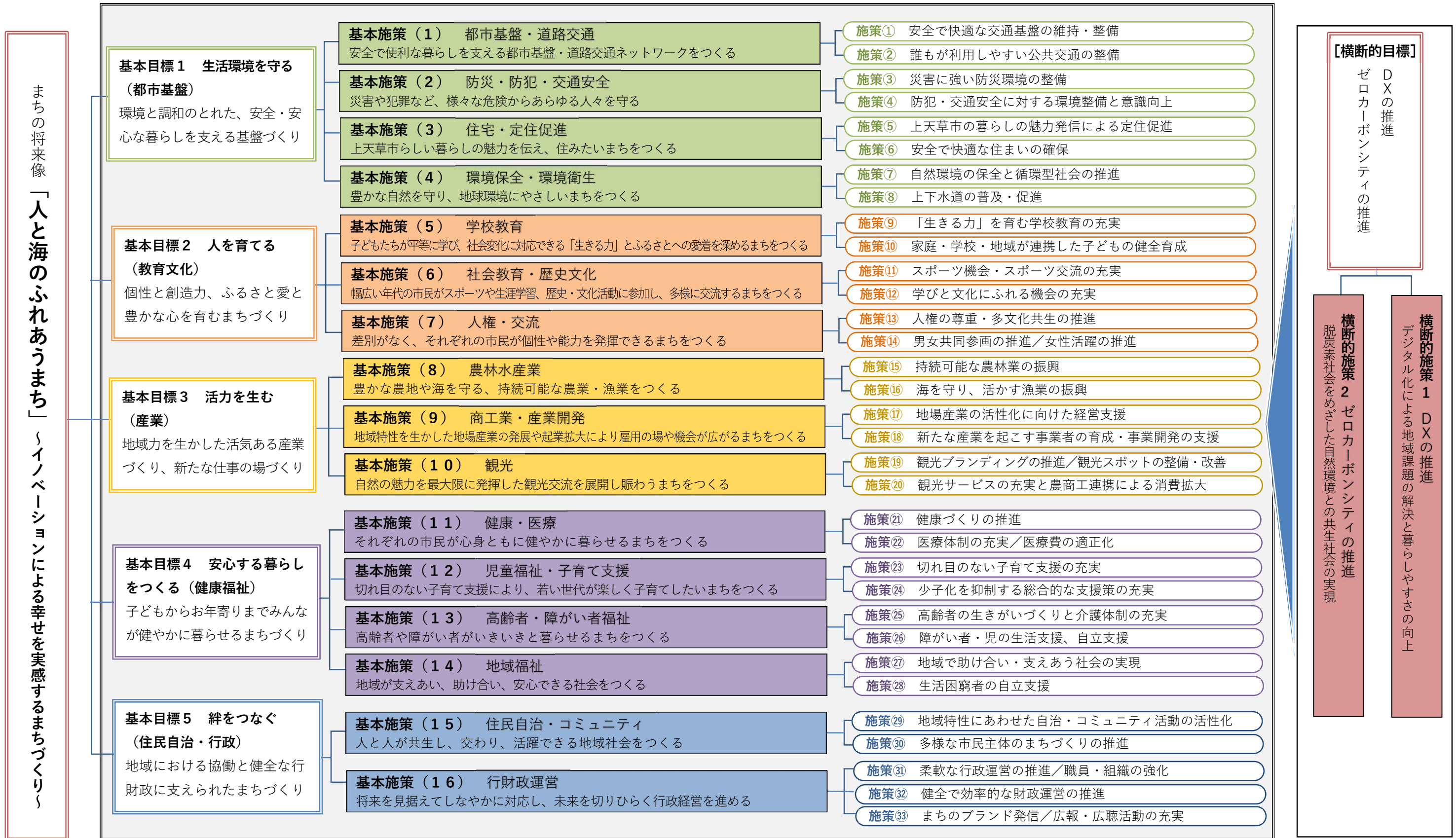
基本目標 3 活力を生む（産業）

基本目標 4 安心する暮らしをつくる（健康福祉）

基本目標 5 絆をつなぐ（住民自治・行政）

横断的目標

上天草市第3次総合計画 前期基本計画【施策体系図】



〈計画のみかた〉

施策テーマと SDGs 目標

施策体系に示す施策テーマと施策を実施することで達成が期待されるSDGs（持続可能な開発目標 ※下図参照）をアイコンを用いて表示しています。

施策目標

施策テーマのめざすまちづくりの目標を示しています。

現状と課題

施策における本市の主要な現状と課題を示しています。

関連計画

施策に関連する、市の個別計画を記載しています。



主な施策内容

「現状と課題」に対する解決に向けた展開となる主な施策を示しています。

重点施策・DX/ゼロカーボン

前期基本計画における重点テーマに該当する取組及び本計画の横断的目標である「DX」「ゼロカーボン」に関する取組をアイコンで示しています。

まちづくり指標

前期基本計画における施策の達成を測る指標を示しています。

SDGs（持続可能な開発目標）を目指したまちづくり

平成 27（2015）年に国連サミットにおいて採択されたSDGsは、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済、社会及び環境をめぐる広範な課題に対して統合的に取り組むこととしています。

本市においては、2022（令和4）年に内閣府から「SDGs 未来都市」及び「自治体SDGs モデル事業」に選定され、同年に「上天草市SDGs 未来都市計画」を策定し、同計画に基づく取組を推進しており、このSDGsの達成に向けた、長期的な視点に立った取組を加速化していくことが必要となっています。



前期基本計画

基本目標 1 生活環境を守る（都市基盤）

環境と調和のとれた、安全・安心な暮らしを支える基盤づくり

基本施策（1）【都市基盤・道路交通】

安全で便利な暮らしを支える都市基盤・道路交通ネットワークをつくる

基本施策（2）【防災・防犯・交通安全】

災害や犯罪など、様々な危険からあらゆる人々を守る

基本施策（3）【住宅・定住促進】

上天草市らしい暮らしの魅力を伝え、住みたいまちをつくる

基本施策（4）【環境保全・環境衛生】

豊かな自然を守り、地球環境にやさしいまちをつくる

基本施策（1）

都市基盤・道路交通

安全で便利な暮らしを支える都市基盤・道路交通ネットワークをつくる

【施策①】

安全で快適な交通基盤の維持・整備



施策
目標

未来に向けた経済の好循環と安心・安全な暮らしをつなぐ
道路環境を整備します

現状と課題

課題1

広域的な幹線道路の計画的な整備が必要です。

開通が予定されている熊本天草幹線道路をはじめ、広域幹線道路は観光等経済の好循環や地域の移住定住など、新たな地域活性化の可能性へつなぐ社会基盤となります。今後も早期開通に向けた働きかけを進める必要があります。

課題2

老朽化した道路・橋梁などへの対応が必要です。

市内には老朽化が進む道路や橋梁は数多く存在しており、市民の今後の重点改善ニーズが高くなっています。市民の安全を守る通学路や交通安全施設の安全かつ円滑な交通を確保するため、計画的に工事を進める必要があります。

課題3

計画的な港湾施設の補修・更新が必要です。

海上交通、物流の基盤となる港湾施設の機能を維持していくため、財政負担を考慮し計画的な港湾施設の補修及び更新の実施が必要となっています。

関連計画

舗装個別施設計画／上天草市橋梁長寿命化修繕計画／上天草港港湾施設維持管理計画

主な施策内容

課題1 展開1

都市計画道路、幹線道路の整備

- 熊本天草幹線道路の整備促進、八代・天草シーラインの実現に向けた国等への要望活動など、広域的な幹線道路ネットワークの構築を目指します。

課題2 展開2

道路の整備と維持管理

- 市道等に対する優先度を定めた舗装工事による適正な維持管理を進め、安全かつ円滑な交通環境を確保します。
- 長寿命化計画に基づき、橋梁の点検や補修工事に係る新技術の採用も検討しながら維持管理を進めます。
- DXによる道路・橋梁の効率的な整備・管理システムの開発・運用を進めます。

DX

課題3 展開3

港湾の整備

- 維持管理計画に基づき、計画的な港湾施設の改修及び更新等を進め、施設機能の維持を図ります。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 市道の舗装が悪く、通行時に不快に感じる箇所が多いと思う割合（市民意識調査）	64.7%	57.3%
<input type="checkbox"/> 港湾利用者の満足度（市民意識調査）	73.9%	73.9%

基本施策（1）

都市基盤・道路交通

安全で便利な暮らしを支える都市基盤・道路交通ネットワークをつくる

【施策②】

誰もが利用しやすい公共交通の整備



施策
目標

ひと・地域を支え、にぎわいを創出する交通ネットワークを整備します

現状と課題

課題1

利便性の高い公共交通網の構築が必要です。

公共交通機関の整備は市民の重点改善ニーズが高く、高齢化社会や観光振興に対応した利便性の高い公共交通網の構築が必要となっています。

課題2

公共交通手段を維持確保するためには市民等の利用促進が必要です。

路線バス等の公共交通手段の利用者の減少が顕著となっており、利用者のニーズの変化に対応した公共交通網を形成するだけでなく、市民への公共交通の必要性を啓発し、利用を促進することで公共交通を維持していく必要があります。

関連計画

上天草市地域公共交通計画

主な施策内容

課題1 展開1

公共交通の充実

- 上天草市地域公共交通計画に基づき、公共交通手段（乗合タクシーなど）を見直し、将来に向けて持続可能な交通網を形成します。
- 既存輸送サービスを活用した移動手段を確保するほか、AI デマンドシステムや観光客の公共交通の利用も視野に入れた新たな移動サービスである MaaS 実現を検討します。

DX

重点

課題2 展開2

公共交通の利用促進

- 広報紙や公共交通だより等による地域公共交通に関する情報発信、路線バスの乗り方教室等地域公共交通を体験する機会などを提供し、地域公共交通に対する利用促進や意識啓発を図ります。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 公共交通に対する満足度（市民意識調査）	22%	40%
<input type="checkbox"/> 乗合タクシーの年間利用者数	9,708人	29,100人

基本施策（2）

防災・防犯・交通安全

災害や犯罪など、様々な危険からあらゆる人々を守る

【施策③】

災害に強い防災環境の整備



施策
目標

災害に備えた社会基盤の整備と地域の防災力を高め、災害に強いまちづくりを進めます

現状と課題

課題1 風水害の多発化・甚大化に備えた災害に強い社会基盤づくりが必要です。

昨今は風水害が多発化しており、災害に備えた国土強靱化が求められています。本市では浸水被害や急傾斜地崩壊等への減災対策が課題となっています。

課題2 市民の防災意識の高揚と地域防災力の強化、災害情報など防災対策の充実が必要です。

災害時に迅速な初期対応ができるよう、日頃からの市民の防災意識高揚と、各地域の自主防災組織を中心とした地域の防災力強化が求められます。あわせて、防災アプリや戸別受信機等による市民が災害情報を入手できる環境の整備が求められています。

課題3 災害時に市民の安全を守る避難体制・避難場所の確保が必要です。

災害時に市民が安全に避難できるよう、避難行動の支援が必要な市民を中心とした地域の避難体制の強化や指定避難所の耐震化、拠点拡大が求められます。また、震災時の津波に備えた高台避難など災害に応じた避難行動ができるよう定期的な防災訓練が求められています。

課題4 非常備消防の消防団の団員の確保が必要です。

災害が多発化・多様化する中、迅速に対応できる消防団及び自主防災組織の重要性は高まっているものの、地域防災を支える消防団及び自主防災組織は高齢化による団員の退団や自主防災組織の弱体化などにより、団員の確保と自主防災組織の強化が課題となっています。

関連計画

上天草市国土強靱化地域計画／上天草市地域防災計画／上天草市国民保護計画

主な施策内容

課題1 展開1

国土強靱化に向けた基盤整備

- 上天草市国土強靱化地域計画に基づき災害の危険性の高い急傾斜地や荒廃地等の減災対策工事、堤防・護岸等の海岸保全施設の長寿命化対策の実施を計画的に進めます。
- 大矢野庁舎前等の冠水対策として大矢野川の整備、維和蔵々地区の水路整備、合津川等の河川改修及び排水機場の更新を推進します。

課題2 展開2

防災体制・防災環境の強化

- 上天草市地域防災計画に基づく地域における大規模災害を想定した防災体制を強化するとともに、自主防災組織による地域の防災力の強化を進めます。
- 総合防災マップや広報等による災害情報の掲載や防災訓練の実施等により、地域住民の防災意識を啓発します。
- DXによる災害時の迅速な情報伝達システムを構築します。

DX

重点

課題3 展開3

避難体制の強化

- 大規模災害（大雨、地震、津波）を想定した避難訓練を、自主防災組織及び関係機関と連携し実施します。
- 自主防災組織との連携により、避難行動に支援が必要な方への避難支援体制を強化します。
- 避難所の耐震化・拠点拡大等による災害時の安全な避難場所を確保します。
- 防災拠点施設など防災基盤を整備するとともに防災情報連絡体制を強化します。

課題4 展開4

消防体制の充実と自主防災組織の強化

- 地区ごとに説明会等を開催し、若者世代の消防団及び自主防災組織への加入促進に努めます。
- 自主防災組織体制の強化を図るとともに地域防災力の強化のため、地域の特性を盛り込んだ地区防災計画作成を推進します。

展開5

危機管理体制の強化

- 上天草市国民保護計画に基づく庁内組織体制を強化し住民の安全確保に努めます。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 自主防災組織活動支援補助金活用率	39.0%	50.0%
<input type="checkbox"/> 地区防災計画作成率	2.0%	50.0%

基本施策（2）

防災・防犯・交通安全

災害や犯罪など、様々な危険からあらゆる人々を守る

【施策④】

防犯・交通安全に対する環境整備と意識向上



施策
目標

地域ぐるみで、犯罪など、様々な危険からあらゆる人々を守るまちをつくれます

現状と課題

課題1

地域の安全を守る防犯体制の充実が必要です。

市民を犯罪から守るために、防犯灯等の整備や防犯パトロールを強化するなど、協働による防犯体制の充実が求められます。

課題2

新たな詐欺被害等に対応した消費者被害の対策が必要です。

インターネットを使った詐欺被害のほか、高齢者を狙った悪質商法や詐欺など、消費者被害は多発化・多様化しており、意識啓発や相談支援等の対策が必要となっています。

課題3

子どもたちの通学路の安全確保が必要です。

交通事故による被害を減らすため、子どもたちの通学路の安全確保に向けた環境整備が求められています。

関連計画

主な施策内容

課題1 展開1

地域の防犯体制の充実

- 警察・行政・地域が連携し、防犯に関する啓発活動や各地域の定期的な防犯パトロール体制を充実します。
- 防犯灯や防犯カメラ等の設置を支援し防犯環境を強化します。

課題2 展開2

消費者被害対策の推進

- 関係機関と連携し、消費者被害を未然に防止するための情報提供や啓発・相談体制を充実します。

課題3 展開3

交通安全対策の充実

- 通学路などの市道の交通安全対策を推進し、道路利用者の安心・安全な通行空間を確保します。
- 高齢者等を対象とする交通安全教室、交通安全の啓発活動などによる交通事故の防止や交通規制に関する理解や意識を高めます。
- 高齢運転者を中心とした運転技術のデジタルスコアを活用した講習等により安全運転意識を高めます。

DX

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 交通事故件数	18件	13件
<input type="checkbox"/> 防犯カメラ補助設置台数	12件	42件

基本施策（3）

住宅・定住促進

上天草市らしい暮らしの魅力を伝え、住みたいまちをつくる

【施策⑤】

上天草市の暮らしの魅力発信による定住促進



施策
目標

「上天草に暮らす」ことの魅力や支援策を効果的に発信し、移住・定住者を増やします

現状と課題

課題 1

移住定住策の拡大や市民の人口定着による人口減少の抑制が必要です。

今後も予測されている人口減少を抑制するため、幅広い視点からの効果的な定住促進策を推進する必要があります。

また、市民がまちに誇りや愛着をもち、市外への転出を抑制（人口定着）するための取組が必要となっています。

関連計画

主な施策内容

課題1 展開1

移住・定住支援の推進

- メディア等と連動した移住定住に向けたプロモーション戦略を実施します。
- 市民への郷土愛の醸成を兼ねたプロモーションを進め、人口定着を図るとともに、子どものふるさと教育を充実し、ふるさとへの愛着を深めることで、将来的な定住の促進につなげていきます。
- 県と連動し、市内への移住定住を促進するための定住支援助成金の交付などの支援策を展開します。

課題1 展開2

お試し居住による移住定住の促進

- 移住希望者を対象とした、本市での暮らしを体験する「お試し居住」を実施します。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 移住者数（累計）	478人	888人

基本施策（3）
住宅・定住促進

上天草市らしい暮らしの魅力を伝え、住みたいまちをつくる

【施策⑥】

安全で快適な住まいの確保



施策 目標

増加する空き家や公営住宅を有効に活用し、市内の住まいを拡大します

現状と課題

課題1

今後の増加が想定される空き家の利活用が必要です。

空き家バンクを活用した空き家の流通を拡大するため、空き家所有者への利活用を促進し、供給できる空き家物件の掘り起こしが必要となっています。

課題2

公営住宅の老朽化に対する対策が必要です。

老朽化が進む公営住宅の計画的な改修や長寿命化、バリアフリー化等が必要となっています。

関連計画

上天草市空家等対策計画／上天草市公営住宅長寿命化計画

主な施策内容

課題1 展開1

空き家対策の推進

重点

- 空き家バンクを幅広く発信し、活用を拡大するとともに、空き家バンクへの登録物件の掘り起こしを進めます。
- 空き家の利活用を促進するため、空き家所有者や今後の空き家予備軍の世帯に対して、空き家相続対策、将来の空き家利活用に対する啓発を行います。
- 周囲に危険を及ぼすおそれのある老朽危険空き家等への対策を強化します。

課題2 展開2

公営住宅の維持管理

- 計画的な公営住宅の修繕及び長寿命化・バリアフリー化等を図ります。また、必要に応じて、集約化や建替えの検討を進めます。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 空き家バンク新規登録件数（年間）	22件	27件

基本施策（4） 環境保全・環境衛生	豊かな自然を守り、地球環境にやさしいまちをつくる
----------------------	--------------------------

【施策⑦】

自然環境の保全と循環型社会の推進



施策 目標

市民とともに、市の貴重な自然を守り、循環型社会をつくります

現状と課題

課題1

市民満足度の高い豊かな自然の保全が必要です。

住民アンケートでは、市の自然の豊かさへの市民の満足度は高く、まちの住みやすさの最も高い要因となっています。小中学生アンケートでも自然（海）の豊かさへの関心は高く、海の清掃活動への参加意欲も高くなっています。今後も豊かな自然を保全していくために、市民との協働による保全活動が求められます。

課題2

ごみの減量化等による環境負荷の少ない循環型社会づくりが必要です。

地球温暖化の進行が社会問題となる中、環境負荷の少ない循環型社会づくりに向けて、ごみの減量化やリサイクル化等の更なる取組の拡大が求められています。また、観光客のポイ捨てを含めた不法投棄は増加しており、対策が必要となっています。

課題3

ゼロカーボンシティに向けた再生可能エネルギーの導入に向けた取組が必要です

上天草市「ゼロカーボンシティ」宣言の取組の一つである「再生可能エネルギー分野」における取組の推進が求められます。

関連計画

上天草市環境基本計画／上天草市循環型社会形成推進地域計画

主な施策内容

課題1 展開1

自然環境・景観の保全

重点

- 市内の小中高校生も参加している地域の海岸清掃活動（海の日クリーン作戦）を継続するとともに、ボランティア団体による海岸清掃活動を支援します。
- 広報によるアダプトプログラム制度や登録団体の活動などを紹介し、登録団体や会員の増加につなげます。

ゼロカーボン

- 水源涵養など森林のもつ公益的機能の発揮を目的に森林組合等が実施する森林間伐等を支援します。

課題2 展開2

循環型社会の推進／ごみの減量化

ゼロカーボン

重点

- 「エコステーション」の利活用など、資源リサイクルに向けた啓発・支援を進め、ごみの減量化を図ります。

ゼロカーボン

重点

- 可燃ごみの減量化及びリサイクル率の向上を図るため、一般家庭から排出される生ごみの自家処理や学校施設での生ごみの堆肥化を進めます。

ゼロカーボン

- フードロス削減に向けた啓発活動・取組を推進します。
- ごみの分別収集を徹底します。
- 不法投棄やごみのポイ捨てを防止するため、マナー啓発等の対策を進めます。

課題3 展開3

再生可能エネルギーの活用

ゼロカーボン

- 住宅用省エネルギー設備の導入を促進するため、広報で市民へ周知します。

ゼロカーボン

- 電動車（電気自動車、ハイブリッド自動車等）の導入を促進します。

ゼロカーボン

重点

- 再生可能エネルギーを活用してCO₂の排出削減を図るとともに経済循環ができる仕組みづくりを検討します。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
□ 市の公共施設における温室効果ガス（CO ₂ ）排出量	7.3 千 t-CO ₂	4.4 千 t-CO ₂
□ 1人1日当たりのごみ排出量（生活系、事業系ごみの合算）	868 g／人日	813 g／人日

基本施策（4）

環境保全・環境衛生

豊かな自然を守り、地球環境にやさしいまちをつくる

【施策⑧】

上下水道の普及・促進



施策
目標

安全でおいしい水道水が利用でき、生活排水がきちんと処理されるまちをつくります

現状と課題

課題1 水の安定供給を確保するため、老朽化した水道施設の更新が必要です。

水道施設の老朽化や今後の人口減少に伴う持続可能な水道経営などを見据え、水の安定供給へ向けた取組を実施する必要があります。

課題2 生活排水対策による水質汚濁の防止が必要です。

河川などの水質を保全し、生活環境を向上させるため、引き続き合併処理浄化槽等の計画的な普及促進を図ることが求められています。

関連計画

上天草市水道事業ビジョン／上天草市水道事業経営戦略

主な施策内容

課題1 展開1

市民と環境を支え続ける水道

- 水道ビジョンに基づき老朽化した水道施設の計画的な更新と耐震化を実施します。
- 経営戦略に沿った取組を実施し、水道経営の安定化を図ります。

課題2 展開2

適正な生活排水処理の推進

- 市施設の合併処理浄化槽への計画的な転換、市民への合併処理浄化槽等の普及促進を図ることにより、生活排水による水質汚濁の防止・環境保護を進めます。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 管路経年劣化率	21.85%	19.61% (類似団体平均値)

前期基本計画

基本目標 2 人を育てる（教育文化）

個性と創造力、ふるさと愛と豊かな心を育むまちづくり

基本施策（5）【学校教育】

子どもたちが平等に学び、社会変化に対応できる「生きる力」とふるさとへの愛着を深めるまちをつくる

基本施策（6）【社会教育・歴史文化】

幅広い年代の市民がスポーツや生涯学習、歴史・文化活動に参加し、多様に交流するまちをつくる

基本施策（7）【人権・交流】

差別がなく、それぞれの市民が個性や能力を発揮できるまちをつくる

基本施策（5）
学校教育

子どもたちが平等に学び、社会変化に対応できる「生きる力」とふるさとへの愛着を深めるまちをつくる

【施策⑨】

「生きる力」を育む学校教育の充実



施策 目標

地域ぐるみで、豊かな心・確かな学力・健やかな体の調和のとれた自立できる子どもが育つまちをつくります

現状と課題

課題1

児童生徒の学力向上と教職員の働き方改革が必要です。

子どもたちが個性と創造性を備えた自立した人間として成長できるよう、学力向上に向けた学校教育の充実と家庭教育への支援が求められます。また、課題となっている教職員の多忙化解消に向けた業務の効率化や人的支援が求められています。

課題2

子どもの心のケア対策、貧困対策が必要です。

いじめや不登校の児童生徒に対する自立支援に向けた取組や子どもの貧困問題に対応した就学が困難な子どもに対する経済的支援や就学支援が必要となっています。

課題3

ICTの効果的な活用による学習指導環境の向上、老朽化する学校施設の改善が必要です。

情報化に対応した子どもの知識・技術の習得に対応できるよう、ICTの効果的な活用による学習指導環境の向上が求められています。また、老朽化が著しい校舎や屋内運動場等の学校施設の改修・長寿命化が必要となっています。

課題4

食の重要性への理解と正しい食生活の習得が必要です。

食の重要性への理解と正しい食生活を習得するため、学校給食を通じた食育の推進が求められています。

課題5

上天草高校への進学率の向上に向けた魅力化が必要です。

市内唯一の高校である上天草高校の入学者を増加するため、新たな学科やカリキュラムの新設を含めた魅力ある高校づくりへ向けた取組を充実させる必要があります。

関連計画

上天草市教育大綱／上天草市公立学校規模適正化基本計画

主な施策内容

課題1 展開1

重点

DX

DX

子どもの学力向上と個性を伸ばす教育の推進

- 児童生徒の学力の向上に向けて、教職員の指導力向上、教育審議員や指導主事によるサポート体制を維持・充実します。
- 家庭学習の充実による児童生徒の学習の定着を図るためのAI型学習ソフトを活用した学習を支援します。
- 教職員の多忙化の解消に向けて、校務支援システムの導入を進めるとともに、学習支援員、特別支援教育補助員の配置等の人的なサポートを継続します。

課題2 展開2

重点

個に応じた学習支援・教育指導、就学支援の充実

- いじめ問題や不登校の解消に向けて、いじめ問題アドバイザー、自立支援相談員によるアドバイス等の支援、スクールサポーターや学習支援員の配置による児童生徒の指導支援を進めます。
- 子どもの就学支援対策として就学援助や学校給食費の負担軽減等の取組を実施します。また、奨学金の貸与を行い、高校、大学等の修学に係る支援を実施します。

課題3 展開3

DX

学びを支える教育環境の充実

- 老朽化する学校施設に対する改築や大規模な改修、施設の長寿命化を進めます。
- ICTを活用した教育を充実するため、職員に対するICT機器の活用に係る研修の開催やICT支援員の配置等を進めます。
- 上天草市公立学校規模適正化基本計画に基づき、意見交換会や説明会等の実施による学校統合の検討を進めます。

課題4 展開4

安全で安心できる給食の提供

- 安全で栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、地元食材を活用し、地産地消を促進します。

課題5 展開5

重点

上天草高校の魅力化

- 地域活動や地元産業との連携・交流機会の充実、オープンキャンパスなどの体験機会の創出により、上天草高校の魅力化を進めます。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 小中学校の県学力学習状況調査の県平均値	小学6年 国語：-2.0p/算数：-0.1p 中学2年 国語：-1.0p/数学：2.9p 英語：-3.1p	県平均値を上回る
<input type="checkbox"/> 全児童生徒数に占める不登校児童生徒数の割合（出現率）	1.60%	1.60%
<input type="checkbox"/> 市内中学生の上天草高校への進学率	26.5%	32.7%

基本施策（5）
学校教育

子どもたちが平等に学び、社会変化に対応できる「生きる力」とふるさとへの愛着を深めるまちをつくる

【施策⑩】

家庭・学校・地域が連携した子どもの健全育成



施策 目標

地域とともに、ふるさとへの愛着を深め、心身ともに健全な子どもを守り、育てます

現状と課題

課題 1 ふるさとへの愛着を深める子どもの教育が必要です。

市内の子どもたちが将来を通じてふるさとに愛着をもち、将来、まちへ戻ってきたいと思う愛郷心を醸成するため、子どもたちへのふるさと教育の推進が必要となっています。

課題 2 子どもを支える地域教育力の向上が必要です。

地域の子どもの地域活動や学習を支援する地域学校協働活動推進員や学習支援員は人材の高齢化や人材不足が課題となっており、地域教育力の向上に向けた人材の確保が必要となっています。

課題 3 子どもの基礎体力の向上、部活動の地域移行の円滑化が必要です。

部活動の地域移行に伴い、子どもの部活動離れや運動機会が減少し、基礎体力の低下が進んでおり、部活動の地域移行の円滑化と子どもの基礎体力向上に向けた取組が必要となっています。

課題 4 家庭での基礎的な習慣を身につける家庭教育の促進が必要です。

核家族化が進み、身近な人から子育てを学ぶ機会が減少し、地域のつながりが希薄化する中、子どもの基礎的な習慣を身につけるための家庭教育の促進が必要となっています。

関連計画

上天草市教育大綱

主な施策内容

課題1 展開1

ふるさと教育の推進

重点

- 子どもたちに地域のスポーツや文化活動等を通じて、ふるさとの良さを記憶させるシーンをつくり、ふるさとへの愛着を高めます。

課題2 展開2

地域における子どもの教育機会の充実

- 各学校に配置する地域学校協働活動推進員による地域住民と協働した体験活動や地域文化継承活動を充実します。
- 児童生徒の学習習慣の確立と基礎学力の定着等に向けた地域未来塾やオンライン塾（受験対策）による学習支援を充実します。

課題3 展開3

子どもたちの体力向上に向けたスポーツの推進

- 中学生の部活動のスポーツ活動を地域活動へ円滑に移行するための体制づくりを進めます。
- 子どもの基礎体力向上に向けて、軽度な身体活動やニュースポーツのできる機会をつくれます。

課題4 展開4

家庭教育の促進

- 家庭における基礎的な生活習慣を学ぶ家庭教育講座を開催します。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> スポーツイベントに参加する市民の数	2,544 人／年	6,440 人／年
<input type="checkbox"/> 地域未来塾の参加者数	265 人／年	300 人／年
<input type="checkbox"/> 親の学びのプログラムへの参加者数	198 人／年	250 人／年

基本施策（6）
社会教育・歴史文化

幅広い年代の市民がスポーツや生涯学習、歴史・文化活動に参加し、
多様に交流するまちをつくる

【施策⑪】

スポーツ機会・スポーツ交流の充実



施策 目標

幅広い年代の市民がスポーツを通じて健康増進や市民交流が進む機会を
広げます

現状と課題

課題1 健康志向の高まりにあわせた市民のスポーツ活動の拡大が必要です。

健康志向の高まりにあわせ、市民のスポーツ活動の普及・拡大を図るための機会の充実が求められています。

課題2 子どもの基礎体力向上を含めた、市民のスポーツ活動の普及を拡大する体制づくりが必要です。

市内のスポーツ活動を普及・推進するために必要な指導者等の体制の充実が必要となっています。

課題3 老朽化した体育施設の環境整備が必要です。

老朽化が進む体育施設の計画的な改修・解体、長寿命化を進める必要があります。

課題4 スポーツを通じた年代を超えた市民交流の推進が必要です。

地域のコミュニティが希薄化する中、市民同士の支え合い、助け合いの互助社会をつくるために、スポーツを機会とした市民交流の拡大が必要となっています。

関連計画

上天草市教育大綱

主な施策内容

課題1 展開1

スポーツ・レクリエーションの充実

- 上天草市スポーツ協会と連携し、各種スポーツ大会を実施し、市民のスポーツへの参加機会を拡大します。

課題2 展開2

普及体制の推進

- 上天草市スポーツ協会やスポーツ推進委員との連携によりスポーツ指導者を育成・確保し、市民のスポーツ活動の普及体制を確保します。

課題3 展開3

施設環境の確保

- 大矢野総合スポーツ公園や松島総合運動公園をはじめとする市内体育施設の長寿命化計画による計画に沿った体育施設の改修・整備を進めます。

課題4 展開4

スポーツを通じた市民交流の拡大

重点

- 幅広い年代の市民参加と交流を拡大するスポーツ・レクリエーションイベントを開催します。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
□ スポーツイベントに参加する市民の数	2,544人／年	6,440人／年

※再掲

基本施策（6） 社会教育・歴史文化	幅広い年代の市民がスポーツや生涯学習、歴史・文化活動に参加し、多様に交流するまちをつくる
----------------------	--

【施策⑫】

学びと文化にふれる機会の充実



施策 目標

本と歴史の交流館イコットを起点に多様な生涯学習活動の展開を支援するとともに、市の歴史文化に親しむ機会を広げます

現状と課題

課題 1 幅広い市民が参加する生涯学習環境の充実が必要です。

生涯学習活動団体は人材の高齢化や減少が進んでおり、新たな指導者の育成、活動団体への参加促進により生涯学習環境の充実が必要となっています。

課題 2 本と歴史の交流館イコットを活用した読書活動・文化活動の充実が必要です。

本と歴史の交流館イコットを起点とした市民の文化や読書を通じた交流機会の拡大が求められます。

課題 3 地域の歴史文化財の保存・継承が必要です。

文化財などを通じた市の歴史や文化への理解を深める機会を充実するため、地域文化財の保存・継承が求められています。

課題 4 文化団体の育成と市民の文化にふれる機会の充実が必要です。

上天草市文化協会と連携した文化芸術活動の推進と幅広い文化とふれあう機会の充実が求められます。

関連計画

上天草市教育大綱／上天草市子ども読書活動推進計画

主な施策内容

課題1 展開1

学習機会の充実

- 公民館を活用した「いきいき成人大学」等の生涯学習講座を充実します。
- 生涯学習関連団体による自主的な生涯学習活動を支援します。
- 生涯学習関連団体活動を広報等で周知し、市民参加を広げます。

課題2 展開2

新図書館を活用した市民の学習機会の拡大

重点

- 本と歴史の交流館イコットの基本理念である、誰でも気軽に「楽しく活動」でき、「地域拠点・交流の場」となり、「情報が集まり発信できる場」を推進し、市民の学習機会・交流機会を広げます。
- 上天草市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもの積極的な読書活動を推進します。

課題3 展開3

歴史・文化財への理解促進

- 地域の大切な歴史的・文化的資産である文化財を保護します。
- 資料展示や講座等を通じた、市民への歴史や文化財に関する理解・周知機会を充実します。

課題4 展開4

市民の文化活動の促進

- 上天草市文化協会で開催される上天草市芸術文化祭等を支援します。
- いきいき芸術体験教室等の実施を支援し、市民の文化芸術にふれあう機会を拡大します。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 図書館の貸出冊数	60,548 冊／年	80,000 冊／年
<input type="checkbox"/> 本と歴史の交流館利用者数	48,000 人	75,000 人
<input type="checkbox"/> 生涯学習講座・教室の参加者数	501 人	700 人

※本と歴史の交流館利用者数の基準値については、共用開始が令和5年10月であったため、令和5年度（見込み）の数値

基本施策（7）

人権・交流

差別がなく、それぞれの市民が個性や能力を発揮できるまちをつくる

【施策⑬】

人権の尊重・多文化共生の推進



施策
目標

国籍や性別・年代を問わず、誰もが人権や多様性を尊重し活躍できるまちをつくりま

現状と課題

課題 1

幅広い市民の人権に関する理解促進が必要です。

様々な価値観をもった市民が相互に人権を尊重できる社会をつくるため、幅広い市民へ向けた人権に関する正しい理解を深める教育・啓発活動の充実が求められています。

課題 2

多文化共生に向けた意識啓発、国際交流・国際理解の促進が必要です。

外国人労働者の増加などを背景とした、多文化共生に向けた意識啓発、国際交流・国際理解の促進が求められています。

関連計画

上天草市人権教育・啓発基本計画

主な施策内容

課題1 展開1

人権啓発の推進

- 社会情勢や環境、人々の価値観の変化などにより発生する新しい人権問題へ対応した人権講話などの効果的な人権啓発活動を実施します。
- 人権における新たな社会課題などを学ぶ機会として、人権講演会や各種自主講座を開催し、市民の人権に対する理解及び認識の向上を図ります。

課題2 展開2

市民交流・国際交流の推進

重点

- 市外との幅広い交流機会の創出、国際交流を拡大し、市民の国際感覚や外国人居住者の増加に備えた多文化共生への意識を醸成します。
- 青少年のホームステイへの参加等により、語学研修及び異文化等の交流を広げ、子どもの豊かな国際感覚の育成を図ります。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 人権講話・人権講演会等の参加者数	238人	600人
<input type="checkbox"/> 海外との交流イベントの開催回数（累計）	0回	5回

基本施策（7）

人権・交流

差別がなく、それぞれの市民が個性や能力を発揮できるまちをつくる

【施策⑭】

男女共同参画の推進／女性活躍の推進



施策
目標

男女共同参画の推進により、女性の権利を守り、活躍を推進します

現状と課題

課題 1

地域社会における女性の社会進出を支援する男女共同参画の推進が必要です。

女性活躍推進の視点に立ち、地域社会における女性の社会進出を支援する男女共同参画施策の推進が求められています。

課題 2

増加する DV 被害者へのサポート体制の充実が必要です。

DV などの人権侵害による被害が増加しており、被害を予防するための相談体制の充実と被害者へのサポート体制の充実が求められています。

関連計画

上天草市男女共同参画推進計画

主な施策内容

課題1 展開1

男女共同参画社会の推進

- 上天草市男女共同参画推進計画に基づき、男女共同参画に対する市民の意識を高めるとともに、女性活躍推進法に基づく女性の活躍の場づくりや多様な働き方への支援を進めます。

課題2 展開2

DV 防止対策の推進

- 関係者・関係機関との連携や情報共有により DV 防止に向けた周知啓発と DV 被害に対する早期発見・早期対応ができるサポート体制をつくります。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 男女共同参画に関心がある市民の割合 （市民意識調査）	24.1%	35.0%

前期基本計画

基本目標 3 活力を生む（産業）

地域力を生かした活気ある産業づくり、新たな仕事の場づくり

基本施策（8）【農林水産業】

豊かな農地や海を守る、持続可能な農業・漁業をつくる

基本施策（9）【商工業・産業開発】

地域特性をいかした地場産業の発展や起業拡大により雇用の場や機会が広がる
まちをつくる

基本施策（10）【観光】

自然の魅力を最大限に発揮した観光交流を展開し賑わうまちをつくる

基本施策（8）

農林水産業

豊かな農地や海を守る、持続可能な農業・漁業をつくる

【施策⑮】

持続可能な農林業の振興



施策
目標

農作業の効率化や農産物の収益向上、担い手の育成・確保を図り、持続可能な農林水産業の活性化を目指します

現状と課題

課題 1

持続可能な農業の生産基盤の確立が必要です。

安定した農業生産を可能とするため、農地、農道、水路の基盤整備や維持管理、担い手への農地の集積や農業生産の効率化・高度化による持続可能な農業経営が求められます。

課題 2

農業従事者の高齢化や担い手不足解消が必要です。

高齢化や後継者不足により、農業の従事者は減少しており、新たな農業者の確保と育成のため、新規就農者の育成支援や新たな農業経営に参入する人への農地利用の促進が求められます。

課題 3

耕作放棄地対策、有害鳥獣対策が必要です。

耕作放棄地の解消に向けて認定農業者等への農地流動化等に取り組む必要があります。また、課題となっている有害鳥獣被害を防止するために猟友会等と連携した捕獲活動の推進等の対策が必要となっています。

課題 4

収益性・生産性の向上による持続できる農業の推進が必要です。

農業の収益向上に向けて、農産物の付加価値化や市内事業者と連携した6次産業化や販路拡大に向けた取組が必要となっています。

課題 5

地産地消の拡大が必要です。

地産地消により地元の農業や農産物にふれる機会を拡大し、市の農業に対する関心・理解を深めることが求められています。

関連計画

上天草市産業振興促進計画／上天草市農業振興地域整備計画／上天草市森林整備計画

主な施策内容

課題1 展開1

生産基盤の整備

- 認定農業者を中心に農業経営の規模の拡大、耕作の事業に供される農用地の集団化、高度化を促進します。
- 各地区の農業基盤の整備による農業生産を効率化します。
- 農業生産のロボット化やAIの活用などによるDXを活用したスマート農業を推進します。

DX

重点

課題2 展開2

担い手確保・就農支援

- 新規就農者に対する技術指導等の相談窓口等のサポート体制を拡充するとともに、新規就農者が農業経営を継続できるよう伴走支援を充実します。
- 農地中間管理機構による農地の貸借を推進し、新たに農業経営を行おうとする者の参入を促進します。

課題3 展開3

遊休農地の活用・有害鳥獣対策の充実

- 耕作放棄地の解消に向けて、認定農業者等の遊休農地の活用を支援します。
- 猟友会と連携し、捕獲する対象鳥獣を拡大し有害鳥獣対策を推進します。

課題4 展開4

収益性・生産性の高い農業の実現

- 民間事業者による加工品開発と販売促進、ブランド製品の飲食店等への販路拡大を支援します。
- 民間事業者の加工商品に関する企画力及び営業力のスキルアップに向けたセミナー等の情報を提供します。
- 市の花卉のPRと消費拡大に向けて、一般消費者向けイベントによる花にふれる機会を提供します。

課題5 展開5

地産地消の推進

- 学校給食への地元農産物の使用を継続することで、子どもたちの地元の農業への関心を高めるとともに、地元の農産物などについて市内に広報することで、地産地消を推進します。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値 (令和4年)	目標値 (令和9年)
<input type="checkbox"/> 新規農業者数 (経営開始資金採択者数)	1人/年	2人/年
<input type="checkbox"/> 農作物の産出額	223千万円	234千万円
<input type="checkbox"/> スマート農業技術導入経営体数	3 経営体	8 経営体

基本施策（8）

農林水産業

豊かな農地や海を守る、持続可能な農業・漁業をつくる

【施策⑬】

海を守り、活かす漁業の振興



施策
目標

水産資源を育て、活かし、収益性の高い生産基盤を確立します

現状と課題

課題1

持続可能な生産基盤の確立が必要です。

漁港施設の施設機能の維持を図るとともに、海洋の環境変化に対応した赤潮対策や藻場整備、稚魚放流などの持続可能な漁業生産が可能な漁場の整備が必要となっています。

課題2

漁業従事者の担い手不足解消が必要です。

漁業者の高齢化に伴う後継者不足の解消に向けた対策が必要となっています。

課題3

収益性・生産性の向上による持続できる漁業の推進が必要です。

漁業の収益向上に向けて、加工品開発による付加価値化や販路拡大に向けた取組が必要となっています。

課題4

地産地消の拡大が必要です。

地産地消により地元の漁業や水産物にふれる機会を拡大し、市の漁業や魚食に対する関心・理解を深めることが求められています。

関連計画

上天草市産業振興促進計画

主な施策内容

課題1 展開1

生産基盤の整備

DX

重点

ゼロカーボン

- 藻場整備や稚魚の放流等による育てる栽培漁業への環境整備を支援します。
- 老朽化している漁港施設等に対して新技術を活用した定期点検及び機能保全対策の実施による施設機能の維持を進めます。
- 漁場における赤潮対策を推進します。

課題2 展開2

担い手確保

- 新規漁業者を確保するため、継続的な育成・定着に向けた支援を充実します。

課題3 展開3

収益性・生産性の高い漁業の実現

- 民間事業者による加工品開発と販売促進、ブランド製品の飲食店等への販路拡大を支援します。
- 民間事業者の加工商品に関する企画力及び営業力のスキルアップに向けたセミナー等の情報を提供します。

課題4 展開4

地産地消の推進

- 上天草市漁業者クラブによる児童生徒を対象とした地産地消及び魚食普及を目的とした料理教室を開催します。
- 学校給食への地元水産物の使用を継続することで、子どもたちの地元の漁業への関心を高めるとともに、地元の水産物などについて市内に広報することで、地産地消を推進します。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 新規漁業者数	2人／年	2人／年
<input type="checkbox"/> 漁業生産額	573.1 千万円	573.1 千万円

基本施策（9）

商工業・産業開発

地域特性を生かした地場産業の発展や起業拡大により雇用の場や機会が広がるまちをつくる

【施策⑰】

地場産業の活性化に向けた経営支援



施策
目標

地場産業の経営改善、活性化に向けた取組を支援します

現状と課題

課題1 地場産業の経営基盤の再生・強化が必要です。

市内の既存の地場産業は景気低迷等により経営基盤が弱体化しており、事業承継や廃業防止のため、経営再生・強化に向けた支援が必要となっています。

課題2 市全体における雇用不足への対処が必要です。

市全体の産業は雇用不足が課題となっており、DX 推進の動きに対応した新たな産業の活性化による雇用の創出が必要となっています。

関連計画

上天草市産業振興促進計画

主な施策内容

課題1 展開1

経営支援・事業承継の支援

- 商工会をはじめとした商工関係団体等の各種団体との連携により、地場産業の経営支援や事業承継等に対して支援します。

課題2 展開2

デジタル化による市内の経済活性化

DX

重点

- キャッシュレス及び電子決済の推進により市内消費の拡大と経済の地域内循環を促すことで地場産業の活性化を図ります。また、地域通貨の導入を推進します。
- 高校生等への地元事業者のPRやマッチング機会等による地場産業への雇用の確保・拡大を進めます。
- 海運業の若手育成に向けて、市内の児童生徒への海運業の魅力を発信し、人材育成の支援を充実します。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> キャッシュレスアプリ「ココシル」の市内での利用者数（累計）	500人	7,500人
<input type="checkbox"/> 上天草高校からの地元就職者数（累計）	8人	52人

基本施策（9）

商工業・産業開発

地域特性を生かした地場産業の発展や起業拡大により雇用の場や機会が広がるまちをつくる

【施策⑱】

新たな産業を起こす事業者の育成・事業開発の支援



施策
目標

起業家の育成や事業開発を支援し、将来、産業の基軸となる新たな芽を育てます

現状と課題

課題1 雇用の場の拡大による人口流出の抑制

ITベンチャー等の起業家を育成するなど若手人材の起業や雇用の場の拡大が必要となっています。

課題2 地域資源を生かした新たな産業の創出

ゼロカーボンシティに向けた脱炭素をテーマにした環境ビジネス等、時代の経済潮流にあわせ、地域資源を生かした新たな産業の開発が求められます。

関連計画

上天草市産業振興促進計画

主な施策内容

課題1 展開1

起業者の育成支援

重点

●「上天草市起業創業者支援ネットワーク」による官民が連携し一体となった創業支援により、新規起業者の増加を図ります。

DX

重点

●シェアオフィスやワーケーションの活用を拡大し、若手人材の起業しやすい場づくりを進め、市外から起業人材を誘致します。

課題2 展開2

産学官の連携による新産業創出

ゼロカーボン

重点

●ブルーカーボン・オフセットなど、脱炭素をテーマにした新たなビジネスの開拓・開発など、市の地域資源を生かした新産業の育成に向けた研究を支援します。

展開3

企業誘致の推進

●熊本県、在京・在阪県人会や、既存誘致企業との連携により、新規企業立地を推進します。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 起業・創業支援件数	10件	20件

基本施策（10）

観光

自然の魅力を最大限に発揮した観光交流を展開し賑わうまちをつくる

【施策⑱】

観光ブランディングの推進/

観光スポットの整備・改善



施策
目標

SDGsの推進と連動した豊かな自然を楽しむ観光をブランディングし、インバウンドを含めた観光交流の拡大を図ります

現状と課題

課題1

SDGs未来都市にふさわしい、自然環境への配慮をテーマにした観光地を目指すことが必要です。

市全体のSDGsの推進と観光振興を連動させ、自然環境に配慮した持続可能な観光地の実現を目指す必要があります。

課題2

集客拠点となる前島地区・宮津地区の観光地としての魅力向上が必要です。

本市の観光振興の中核である前島地区と再開発が進む宮津地区の魅力を上向きし、集客効果を高めていく必要があります。

課題3

アウトドア観光を中心にした観光施設のブラッシュアップが必要です。

アウトドア観光をメインに拠点となる観光施設や自然景観等を楽しめる質の高い観光地へブラッシュアップする必要があります。

課題4

市内全域を周遊させる観光客の交通利便性の確保・充実

観光客の市内での移動環境の利便性を高めるため、観光サインの設置や公共交通を活用した市内周遊プランの構築が必要です。

関連計画

上天草市観光ブランディング計画／宮津地区将来構想／上天草市産業振興促進計画

主な施策内容

課題1 展開1

観光ブランディングの推進

ゼロカーボン

重点

- インバウンド需要の取り込みを目指し、「SDGs×観光」による自然環境に配慮した「自然を楽しむ」観光へのブランディングを推進します。
- 「ナナメ上ノ上天草」のブランドイメージの定着を図るため、行政と市民、観光事業者等が一体となって市内外の多面的なブランドプロモーションを展開します。
- 上天草の観光ブランド「ナナメ上ノ上天草」を活用した旅行商品の開発・販売による、さらなるブランドイメージの浸透を図ります。
- TSMCの進出を契機に、台湾を中心とした東アジアへの観光誘致を進めます。

課題2 展開2

宮津地区・前島地区の開発

重点

- 前島地区の観光交流活性化施設を中心に、各種マリンスポーツやボルダリング、サイクリング等のスポーツアクティビティを推進します。
- 宮津地区拠点施設整備基本計画に基づき、道の駅上天草さんばーを核とした宮津地区の整備を進めます。
- キリシタン関連施設と連携した天草四郎ミュージアムの展示内容や企画を充実し、天草のキリシタン施設のゲートウェイとしての施設の訴求力を高めます。

課題3 展開3

観光スポットの整備・改善

- キャンプ場や海水浴場などの既存の観光施設の維持管理を行います。
- 国道や観光スポットに四季折々の花などを植栽するなど観光地としてふさわしい美しい景観の維持、九州自然歩道等の美しい自然景観を満喫できる環境を整え、維持管理します。
- 開発事業者と連携した樋合地区リゾート開発により、水産業をはじめとした地元事業者との連携による市内の経済効果を拡大します。
- 姫戸・龍ヶ岳地区を含めた市内の観光周遊ルートを開発し、周辺への観光客及び観光消費額を増加させます。

課題4 展開4

観光ルート開発・観光サインの整備

DX

- 周辺自治体と連携し広域的な観光マップ等での観光情報を発信するとともに、デジタルを活用した観光客へのリアルタイムな情報提供システムを検討します。
- 主要観光施設へ誘導するサイン看板について、多言語化やデザイン統一などの見直しを行います。
- 公共交通機関を利用したツアー等商品を開発・販売し、アクセスの不便さの軽減を図ります。
- 市内全体へ波及する観光周遊を推進するため、姫戸・龍ヶ岳地区を含めた市全体の観光周遊プランの造成などを検討します。

DX

重点

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 年間観光入込客数	1,521,978 人	2,200,000 人
<input type="checkbox"/> 観光消費額	12,388,322 千円	16,733,200 千円

基本施策（10）

観光

自然の魅力を最大限に発揮した観光交流を展開し賑わうまちをつくる

【施策⑳】

観光サービスの充実と農商工連携による
消費拡大



施策
目標

農商工連携による観光サービス・商品を開発し、観光消費を他の産業へ経済循環させます

現状と課題

課題1

食、自然等の地域資源を活用した体験観光等の充実が必要です。

これまでの観光オフレ等のスポーツアクティビティや地域の食資源を生かした観光サービスを充実することで誘客効果を高める取組が必要となっています。

課題2

市内の観光・物販施設の強化による観光消費の拡大と他産業への地域経済の循環が必要です。

観光消費を市内の産業へ循環させるため、さんばーをはじめとした宮津地区・前島地区の販売拠点を強化していく必要があります。

課題3

引き続きスポーツ合宿等の団体旅行の誘致が必要です。

これまでに取組を進めてきたスポーツ合宿等の団体旅行の誘致を引き続き進めていく必要があります。

関連計画

上天草市産業振興促進計画

主な施策内容

課題1 展開1

観光サービスの充実

重点

- 市民等による地域ならではの食、自然等の資源を活用したイベントを開催します。
- 九州オルレ、トレッキング、サイクリングや新たに整備する姫戸白嶽森林公園のジップライン等、アウトドアアクティビティと健康を組み合わせた体験プログラムを充実します。
- 市内を周遊するサイクルツーリズムを拡大するため、天草地域全体での受け入れ環境を整備します。
- 市民の観光への関心を高め、市民による観光ボランティアガイドを養成し、おもてなしによる観光地の魅力向上を図ります。

課題2 展開2

さんばーるを核とした物販の販路拡大と消費拡大

- 熊本天草幹線道路（大矢野道路）開通を見据え、市産品の集積拠点であるさんばーるの機能を拡充するとともに、市外への農林水産物の販路拡大を図ります。
- 市内外での物販イベントの開催、参加により、市の食の魅力を発信し、消費を拡大します。

課題3 展開3

スポーツ合宿等団体旅行の誘致

- 県内外から本市へのスポーツ合宿の受入体制の確保と助成を行い、誘致活動を拡大するとともに、県内プロスポーツチームと連携したスポーツ教室の開催に向けた取組を行います。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 地域資源を活用した体験イベントへの参加者数	45,229人	57,972人
<input type="checkbox"/> 上天草物産館さんばーるの年間販売額	724,060千円	800,000千円
<input type="checkbox"/> スポーツ合宿受入団体数	13団体	40団体

前期基本計画

基本目標4 安心する暮らしをつくる（健康福祉）

子どもからお年寄りまでみんなが健やかに暮らせるまちづくり

基本施策（11）【健康・医療】

それぞれの市民が心身ともに健やかに暮らせるまちをつくる

基本施策（12）【児童福祉・子育て支援】

切れ目のない子育て支援により、若い世代が楽しく子育てしたいまちをつくる

基本施策（13）【高齢者・障がい者福祉】

高齢者や障がい者がいきいきと暮らせるまちをつくる

基本施策（14）【地域福祉】

地域が支えあい、助け合い、安心できる社会をつくる

基本施策（11）

健康・医療

それぞれの市民が心身ともに健やかに暮らせるまちをつくる

【施策②1】

健康づくりの推進



施策
目標

ライフステージにあわせた健康づくりや健診等の健康管理を促進します

現状と課題

課題1

健診（検診）受診等を通じた、市民の健康づくりへの意識づけが必要です。

市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組むため、健康に関心のある人への継続的な支援と、健康に関心のない人への意識づけを行う必要があります。

課題2

健診又は医療に関心が低い40代・50代をターゲットとした受診勧奨を行うことで、生活習慣病の早期発見につなげることが必要です。

市民一人ひとりの疾病の早期発見、重症化予防や生活習慣の改善のため、健診の受診勧奨と保健指導の強化が必要となっています。

課題3

参加者が固定化しつつある健康づくり教室への参加促進が必要です。

高齢者を中心とした健康づくり教室を実施していますが、参加者が固定化しており、若い世代や働き盛り世代を中心に健康づくり活動へ参加しやすい環境づくりが必要となっています。

課題4

食生活改善推進員協議会と連携した正しい食生活の定着が必要です。

食生活改善推進員協議会と連携し、市民に正しい食習慣を啓発するための取組が必要となっています。

関連計画

上天草市健康づくり推進計画

主な施策内容

課題1 展開1

健診（検診）受診の促進

- 疾病の早期発見や重症化を予防するため健診受診の重要性を広報、ホームページ等を通じて周知・啓発し、健診受診率の向上を図ります。
- 住民（集団）健診を受けやすい体制整備と、医療機関での個別健診の強化を図ります。

課題2 展開2

受診勧奨・保健指導活動の強化

- 健診又は医療に関心が低い40・50代をはじめ、健診を受診していない人をターゲットに訪問、電話等で受診勧奨を実施します。
- 特定保健指導が必要な対象者へ個別に面接、訪問を行い、継続した保健指導を実施します。

課題3 展開3

健康づくり・介護予防の推進

- 地域の「かよいの場」等における介護予防教室、運動教室を実施するなど、保健事業と介護予防の一体的な実施による高齢者の健康づくりを推進します。
- 健康ポイント制度のアプリ化を進め、若い世代の健康づくりへの参加拡大を図ります。

DX

重点

課題4 展開4

食育の推進

- 食生活改善推進員による食育活動を支援し、幅広く市民へ正しい食習慣を普及します。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 特定健診の受診率	34.0%	50.0%

基本施策（11）

健康・医療

それぞれの市民が心身ともに健やかに暮らせるまちをつくる

【施策②②】

医療体制の充実／医療費の適正化



施策
目標

適正な医療が受けられる医療体制を充実し、国民健康保険の安定運営に向け医療費の適正化を推進します

現状と課題

課題1 安心して受診できる医療体制の確保が必要です。

住民アンケートでは、「医療の充実」に対する市民の重要度は高く、今後も医療機関と連携し、安心して受診できる地域医療体制を充実することが求められています。

課題2 新たな感染症に備えた対策が必要です。

新型コロナウイルス感染症の教訓を活かし、今後も発生が懸念される新たな感染症に備えた対策が必要となっています。

課題3 医療費の適正化による国民健康保険運営の安定化が必要です。

高齢化に伴い、医療費の増加による財政への負担の拡大が懸念されており、国民健康保険運営のさらなる安定化のため、これまで以上に被保険者の健康増進や医療費適正化が求められています。

関連計画

主な施策内容

課題1 展開1

DX

重点

医療体制の充実

- 上天草総合病院を中心とした市内の安定した医療・救急体制を確保します。
- DXによるオンライン診療など遠隔医療体制を促進するとともに、マイナンバーカードの健康保険証利用を促進することで他病院と医療情報が共有・連携できる環境づくりを進めます。

課題2 展開2

感染症対策の推進

- 新たな感染症の発生に対して、迅速な対応ができるよう、感染症予防に向けた適切な情報提供や啓発、防疫対策などの危機管理対策を整えます。

課題3 展開3

医療費の適正化

- 国民健康保険制度などの社会保障制度の持続可能な運営を図るため、介護予防の推進、生活習慣病の予防・改善、ジェネリック医薬品の普及啓発などによる医療費の適正化を図ります。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
□ 上天草総合病院におけるマイナンバーカードでの健康保険証利用率	0.1%	40.0%
□ 市民一人当たり医療費 (国保及び後期被保険者に限る)	793,702 円	714,331 円

基本施策（12）
児童福祉・子育て支援

切れ目のない子育て支援により、若い世代が楽しく子育てしたいまちをつくる

【施策⑳】

切れ目のない子育て支援の充実



施策 目標

多様化する子育てニーズに対応し、妊娠から出産・子育てまで切れ目のない子育て支援を進めます

現状と課題

課題1

支援を必要としている子育て家庭への切れ目のない支援が必要です。

核家族化や共働き世帯が増加する中、子育て支援を必要としている家庭が増加しており、援助を必要とする子どもや家庭の支援が必要となっています。

課題2

ニーズに対応した保育体制の確保が必要です。

市内の保育所へのニーズは多様化しており、入所者数は増加・低年齢化しています。こうしたニーズに対応するため、保育士の確保を含めた保育環境の確保が必要となっています。

課題3

学童保育の充実が必要です。

登録児童数が増加している学童保育に対応できる環境の整備が必要となっています。

課題4

地域で支えあう子育て支援が必要です。

核家族化の進展や地域同士の助け合いなどが少なくなる中、子育て家庭が孤立化し、不安に陥らないよう、子育て支援センターを中心に地域の子どもとその家庭を支え合う環境づくりが必要となっています。

課題5

児童虐待を防止できる体制が必要です。

児童虐待の発生を防止できるよう、関係機関と連携した相談支援や虐待の早期発見が求められています。

関連計画

上天草市子ども・子育て支援事業計画

主な施策内容

課題1 展開1

母子保健活動の充実

- 乳幼児健診の受診勧奨を行うとともに、健診の場での相談・指導により母子の健康課題解決に向けた取組を進めます。
- 母子保健推進員による支援が必要な妊産婦・乳幼児に対する指導を充実します。
- 関係機関との役割分担により、妊娠期から子育て期にわたり妊娠、出産、子育てに関する母子の相談・支援を進めます。

課題2 展開2

保育環境の充実

- 保育園入所者数の増加・低年齢化に対応した保育環境を確保するため、適正な利用定員の見直しを検討します。
- 病気中の子どもの育児の施設等における一時預かり、子どもの体調管理を支援する病児保育を実施します。

課題3 展開3

学童保育の充実

- 登録児童数の見込みを検討しながら、必要に応じた学童保育施設の環境を整備します。

課題4 展開4

地域の子育て支援の充実

- 地域子育て支援拠点や子育て支援センターを活用した、子育て家庭の保護者の悩み相談の場を充実します。
- オンラインで子育て相談や情報交換のできるデジタルソーシャルワークを拡大します。
- 母子手帳アプリ等を活用した情報発信を進め、統合版アプリによる相談予約などの相談体制を充実します。
- ファミリーサポートセンター事業を実施し、地域における子育ての相互援助活動を促進します。

DX

重点

課題5 展開5

児童虐待防止体制の強化

- 児童相談所や家庭児童相談員、学校・保育所など関係機関と連携し、児童虐待の早期発見・防止等体制を強化します。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 子育てに不安や負担を感じない人の割合（市民意識調査）	37.5%	41.0%
<input type="checkbox"/> 児童虐待案件相談件数（相談しやすい体制の充実）	102件	120件

基本施策（12）
児童福祉・子育て支援

切れ目のない子育て支援により、若い世代が楽しく子育てしたいまちをつくる

【施策⑳】

少子化を抑制する総合的な支援策の充実



施策 目標

安心して産み育てられるまちをアピールする少子化対策を推進します

現状と課題

課題 1

少子化を抑制するための市独自の子育て支援策が必要です。

進行する少子化の傾向に歯止めをかけるため、子育て世帯への経済的支援をはじめとした市の独自の支援策を推進し、安心して産み育てられるまちをアピールしていく必要があります。

課題 2

幅広い分野の総合的な視点に立った少子化対策の推進が必要です。

少子化対策に取り組むためには、子育て中の就労やひとり親家庭の支援など、子育てを取り巻く幅広い生活環境に対する総合的な支援が必要となっています。

関連計画

上天草市子ども・子育て支援事業計画

主な施策内容

課題1 展開1

子育て世帯への経済的な支援

重点

- 18歳までを対象とした子ども医療費の助成など、子育て世帯への経済的支援を充実します。

課題2 展開2

総合的な少子化対策の推進

重点

- 子育て中でも柔軟に働ける環境づくりや子どもの貧困化対策、ひとり親家庭への支援など子育てを取り巻く生活環境への総合的な支援策を推進します。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 子育て世代（20～40代）の転入数	170人	187人
<input type="checkbox"/> 出生率（人口1,000人当たり）	5.1人	6.3人

基本施策（13）

高齢者・障がい者福祉

高齢者や障がい者がいきいきと暮らせるまちをつくる

【施策②⑤】

高齢者の生きがいくりと介護体制の充実



施策
目標

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせ、生きがい・働きがいをもてるよう支援します

現状と課題

課題1

医療・介護が連携した地域包括ケアによる高齢者の介護・生活支援が必要です。

超高齢社会の進展により高齢者世帯、高齢者独居世帯が増加しており、医療・介護が連携し高齢者の暮らしを支える地域包括ケアシステムによる総合的な支援体制が求められています。

課題2

高齢者の身近な生活支援サービスや支え合いの仕組みづくりが必要です。

高齢化に伴い、買い物や外出などの生活支援を必要としている高齢者が増えており、身近な生活支援サービスの充実、地域の支え合いや助け合いの仕組みづくりが必要とされています。

課題3

地域での高齢者の経験と能力を生かした生きがい、働きがいの創出が必要です。

高齢者が社会や地域との関わりや役割を持ち続けるため、豊富な経験や知識を活かし、趣味、就労、ボランティアなどへの幅広い社会参加を支援するための環境整備が必要となっています。

関連計画

上天草市高齢者福祉計画／上天草市介護保険事業計画

主な施策内容

課題1 展開1

地域包括ケアの推進

- 地域包括支援センターを中心に、在宅医療と介護の連携をはじめ多様な主体の参画により高齢者の日常生活を支援する地域包括ケア体制を推進します。

課題2 展開2

生活支援サービスの充実

- 社会福祉協議会との連携により、生活支援コーディネーターを中心とした、地域に応じた生活支援サービスを充実します。
- 高齢者の日常生活支援や居場所づくり等の担い手となる人材を養成し、支え合い活動を促進します。
- 高齢者等の買物弱者に対する買い物支援対策を推進します。

課題3 展開3

高齢者の活躍の場づくり

重点

- 老人クラブによる健康づくり、生きがいつくり等の活動内容を周知し、クラブへの会員加入を促進します。

重点

- シルバー人材センターの活動を支援するとともに、センターでの就労機会を拡大します。

重点

- 働き方改革に伴う多様な働き方への変化に対応し、民間事業者と連携し、高齢者の人材を活用した新たな就労の機会をつくります。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
住み慣れた地域で安心して生活できていると感じている人の割合	53.8%	55%
家事（ゴミ出し・買い物・掃除・食事の準備など）が困っていると答えた人の割合	8.3%	7%
<input type="checkbox"/> 老人クラブの会員数	3,272人	3,300人
<input type="checkbox"/> シルバー人材センター登録者数	224人	250人

基本施策（13）

高齢者・障がい者福祉

高齢者や障がい者がいきいきと暮らせるまちをつくる

【施策②6】

障がい者・児の生活支援、自立支援



施策
目標

障がい者・児が自立した生活ができる環境づくりを支援します

現状と課題

課題1

障がいに応じたサービスに関する情報発信・相談体制の充実が必要です。

障がい者・児が障がいに応じたサービスを受けることができるよう、情報発信・相談体制の充実が求められています。

課題2

障がい者の一般就労につなげる就労系福祉サービス事業所の確保が必要です。

広域的な視点にたった障がい者の就労系福祉サービス事業所の確保が必要となります。

課題3

障がい者が地域社会の中で暮らしやすく、社会参加しやすいまちづくりが必要です。

障がい者が地域社会の中で自立した暮らしが送れるよう、適正な生活支援などにより社会参加しやすいまちづくりが求められています。

関連計画

上天草市障がい福祉計画・上天草市障がい児福祉計画／上天草市障がい者計画

主な施策内容

課題1 展開1

相談支援の強化

- 障がい者が住みなれた地域で日常生活または社会生活を営むために、障がいにあわせた必要な支援を受けられるよう相談支援を強化します。

課題2 展開2

障害福祉サービスの充実

- 各種障害福祉サービスの適切な提供や周知に努め、障がい者の自立支援や社会参加を進めます。
- 障がい児を支援するため、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所、保育所等訪問事業所等を確保します。
- 広域的な連携により、就労選択支援、就労移行支援、就労定着支援、就労継続支援等の事業所を確保します。

課題3 展開3

地域で生活する障がい者・児への支援

- 障害者総合支援法に基づき、地域の実情に応じた障害福祉サービス、地域生活支援事業等を実施し、障がい者・児の生活支援と社会参加を支援します。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 障がい者の就労支援サービスの利用者数	158人	245人

基本施策（14）

地域福祉

地域が支えあい、助け合い、安心できる社会をつくる

【施策⑳】

地域で助け合い・支えあう社会の実現



施策
目標

地域住民や自治会、福祉関係機関、行政それぞれが役割を持ち、支えあい・助け合いによる地域づくりを進めます

現状と課題

課題1

地域の身近な助け合い、支えあいのできるつながりづくりが必要です。

一人暮らし高齢者等、見守りを必要とする市民も増加しており、小地域ネットワーク等による地域における支え合いや住民参加による福祉活動を継続していくための仕組みづくりが求められています。

課題2

認知症サポーターなどボランティア人材の養成、活用機会の拡大が必要です。

今後の増加が見込まれる認知症高齢者の見守りや早期発見・早期対応、認知症高齢者やその家族への支援を進めるため、認知症サポーターなどの人材の養成や人材の活用が必要となっています。

関連計画

上天草市地域福祉計画・地域福祉活動計画／上天草市介護保険事業計画

主な施策内容

課題1 展開1

地域の支えあい活動の充実

- 社会福祉協議会が開催する地域座談会において、住民が自ら地域の福祉課題の解決に取り組むことで、地域共生社会の実現に向けた「自助」「互助・共助」「公助」の連携を中心とした地域の支え合い活動の充実を図ります。

課題2 展開2

ボランティア人材の育成

- 認知症サポーター養成講座を開催し、認知症高齢者を支援する人材を育成するとともに、養成講座修了者のボランティア活動につなげていきます。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 認知症サポーター養成講座の受講者数	8,539人	11,100人

基本施策（14）

地域福祉

地域が支えあい、助け合い、安心できる社会をつくる

【施策⑳】

生活困窮者の自立支援



施策
目標

生活困窮者の生活安定と自立を支援します

現状と課題

課題1

生活困窮者への相談体制の充実が必要です。

ひとり親世帯等、経済的に不安定かつ困窮している世帯は増加しており、総合的・包括的な相談支援と自立に向けた就労支援が必要となっています。

主な施策内容

課題1 展開1

相談支援体制の充実

- 関係部署・社会福祉協議会との連携による生活困窮者のセーフティネットとなる相談窓口の確保と生活困窮者一人ひとりに適した支援を進めます。

課題1 展開2

自立支援

- ハローワークと福祉事務所の連携により生活困窮者で就労可能な者に対する就労活動を支援します。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 就労支援事業に参加した生活困窮者等の就労率	33.0%	50.0%

前期基本計画

基本目標5 絆をつなぐ（住民自治・行政）

地域における協働と健全な行財政に支えられたまちづくり

基本施策（15）【住民自治・コミュニティ】

人と人が共生し、交わり、活躍できる地域社会をつくる

基本施策（16）【行財政運営】

将来を見据えてしなやかに対応し、未来を切りひらく行政経営を進める

基本施策（15）

住民自治・コミュニティ

人と人が共生し、交わり、活躍できる地域社会をつくる

【施策⑲】

地域特性にあわせた自治・コミュニティ活動の活性化



施策
目標

地域のふれあい・支え合いの核となるコミュニティの活性化を図ります

現状と課題

課題1

自治会加入促進の支援が必要です。

地域のコミュニティの核となる自治会活動は担い手不足や役員の固定化・高齢化が進んでおり、自治会の加入促進による活動の充実が求められています。

課題2

活動拠点となる公民館の維持と公民館活動の推進が必要です。

幅広く地域の住民活動を展開するため、公民館等の活動拠点の環境整備や活動の担い手となる人材の育成が求められています。

関連計画

主な施策内容

課題1 展開1

自治会運営の充実

- 市政運営に密接な関係を持つ行政区の運営及び活動事業を支援し、行政区と市政の円滑な運営を進めます。
- 自治会の未加入者に対する加入促進に向けた取組を検討します。

課題2 展開2

公民館活動の推進

- 研修事業等を実施し、実施各地域の地域活動の中核となる地域リーダーを育成します。
- 対象となる公民館等の施設の改修等による維持管理を進めます。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 活動が活発な行政区	50.4%	70%
<input type="checkbox"/> 公民館等での講座・教室への年間参加者数	501人	750人

基本施策（15）

住民自治・コミュニティ

人と人が共生し、交わり、活躍できる地域社会をつくる

【施策③〇】

多様な市民主体のまちづくりの推進



施策
目標

まちづくりに関わる様々な主体の連携・協働を支援し、地域の課題解決や活性化につなげていきます

現状と課題

課題1

まちづくり団体の活動支援による活性化が必要です。

多くのまちづくり団体が会員の固定化・高齢化が課題となっており、活動の支援による団体活動の活性化が求められます。

課題2

市内外の人材交流による地域課題の解決に向けたまちづくりが必要です。

少子高齢化の進行と住民ニーズの多様化などにより、行政だけで地域課題を解決することが困難になりつつあり、地域おこし協力隊等、市内外の多様な主体による協働のまちづくりの拡大が求められます。

関連計画

主な施策内容

課題1 展開1

まちづくり団体の育成・連携強化

- 市民や団体が主体となって行うまちづくりに対して、スタートアップ等を支援します。
- まちづくり団体の活動内容や成果を広報等を通じて、市民に幅広く周知し、市民の関心を高め、団体への参加拡大につなげます。

課題2 展開2

市外者との幅広い交流・人材還流による地域課題の解決

重点

- 地域おこし協力隊等、地域づくり活動に意欲のある地域外の人材を積極的に募集し、地域活動を支援するとともに、協力隊の生業創出に向けた支援を行うことで地域への定住定着を図ります。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 上天草市まちづくり事業推進助成金 交付申請件数	1件	4件
<input type="checkbox"/> 地域おこし協力隊の任期終了後の 定着率	60.0%	75.0%

基本施策（16）

行財政運営

将来を見据えてしなやかに対応し、未来を切りひらく行政経営を進める

【施策③1】

柔軟な行政運営の推進／職員・組織の強化



施策
目標

官民連携やDX化を含めた、多様な住民ニーズに対応できる行政運営の効率化・高度化を進めます

現状と課題

課題1

新たな社会変化に対応した行政運営の効率化・高度化が必要です。

少子高齢化の進行や多様化する住民ニーズなど、様々な社会変化に柔軟に対応できるように、行政運営の効率化・高度化が求められています。

課題2

自治体DX化による市民サービスの向上が必要です。

行政運営のDX化の進行にあわせ、利便性が高い市民サービスを提供できる環境整備が求められます。

課題3

広域における地域課題解決に向けた事業運営が必要です。

単独の自治体では財源・人材面において解決が難しい地域課題に対して、近隣市町との広域的な連携による事業推進が必要となっています。

課題4

多様化するニーズに対応できる官民連携の推進が必要です。

DX推進の観点を含め、限られた予算や資源を最大限活かすため、PPP/PFIなど官民連携の導入が必要となっています。

関連計画

上天草市人材育成基本方針／上天草市行政改革大綱／上天草市行政改革実施計画／
上天草版デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画

主な施策内容

課題1 展開1

行政サービスの高度化

- 社会経済情勢の変化等に対応できる柔軟な組織体制をつくり、行政運営の効率化・高度化を図ります。
- 働き方改革を盛り込んだ人材育成基本方針に基づき、職員研修や職員の能力開発を進め、人材の資質向上に取り組みます。

課題2 展開2

スマート自治体の推進

DX

重点

- 庁内におけるネットワーク環境を更新・維持管理するとともに、スマート自治体の実現に向けた行政運営のDX化を推進します。

DX

重点

- AIやRPAなどの技術の活用により、定型業務の自動化や効率的なサービス提供ができるシステムづくりを進めます。

課題3 展開3

広域行政の推進

- 天草地域2市1町（上天草市、天草市、苓北町）で構成される天草広域連合における広域事業を継続するとともに、行政の各部門に共通する課題に対して共同による事業運営の検討を進めます。

課題4 展開4

官民連携の推進

- 多様な分野での民間活用に向けて、民間企業や団体等との官民連携を推進するとともに、事業におけるPFIなどの官民連携の導入の可能性を検討します。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
□ 市の行政サービスを受ける場合、利便性が高いと思う市民の割合（市民意識調査）	63.4%	78.0%

基本施策（16）

行財政運営

将来を見据えてしなやかに対応し、未来を切りひらく行政経営を進める

【施策③2】

健全で効率的な財政運営の推進



施策
目標

長期的な視点に立った健全な財政運営に努めます

現状と課題

課題1

持続可能な財政運営が必要です。

市の財政運営は、硬直化した状況が続いています。そのため、長期的な視野に立ち、限られた財源を有効に活用した財政運営が求められます。

課題2

安定した自主財源の確保が必要です。

将来に向けた計画的な財政運営を進めていくためには、安定した自主財源の確保が求められます。

課題3

老朽化が進む公共施設等への対応が必要です。

持続可能な公共施設の維持管理をするためには、老朽化する公共施設等に対して、今後の財政状況も踏まえた適正なマネジメントが必要となっています。

関連計画

上天草市第5次財政計画／上天草市行政改革大綱／上天草市行政改革実施計画／上天草市公共施設等総合管理計画アクションプラン（個別施設計画）

主な施策内容

課題1 展開1

財政運営の効率化

- 限られた財源や人材を有効に活用できるよう、長期的な視野にたった行政改革による計画的な財政運営を推進します。
- 市税の滞納処分やその他の徴収に関する適正な事務を進め、徴収率を向上させます。

課題2 展開2

自主財源の確保

- 新規返礼品の出品やPR活動を充実することでふるさと応援寄附金による自主財源を拡大します。

課題3 展開3

公共施設マネジメントの推進

- 中長期的な視点に立った公共施設マネジメント方針をたて、計画的な施設改修等を実施します。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値 (令和4年)	目標値 (令和9年)
<input type="checkbox"/> 経常収支比率	90.8% (令和4年度決算統計)	95.0%以下
<input type="checkbox"/> ふるさと応援寄付金額	800,000 千円	1,000,000 千円

基本施策（16）

行財政運営

将来を見据えてしなやかに対応し、未来を切りひらく行政経営を進める

【施策③③】

まちのブランド発信／広報・広聴活動の充実



施策
目標

まちの暮らし等の魅力を幅広く発信するとともに、広報・広聴の充実により市民の市政に対する関心を高めます

現状と課題

課題 1

効果的なPRによる市の認知度向上が必要です。

市内外に市の暮らし等の魅力の認知度を高めるため、観光の情報発信と連動した効果的なプロモーションが求められます。

課題 2

広報・広聴活動を通じた市民の市政に対する情報共有・参画機会の拡大

市民が市政や市内のまちづくりへの関心を高め、参画を促進するためには、多様な媒体を活用し市民へわかりやすく情報を届ける広報活動や住民の意見を集める広聴機会の拡大が求められます。

関連計画

主な施策内容

課題1 展開1

シティプロモーションの推進

- 観光プロモーションと連動し、多様な媒体を通じた市の魅力発信、積極的なプロモーションを実施します。

課題2 展開2

広報・広聴活動の推進

- 市広報紙やホームページ、SNS、出前講座等をそれぞれの媒体の特性を活かし、市政の効果的な発信、市民との相互理解を深める広報広聴活動を展開します。
- 市民への情報公開を促進するため、議会活動を積極的に情報発信します。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値（令和4年）	目標値（令和9年）
<input type="checkbox"/> 市 SNS の登録者数	LINE：11,330人 Instagram：4,985人	LINE：17,300人 Instagram：11,900人
<input type="checkbox"/> ふるさと納税公式Instagramの登録者数	380人	860人

前期基本計画

横断的目標

D Xの推進・ゼロカーボンシティの推進

横断的施策1 DXの推進

デジタル化による地域課題の解決と暮らしやすさの向上

横断的施策2 ゼロカーボンシティの推進

脱炭素社会をめざした自然環境との共生社会の実現

横断的施策 1

DXの推進

デジタル化による地域課題の解決と暮らしやすさの向上

施策
目標

● 地域課題解決に向けたデジタルインフラの開発と活用

生活、産業、行政の様々な分野における地域課題の解決に向けてデジタル技術を効果的に活用した施策の展開を図ります。

● デジタル人材の確保・育成

DXを推進していくために必要となるICT技術を習得する環境を整備するとともに、社会のそれぞれの立場で求められる人材の確保・育成を図ります。

関連施策（再掲）

基本目標 1 生活環境を守る（都市基盤）		
【基本施策（1）】 都市基盤・ 道路交通	【施策①】安全で快適な交通 基盤の維持・整備	展開 2 道路の整備と維持管理 ・DXによる道路・橋梁の効率的な整備・管理システムの確立
	【施策②】誰もが利用しやすい公共交通の整備	展開 1 公共交通の充実 ・AI デマンドシステム及び MaaS 実現の検討
【基本施策（2）】 防災・防犯・ 交通安全	【施策③】災害に強い防災環境の整備	展開 2 防災体制・防災環境の強化 ・DXによる災害情報の情報伝達システム構築
	【施策④】防犯・交通安全に対する環境整備と意識向上	展開 3 交通安全対策の充実 ・高齢運転者を中心としたデジタルスコアによる安全運転意識の向上
基本目標 2 人を育てる（教育文化）		
【基本施策（5）】 学校教育	【施策⑨】「生きる力」を育む 学校教育の充実	展開 1 子どもの学力向上と個性を伸ばす教育の推進 ・AI型学習ソフトを活用した家庭学習支援 ・教職員の校務支援システムの導入
		展開 3 学びを支える教育環境の充実 ・ICT 機器の活用に係る研修の開催や ICT 支援員の配置等、ICT の活用促進
基本目標 3 活力を生む（産業）		
【基本施策（8）】 農林水産業	【施策⑮】持続可能な農林業の振興	展開 1 生産基盤の整備 ・農業生産のロボット化や AI の活用などによる DX を活用したスマート農業の推進
	【施策⑯】海を守り、活かす漁業の振興	展開 1 生産基盤の整備 ・漁港施設等の新技術を活用した定期点検及び機能保全対策の実施
【基本施策（9）】 商工業・産業開発	【施策⑰】地場産業の活性化に向けた経営支援	展開 2 デジタル化による市内の経済活性化 ・キャッシュレス・デジタル地域通貨による市内消費の拡大
	【施策⑱】新たな産業を起こす事業者の育成・事業開発の支援	展開 1 起業者の育成支援 ・シェアオフィスやワーケーションの活用拡大による若手人材の起業しやすい場づくり
【基本施策（10）】 観光	【施策⑲】観光ブランディングの推進/観光スポットの整備・改善	展開 4 観光ルート開発・観光サインの整備 ・デジタルを活用した観光客へのリアルタイムな情報発信の提供/市内全体へ波及する観光周遊の推進

基本目標4 安心する暮らしをつくる（健康福祉）		
【基本施策（11）】 健康・医療	【施策⑳】健康づくりの推進	展開3 健康づくり・介護予防の推進 ・健康ポイント制度のアプリ化による若い世代の健康づくりへの参加拡大
	【施策㉑】医療体制の充実/医療費の適正化	展開1 医療体制の充実 ・DXによるオンライン診療など遠隔医療の推進、他病院との医療情報の共有による連携促進
基本目標5 絆をつなぐ（住民自治・行政）		
【基本施策（16）】 行財政運営	【施策㉒】柔軟な行政運営の推進/職員・組織の強化	展開2 スマート自治体の推進 ・スマート自治体に向けた行政運営のDX化の推進 ・AIやRPAなどの技術の活用により、定型業務の自動化や効率的なサービス提供できるシステムづくり

横断的施策2

ゼロカーボンシティの推進

脱炭素社会を目指した自然環境との共生社会の実現

施策
目標

● 豊かな海づくりなどの自然環境の保全と活用

SDGs 未来都市の目標達成をめざし、豊かな海づくりや環境保全に取り組むことで、環境を軸とした好循環を生み、まちの暮らしの魅力を高めます。

● 脱炭素社会に向けた社会基盤の構築

再生可能エネルギーの導入等脱炭素社会を推進することで自然環境と市民が共生できるまちを目指します。

関連施策（再掲）

基本目標1 生活環境を守る（都市基盤）		
【基本施策（4）】 環境保全・環境衛生	【施策⑦】自然環境の保全と循環型社会の推進	展開1 自然環境・景観の保全 ・水源涵養など森林のもつ公益的機能の発揮を目的に森林組合等が実施する森林間伐等を支援
		展開2 循環型社会の推進／ごみの減量化 ・「エコステーション」の利活用など、資源リサイクルに向けた啓発・支援とごみの減量化 ・一般家庭から排出される生ごみの自家処理や学校施設での生ごみの堆肥化 ・フードロスの減少に向けた啓発活動の推進
		展開3 再生可能エネルギーの活用 ・住宅用省エネルギー設備の導入促進 ・公用車のハイブリッド車（低公害車）の導入促進 ・住宅用太陽光発電システム設置支援
基本目標3 活力を生む（産業）		
【基本施策（8）】 農林水産業	【施策⑯】海を守り、活かす漁業の振興	展開1 生産基盤の整備 ・漁場における赤潮対策の推進
【基本施策（9）】 商工業・産業開発	【施策⑱】新たな産業を起こす事業者の育成・事業開発の支援	展開2 産学官の連携による新産業創出 ・ブルーカーボン・オフセットなど、脱炭素をテーマにした新たなビジネスの開拓・開発
【基本施策（10）】 観光	【施策⑲】観光ブランディングの推進/観光スポットの整備・改善	展開1 観光ブランディングの推進 ・「SDGs×観光」による自然環境に配慮した「自然を楽しむ」観光へのブランディングの推進

資料編

1 上天草市第3次総合計画の策定経過

(1) 策定の経緯

年月日	内容
令和4年9月	上天草市まちづくりアンケート調査（市民対象）の実施 上天草市まちづくり中学生アンケート調査の実施 活動団体アンケート調査の実施
令和4年12月19日・20日	第1回上天草市総合計画策定ワーキング会議 ・各分野のまちづくりの重点課題・テーマの協議 (産業部会／医療福祉部会／生活環境・都市基盤部会／教育文化部会)
令和5年1月26日	令和4年度第1回上天草市振興計画審議会 ・計画策定の趣旨説明 ・住民アンケート調査等の報告 ・総合政策カルテをもとにした第3次総合計画の重点課題・テーマの審議
令和5年3月1日・2日	第2回上天草市総合計画策定ワーキング会議 ・計画骨子案の協議 (産業部会／医療福祉部会／生活環境・都市基盤部会／教育文化部会)
令和5年3月24日	令和4年度第2回上天草市振興計画審議会 ・計画骨子案について ・重点目標・重点戦略について
令和5年7月25日	令和5年度第1回上天草市振興計画審議会 ・基本構想素案について
令和5年8月28日・29日	第3回上天草市総合計画策定ワーキング会議 ・基本計画骨子案の協議 (産業部会／医療福祉部会／生活環境・都市基盤部会／教育文化部会)
令和5年10月3日	令和4年度第2回上天草市振興計画審議会 ・基本構想素案の修正について ・前期基本計画骨子案について
令和5年11月29日	令和4年度第3回上天草市振興計画審議会 ・上天草市第3次総合計画の前期基本計画素案について ・前期基本計画の成果指標素案について
令和5年12月25日 ～令和6年1月26日	パブリックコメントの実施
令和6年2月14日	令和4年度第4回上天草市振興計画審議会 ・上天草市第3次総合計画素案について

(2) 上天草市振興計画審議会委員

氏名	役職
◎清須美 匡洋	九州大学 名誉教授
荒木 ミドリ	上天草市地域婦人会連絡協議会 会長
切通 努	上天草市校長会 会長
柿原 晃夫	上天草市民生委員児童委員協議会連合会 会長
山下 勝市	上天草市区長連合会 会長（大矢野地区代表）
萩原 英史	上天草市区長連合会 副会長（松島地区代表）
糺本 佐戸之	上天草市区長連合会 副会長（姫戸地区代表）
瀬脇 庫一	上天草市区長連合会 副会長（龍ヶ岳地区代表）
千原 光明	上天草市商工会 会長
松本 秀彦	（一社）天草四郎観光協会 会長
中本 敏久	あまくさ農業協同組合 大矢野支所長
北岡 秀敏	天草漁業協同組合 上天草総合支所長
田中 辰夫	上天草市議会 総務常任委員長
嶋元 秀司	上天草市議会 経済建設常任委員長
小西 涼司	上天草市議会 文教厚生常任委員長
何川 雅彦	上天草市議会 議会運営委員長

◎会長（令和6年3月現在）

(3) 諮問・答申

■ 諮問

上天企第1047号
令和5年1月26日

上天草市振興計画審議会
会長 清須美 匡洋 様


上天草市長 堀江 隆臣

諮 問 書

下記について、別紙により諮問する。

記

上天草市第3次総合計画の内容の妥当性



別紙

上天草市第3次総合計画の内容の妥当性

1 諮問理由

平成16年3月31日に4町が合併し、上天草市が誕生した。本市においては、これまで「上天草市総合計画」及び「上天草市第2次総合計画（以下「第2次総合計画」という。）」に基づき、「人と海のふれあいまち」をキャッチフレーズに掲げ、民間・地域団体等と協力して、積極的にまちづくりに係る各種施策に取り組んできたところである。

近年では、我が国を取り巻く社会・経済情勢は大きく変化しており、予想を上回る速さでの少子高齢化の進行や人口減少社会の到来、AIやIoTなどのデジタル技術の進展、地球温暖化などの環境問題の顕在化、新型コロナウイルス等の新たなリスクの発生等による生活様式の変化等が急速に進んでいる。本市においても、人口減少や少子高齢化の急速な進行など、これまでも認識されてきた課題に加え、多様化する社会情勢の変化、公共サービスに対する住民ニーズの高まり、SDGsに向けた取組など、新たに対応すべき課題が次々に発生している。

また、現在の「第2次総合計画」は令和5年度末に計画終期を迎えようとしている。これらのことを踏まえ、近年の本市を取り巻く環境の変化等に対応するため、第2次総合計画に基づく各種施策を検証するとともに、新たな視点と将来展望に立つ「上天草市第3次総合計画（以下「第3次総合計画」という。）」を策定する必要がある。

以上のことから、上天草市振興計画審議会設置条例（平成16年条例第13号）第2条の規定に基づき、第3次総合計画の内容の妥当性について諮問するものである。

2 答申を希望する事項
第3次総合計画の内容の妥当性

3 答申を希望する時期
令和6年2月頃

以上

■ 答申

令和6年2月14日

上天草市長 堀江 隆臣 様

上天草市振興計画審議会
会長 清須美 匡洋

上天草市第3次総合計画の内容の妥当性について（答申）

令和5年1月26日付け上天企第1047号で諮問のあった別添「上天草市第3次総合計画」の内容については、妥当であると認められます。

なお、本計画の実施に当たっては、基本構想で掲げるまちの将来像のもと、持続可能な行財政基盤の確立を進めるとともに、市民や民間事業者など多様な主体と連携・協働し、本計画が推進されることを期待します。

2 語句解説集

用語	解説
■ アルファベット・数字	
AI	Artificial Intelligence の略称。人工知能の総称。
DV	Domestic Violence の略称。配偶者（事実婚、別居を含む）やパートナーなど親密な関係にある、またはあった人から振るわれる暴力のこと。
DX	Digital Transformation の略称。ICT の進化にともない、デジタルデータ、デジタル技術を使い新たなサービスやビジネスモデルを展開することで社会そのものの変革につなげる施策を総称したもの。
ICT	Information and Communication Technology の略称。情報通信技術の総称。
IoT	Internet of Things の略称。様々なモノがインターネットに接続され、情報交換することにより、相互に制御する仕組みのこと。
LGBTQ	Lesbian（女性同性愛者）、Gay（男性同性愛者）、Bisexual（両性愛者）、Transgender（心と体の性が異なる人）、Queer/Questioning（性的指向・性自認が定まらない人）の頭文字をつなげた略語で、いわゆる性的少数者（セクシュアルマイノリティ）の総称。
MaaS	Mobility as a Service の略称。従来の交通手段・サービスに、自動運転や AI などのさまざまなテクノロジーを掛け合わせた、次世代の交通サービス。
PFI	Private Finance Initiative の略称。公共施設等の設計・建設・資金調達・運営を一体的に民間主体に委ねる手法。
PPP	Public Private Partnership の略。公共サービスの提供を民間主体の活力により行うもの。業務委託、指定管理者制度、民営化等をいう。
RPA	Robotic Process Automation の略。コンピューター上で行われる業務プロセスや作業を人に代わり自動化する技術。
SDGs	2015（平成 27）年の国連サミットにおいて採択されたもので「持続可能な開発目標」として、貧困や飢餓、気候変動や平和など広範な分野にわたって 17 の目標が設定されている。
SNS	Social Networking Service の略。インターネット上で共通の趣味を持つ人達との交流を目的としたサービスの総称。
Well-being	ウェルビーイング（Well-being）は、well（よい）と being（状態）からなる言葉。「個人や社会のよい状態」を意味する。
■ ア行	
空き家バンク	空き家の所有者が情報を登録し、本市に住んでみたいという利用希望者に空き家の情報を提供する。
アダプトプログラム制度	公園、道路、緑地、河川などの美化清掃に取り組むボランティア団体に対する支援制度。
インバウンド（観光）	外国人が日本国内に訪れてくる旅行のこと。
イノベーション	革新的な技術や発想により新たな価値を生み出し、社会に大きな変化をもたらすこと。
ウクライナショック	2022 年 2 月に始まったロシアによるウクライナ侵攻に伴い石油や天然ガスなどのエネルギーや小麦・木材の供給が世界的に不安定になっている状況。
エコステーション	資源となる紙類の回収場所。市役所各庁舎及び支所に設置している。

用語	解説
オープンキャンパス	学校へ入学を希望・考慮している者に対して、施設内を公開し、学校への関心を深めて貰おうとするイベント。
■ カ行	
カーボンニュートラル	温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることさす。国では 2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることを目標としている。
かよいの場	地域の住民同士が気軽に集い、一緒に活動内容を企画し、ふれあいを通して「生きがいづくり」及び「仲間づくり」の輪を広げる場所。地域の介護予防の拠点となる場所でもある。
キャッシュレス	現金を使わずに支払い・受け取りを行う決済方法。
グローバル化	政治・経済・文化など、さまざまな側面において、従来の国家・地域の垣根を越え、地球規模で資本や情報のやり取りが行われること。
経常収支比率	地方公共団体の人件費や公債費等の経常的経費のために、地方税や地方交付税等の使途の特定されない経常一般財源がどれだけ充当されるかを示す割合。
国土強靱化	地震や津波、台風などの自然災害に強い国づくり・地域づくりを目指す取組。
健康ポイント制度	市が実施する各種健診(検診)を受診して自分の健康チェックを行うとともに、市が実施する健康イベントへの参加や継続的な運動習慣などに取り組むことで「健康ポイント」がもらえる制度。
■ サ行	
サイクルツーリズム	自転車を活用し周遊する観光。
再生可能エネルギー	石油や石炭、天然ガスなどの限りがある化石燃料でなく、太陽光や風、バイオマス（木材や生ゴミなど再生可能な有機資源）燃料などをエネルギー源とするエネルギー。
サステイナブルシティ	サステイナブルは「持続可能な」の意味でSDGsの推進による環境・経済・社会の持続可能な発展を目指す都市をさす。
シェアオフィス	スペースを複数の企業や個人が共同で利用するオフィス形態。働き方改革とともに時間や場所にとらわれないワークスタイルの浸透にあわせ拡大している。
自主防災組織	住民が地域ごとに団結して、まちぐるみで防災活動を行うための組織。
シティプロモーション	地域のイメージを高め、知名度を向上させる活動のこと。
小地域ネットワーク	身近な地域を単位とし、福祉、保健、医療の関係者と、住民が協働して進める見守り・援助活動。
スマート農業・漁業	AI やロボット技術などを活用することで、従来の農業・漁業にかかった労力の省力化や品質の高い農水産物を管理する新しい手法。
スマート自治体（自治体 DX 化）	AI やロボット技術など ICT を活用して、事務処理を自動化するなど、行政サービスなどを効率的に提供する自治体。
生活困窮者	経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある者。

用語	解説
生活習慣病	不適切な食事、運動不足、ストレス過剰や休養の不足、喫煙、飲酒等の生活習慣に起因すると考えられる病気のこと。代表的な生活習慣病としては、脂質異常症、高血圧、糖尿病、肥満、心疾患、脳血管疾患等がある。
ゼロカーボンシティ	再生可能エネルギーによって稼働される都市、二酸化炭素排出量がなく、温室効果ガス排出において地球に害を及ぼすことはない都市のことをさし、環境省においては、2050年に二酸化炭素（温室効果ガス）排出量を実質ゼロにすることを目指す旨を首長が公表した地方自治体をゼロカーボンシティとしている。
■ タ行	
脱炭素社会	環境負荷の少ない社会活動に実現をめざす温室効果ガスを排出しない社会。
地域おこし協力隊	都市地域から人口減少や高齢化等の進行が著しい地域に移住して、地場産品の開発・販売、農林水産業への従事、住民支援などを行いながら、その地域への定住・定着を図る取組。
地域学校協働活動推進員	地域学校協働活動とは地域と学校がパートナーとなり、地域全体で子供たちの成長を支え、地域を創生する活動のことで、2017年の社会教育法の改正において地域学校協働活動推進員が法制化された。
地域包括ケアシステム	地域の実情に応じて高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、日常生活を営むことができるよう、医療・介護・介護予防・住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される体制。
地球温暖化	二酸化炭素などの温室効果ガスの蓄積という人為的な要因が主因となって、大気や海洋の温度が上昇し、気候が急速に温暖化すること。
地産地消	「地場生産―地場消費」を略した言葉で、地元でとれた生産物を地元で消費すること。
地方創生	東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的とした政策。
デマンド交通	事前の利用予約に応じて運行する地域公共交通システム。
デジタル田園都市国家構想	デジタルの力で、地方の個性を活かしながら社会課題の解決と魅力の向上を図ろうとする政策。
テレワーク	情報通信技術(ICT)を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方。
特別支援教育	障がいのある児童生徒のため、小・中学校等に開設される学級により、障がいによる学習上または生活上の困難を克服するための教育。
■ ナ行	
ニュースポーツ	年齢や体力にかかわらず誰もが楽しめる軽スポーツ。
認知症サポーター	「認知症サポーター養成講座」を修了し、認知症について、正しい知識を持ち、認知症の人への声かけや見守りを通して、住みよいまちづくりを行っていくボランティアのこと。
農地中間管理機構	高齢化や後継者不足などで耕作を続けることが難しくなった農地を借り受け、認定農業者や集落営農組織などの担い手に貸し付ける公的機関。
■ ハ行	
働き方改革	働く人びとが、個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を、自分で「選択」できるようにするための改革。
フードロス	本来食べられるのに捨てられてしまう食品をさす。飲食店や小売店などで廃棄される事業系と家庭における食料廃棄の家庭系に分けられる。

用語	解説
ファミリーサポートセンター	地域において育児や介護の援助を受けたい人で行いたい人が会員となり、育児や介護について助け合う会員組織。
部活動の地域移行	これまで中学校・高校の教員が担ってきた部活動の指導を、地域のクラブ・団体などに移行すること。
ブラッシュアップ	磨きをかける、さらによくする。
ブルーカーボン	藻場・浅場等の海洋生態系に吸収・貯留される炭素のこと。地球温暖化対策における炭素の吸収源の選択肢として注目されている。
ブルーカーボン・オフセット	海洋生態系で取り込まれた炭素（ブルーカーボン）をクレジット化し、市民の日常生活や企業の事業活動で排出しているCO2量のオフセット（埋め合わせ）に活用できる仕組みのこと。
ふるさと納税	ふるさとや応援したい自治体へ寄附をした個人や法人の納税額を軽減する制度。
マイナンバーカード	個人番号が記載された顔写真、ICチップ付きのカード。本人確認証明の役割だけでなく、オンラインバンキングなど様々なオンラインサービスへの利用が拡大している。
マッチング	異なったものを組み合わせること。照合すること。
■ ヤ行	
有害鳥獣	農作物などに被害を与える野生の鳥獣。
■ ラ行	
ライフステージ	人の生涯を幼年期・少年期・青年期・壮年期・老年期などに分けた、それぞれの段階。
■ ワ行	
ワーケーション	「ワーク」（労働）と「バケーション」（休暇）を組み合わせた造語で観光地やリゾート地でテレワーク（リモートワーク）を活用し、働きながら休暇をとる過ごし方。

上天草市第3次総合計画

令和6年3月発行

発行 上天草市

編集 上天草市企画政策部企画政策課

〒869-3692 熊本県上天草市大矢野町上1514番地

TEL 0964-26-5539 FAX 0964-56-4972

上天草市ホームページ <http://www.city.kamiamakusa.kumamoto.jp/>

